1．科目名（単位数）	量的教育研究法／心理統計学演習（2 単位）	3．科目番号	EDMP5222 EDMP5342
2．授業担当教員	【池袋】中園　長新　【名古屋】内藤　伊都子		
4．授業形態	講義、演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	研究方法として数量的アプローチを考えている場合に、リサーチデザインや実際の調査、分析、分析結果の意味の解釈および修士論文執筆に際し必要となってくる心理統計の基礎的な内容を扱っていく。統計解析ソフト SPSS を使用しながら、実際のデータを使って各テーマの分析をおこなっていく。段階的に進めていくため、前半はゆっくり丁寧な解説をしながら基本を定着させ、受講者の理解の進度を見ながら、より専門的な分析や受講者が必要とする分析を扱ったりするなど、検定内容を調整しながら進めていく。		
8．学習目標	1　修士論文を作成する際に必要となる基礎的な心理的統計手法を理解できるようになる。 2　実際に扱った検定を使用して分析をすることが可能となる。 3　分析した結果について意味を解釈できるようになる。		
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	講義で扱った検定を使用して自身で分析をし、その内容について調査レポートを作成する。 詳細については、授業内で指示する。		
10．教科書・参考書 ・教材	【教科書】 石村貞夫・石村光資郎 著『SPSS による統計処理の手順 第 8 版』東京書籍、2018 年。 石村貞夫・石村友二郎 著『SPSS による多変量データ解析の手順 第 5 版』東京書籍、2016 年。 その他、資料は適宜配付する。 【参考書】 内田治 著『すぐわかる SPSS によるアンケートの多変量解析 第 3 版』東京書籍、2011 年。 石村貞夫・石村光資郎 著『SPSS による分散分析と多重比較の手順 第 5 版』東京書籍、2015 年。 小塩真司 著『SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第 3 版』東京書籍、2018 年。 小塩真司 著『研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第 2 版』東京書籍、2012 年。 酒井麻衣子 著『SPSS 完全活用法 データの入力と加工　第 4 版』東京書籍、2016 年。 杉山髙一・藤越康祝・小椋透 著『多変量データの統計科学 1　多変量データ解析』朝倉書店、2014 年。 その他文献は授業内で紹介する。		
11．成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1　修士論文を作成する際に必要となる基礎的な心理的統計手法を理解できるようになったか。 2　実際に扱った検定を使用して分析をすることが可能となったか。 3　分析した結果について意味を解釈できるようになったか。 ○評定の方法 分析の実技　　５０％ 課題発表　　３０％ 調査レポート　２０％ これらを総合的に評価する。		
12．受講生への メッセージ	実際にSPSSを動かしながら段階的に各検定を進めていくため、授業に出席し、わからないことがある場合は放置せず、質問するなど積極的に参加していくことが肝要である。 本科目で扱うのは数理統計ではなく心理統計であるため､難しく考え過ぎずに実際のデータから慣れていくこと。		
13．オフィスアワー	初回の授業内で通知する。		

14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	人間を情報源とした調査の方法

【学習の目標】多様な研究方法や量的方法の特徴について理解を深め、自身の研究テーマとあわせて方法を検討する。
【学習の内容】科目への導入として、教育を研究するにあたりどのような方法が可能であるか、科学的調査にはどのような方法があるかなどを踏まえ、量的方法の特徴について概説する。
【キーワード】実験法、観察法、面接法、質問紙法、リサーチデザイン　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

2．テーマ	心理統計の考え方

【学習の目標】心理統計の基礎的な考えた方をおさえながら、統計の用語に慣れていく。
【学習の内容】心理統計としての基礎的な考え方について解説していく。
【キーワード】背理法、帰無仮説、有意水準、母集団、サンプリング　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

3．テーマ	データの入力と加工

【学習の目標】データを入力し加工して分析用のデータファイルを作成する。
【学習の内容】収集したデータをどのようにデータ化して入力したり分析用に加工したりするか、統計分析するためのデータファイルを作成する方法について扱っていく。
【キーワード】質的データ、量的データ、名義尺度、順位尺度、間隔尺度、比率尺度　など。

【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

4．テーマ	基礎統計量

【学習の目標】キーワードのような統計用語についてその意味を確認し理解を深める。
【学習の内容】記述統計や度数分布などの統計処理の手続きと算出された数字の意味について解説していく。
【キーワード】平均、標準偏差、分散、最頻値、中央値、最大値、最小値、度数分布表　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

5．テーマ	対応のない 2 群の平均の差の検定

【学習の目標】2 群の平均の差が統計的に意味のある差であるのかどうかについて理解できる。
【学習の内容】2 つの母平均の差の検定の統計処理の手続きと算出された結果の解釈について解説していく。
【キーワード】 t 検定、 t 値、母平均の差、有意確率、等分散性の検定　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

6．テーマ	対応のある 2 群の平均の差の検定

【学習の目標】対応のないデータと対応のあるデータの違いについて理解できる。
【学習の内容】データが対応している場合の 2 つの母平均の差の検定の統計処理の手続きと、算出された結果の解釈について解説していく。
【キーワード】対応のあるデータ、両側検定、片側検定、自由度、相関係数　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

7．テーマ	因子分析（1）手続き、回転方法

【学習の目標】いくつかの変数の背後に潜む共通因子を探り出す手法について理解できる。
【学習の内容】因子分析の統計処理の手続きと回転方法について解説していく。
【キーワード】因子、標準得点、因子構造、バリマックス回転、プロマックス回転、最尤法、最小二乗法　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

8．テーマ	因子分析（2）因子の抽出方法、因子の意味の解釈

【学習の目標】因子分析の操作と抽出方法、下位尺度としての因子の扱いについて理解できる。
【学習の内容】因子分析の方法や分析後の因子の抽出方法、因子の命名、尺度の信頼性などについて解説していく。
【キーワード】固有値、累積寄与率、因子負荷量、因子間相関、因子プロット、下位尺度、クロンバックのアルファ係数　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

9．テーマ	一元配置の分散分析

【学習の目標】3 群以上の母平均の差の分析方法について操作し、結果が解釈できる。
【学習の内容】対応のない因子の分散分析と多重比較の統計処理の手続きと、算出された結果の解釈について解説していく。
【キーワード】一要因、分散分析、F 値、多重比較、Tukey の HSD 検定　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

10．テーマ	反復測定による一元配置の分散分析

【学習の目標】下位尺度として対応のない因子および対応のある因子のデータを扱うことができる。
【学習の内容】対応のある因子による一元配置の分散分析と多重比較の統計処理の手続きと、算出された結果の解釈について解説していく。
【キーワード】反復測定、一般線型モデル、被験者内因子、プロファイルプロット　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

11．テーマ	二元配置の分散分析

【学習の目標】データの種類による分散分析の方法について理解し、二元配置の分散分析の操作ができる。
【学習の内容】分散分析の種類および二元配置の分散分析と多重比較の統計処理の手続きについて解説していく。
【キーワード】二要因、独立変数、従属変数、クラスカル・ウォリスの検定、繰り返しのない二元配置の分散分析　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

12．テーマ	多変量分散分析

【学習の目標】交互作用や主効果などについて理解し、二元配置の分散分析と多変量分散分析の結果が解釈できる。

【学習の内容】多変量分散分析と多重比較の統計処理の手続きと算出された結果の解釈について、二元配置の分散分析の結果とあわせて解説していく。
【キーワード】多変量、交互作用、単純主効果、主効果、シンタックス　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

１３．テ ー マ	重回帰分析

【学習の目標】重回帰分析を理解し、操作と結果の解釈ができる。
【学習の内容】因果関係にある多変量間の関係を表す方程式を求める手法の統計処理の手続きと結果の解釈について解説していく。
【キーワード】重回帰直線、重回帰方程式、重決定係数、標準偏回帰係数　など。
【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。

１４．テ ー マ	分析結果の発表

【学習の目標】自身が分析した内容と結果について説明できる。
【学習の内容】本科目用に自身で設定した内容について分析し、結果の資料を提示しながら発表する。
【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体。
【学習の課題】分析内容や分析結果について、口頭で説明ができるように十分理解しておく。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究で使用予定の検定があれば、統計処理の手続きについて不明な部分がないようにしておく。

１５．テ ー マ	総括、調査レポートの提出

【学習の目標】分析結果を論文レベルで執筆できるようにする。
【学習の内容】これまで扱った検定、分析について全体的に復習をする。
【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体。
【学習の課題】論文執筆を踏まえて、操作の手続きや分析結果の解釈について確認しておく。
【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】最終的に自身の調査分析と修士論文執筆につなげられるように再確認しておく。

1．科目名（単位数）	教育課程特論/カリキュラム開発特論 （2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5234 EDMP5319
2．授業担当教員	鈴木　路子			
4．授業形態	講義		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」の教育内容を、子どもの必要と社会の必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが学校カリキュラム研究の基本的課題である。子ども達が心身ともに健全に豊かに発達することを保障するカリキュラム編成の問題は、学校の教職員が各学問分野の研究者、教育行政の担当者、地域の父母・住民等の協力を得ながら、様々な角度から研究し、周知を集めて改革・改善に取り組まなくてはならない一大事業でもある。こうした視点に立って、本講では、学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読し、さらにこれらと関連したカリキュラムの実践事例の資料等も検討しながら、カリキュラムについて実証的に研究する方法の基礎を理解する。ここでは、改訂の学習指導要領（平成 20 年）で、「生きる力」を育むという理念が、社会においても子ども達に必要となる力であるとして、これからの日本の教育のあり方を決める鍵になるとの考え方が示されたことに注目する。その上で、現在どのようなカリキュラムが学校現場で実践されているのか、その現状を具体的に把握し今日的課題を明らかにする。1996 年の中央教育審議会答申で提示された学校・家庭・地域社会の連携による教育の充実に注目する。さらに、平成 29・30 年の改訂による社会に開かれた教育課程、「カリキュラム・マネイジメント」の実現、学習指導要領改訂の考え方の変遷を学び、履修院生の自国のカリキュラムを自主学習し、国際比較を行うと共にこれからの先の人類の生活生存にとっての生きる力を地球レベルで考え、開発する。			
8．学習目標	1．学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読する。 2．文献資料の要点を読解し、最近の改革動向をも含め学校カリキュラム研究の基本的知見を整理する。 3．学校カリキュラムについて実証的に研究する方法の基礎を理解する。 4．「総合的な学習の時間」の実践例を分析し、「総合的な学習の時間」の効果的なカリキュラムを提示。 5．カリキュラムの概念とその系譜を理解する。 6．ESD、SDG s について、理解し、現在の教育課程が、どのように寄与しているかを検討する。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	①わが国の学校カリキュラムを支える思想がどのように変遷しどのように展開されたか、その今日的意義と課題は何かについて述べよ。 ②カリキュラム編成の規定要因とそれらが教師の教育活動に与える影響について述べよ。 ③総合的な学習の時間の意義と課題について述べよ。			
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】 山口満編著『第二版カリキュラム研究』学文社、2005 【参考文献】 Becker,H.S.et al.(1961) Boys in White:Student culture in medical school,Univ. of Chicago Press. Filer,A.(2000)Assessment:Social Practice and Social Product,Routledge Falmer. 田中統治編「カリキュラム評価の考え方・進め方」教育開発研究所 安彦忠彦編「新版カリキュラム研究入門」勁草書房			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 各種カリキュラム開発理論を各自の研究課題として理解することが出来る。 カリキュラム開発の目的・内容方法・評価について、学習者の発達段階の応じた系統性・順次生を理解する。 ○評定の方法 教育目的・目標、方法、結果の評価に関する時代変遷を認識し、現在に至っているかを対話の中からその変容を把握できる。 各自の研究目的方法内容をカリキュラム開発研究と関連しているかを考え、展開することが出来る。			
12. 受講生への メッセージ	新しい学習指導要領の掲げる理念である「知識・技能を活用する能力」「学習意欲や学習習慣」「生き力」などを子どもの身につけさせることのできる高い専門性と力量を持った教師・研究者になるためには、教育課程について法令、歴史、理論、実践などの観点から多角的に研究することが不可欠である。院生一人ひとりの学習に沿いながら教師はそのコーディネーターの役割をつとめるので準備と積極性が望まれる。			
13. オフィスアワー	オフィスアワーの時間は掲示する。			

14　学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題、学習する上でのポイント等】

1～3.テーマ	カリキュラム開発の理論と方法

【学習の目標】カリキュラムの概念とその開発理論について研究を深める。
【学習の内容】 カリキュラムの概念、カリキュラム開発の今日的な課題、
カリキュラム開発の方法（SBCD によるカリキュラム開発法のとらえ方）
カリキュラム開発の三つのモデル、カリキュラムの効果研究の課題
【キーワード】カリキュラムの概念、カリキュラム開発、カリキュラム開発の方法、カリキュラムの効果
【学習の課題】カリキュラムの基本的な考え方や基礎理論について文献を講読し研究を深める。わが国の学習指導要領の変遷と、それに伴って教育課程がどのように改革されたか、総合的な学習の時間がどのように構想され展開されたか、さらにはカリキュラム開発の方法について研究し、その今日的課題について考察する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

4～6.テーマ	カリキュラム開発の歴史的成果

【学習の目標】教育課程を支える思想について研究を深める。教育課程の異なる重要な要素として、子どもの成長や生活を重視する立場（経験主義）と科学・学問の理論体系を重視する立場（系統主義）との二つが取り上げられる。こうした思想はどのような時代背景のもとで提唱され、批判されたのか、また今日的な意義と課題は何かを考察する。
【学習の内容】コア・カリキュラム、経験主義カリキュラム、系統主義カリキュラム児童中心カリキュラム、
学問中心カリキュラム、カリキュラム類型、2008 年改訂の教育課程観　総合的な学習の時間の創設と課題
【キーワード】経験主義、系統主義、コア・カリキュラム、カリキュラム類型、総合的な学習の時間、生きる力
【学習の課題】カリキュラムには様々な考え方がある。子どもの何をのばしたいか、子どもに何を伝えたいかによっても違ってくるし、何を重視するかによってカリキュラムの中身も異なってくる。諸外国と対比しつつ、日本においてはカリキュラム開発を支える思想がどのように変遷し、どのように展開されたかその問題点は何かについて研究を深め考察する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

7～9.テーマ	カリキュラム評価

【学習の目標】日本において、カリキュラム研究の不可欠の要素として、カリキュラム評価の重要性が認識されるようになったのは、昭和 20 年代に当時の文部省が新教育、経験主義教育を推進し、学校における教育課程編成を強調するとともに、教育課程評価をしっかりするようにとして出された 1951（昭和 26）年学習指導要領からである。その後、1958（昭和 33）年より、学習指導要領が「告示」されるようになって、教育実践に対する拘束性を強めていくなかで、その文書から「教育課程の評価」の項目が削除された。しかし地方分権化の時代を迎えて、「学校を基礎にしたカリキュラム開発」の必要性が強調されるようになってきている。あらためて、「カリキュラム評価」の今日的意義を研究し、今後の新しいカリキュラム評価の方向を考察する。
【学習の内容】 カリキュラム評価とは何か、カリキュラム評価とその対象、意義、目的、視点
学力をどう捉えるか、見えやすい学力・見えにくい学力、今後のカリキュラム評価の課題
【キーワード】カリキュラム評価、対象、目的、意義、課題、学力
【学習の課題】 教育目標の達成がなされたかどうかをみるためには、それがどのように子どもの中に実現されたかが重要なポイントになる。そこには、学力をどう捉えるか、その評価はどうなされるかの問題がある。戦後の日本の学力観の変遷、ならびに諸外国と日本のカリキュラム評価の実態を整理・分析し、これからの望ましいカリキュラム評価のあり方を考察する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

10～12.テーマ	特色あるカリキュラム開発の現代的試み

【学習の目標】2002 年からの総合的な学習の時間の導入に先立って総合的な学習に対する考察が多く行われ、賛否や教育方法が論議されてきた。その多くが教師サイドからの理念や学校における実践事例のケーススタディが中心であった。本講では、「総合的な学習の時間」がどのような経緯で創設され、どのような改訂が行われたのか、その位置づけとねらいは何か、諸外国（特にカナダやドイツ）と対比しながら研究を深める。さらに、各学校で取り組まれている実践事例を収集し検討をくわえながら、その創意工夫や成果を明らかにする。その上でカリキュラムについて実証的に研究する基礎を身につける。
【学習の内容】 「総合的な学習の時間」の位置付けとねらい、総合的学習による学校改革の課題
研究開発学校のカリキュラム開発事例とその評価、特別支援学校のカリキュラム開発事例とその評価
カリキュラム評価を活用した実践事例
【キーワード】総合学習、「生きる力」、研究開発学校・特別支援学校のカリキュラム開発事例、カリキュラム改善事例
【学習の課題】 「総合的な学習の時間」のように学校が創意工夫を凝らして開発している実践事例を収集し検討する。成功した事例だけでなく失敗した事例についても考察して、カリキュラム開発を継続させる要因（学習環境も含めて）を明らかにする。これらの活動を通してカリキュラム調査研究の観点と手法の基礎を習得する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

13～15.テーマ	福祉・保健と連携したカリキュラム開発の試み

【学習の目標】「総合的な学習の時間」は、1998（平成 10）年学習指導要領で新設されたが、その中で、今後の社会を生きる子どもに求められる資質や能力を「生きる力」と名付け、これをバランスよく育成することがこれからの教育に求められるとし、この「生きる力」を育成する柱の一つとして「総合的な学習の時間」が構想された。今では「総合的な学習の時間」は、カリキュラム上の位置づけが一層明確となり、学校教育における重要性がより一層高まっている。
【学習の内容】「総合的な学習の時間」の創設とその内容、総合学習と総合的な学習
2008（平成 20）年学習指導要領での「総合的な学習の時間」の改訂
学習指導要領上の「総合的な学習の時間」の特徴、日本及び諸外国の実践例
【キーワード】総合的な学習の時間、生きる力、学習指導要領
【学習の課題】わが国のみならず諸外国においても総合的な学習は、比較的新しい試みで、従来の教科教育、さらには学校教育全体の改革と結びついて構想されたもので、カリキュラム改革の重要な一つの焦点となっている。しかし、わが国では当初から教育現場において多くの誤解や混乱を招き、専ら特定の教科の知識・技能の修得を図るために費やされたり、運動会の準備などと混同された実践が行われた結果、当初の趣旨が達成されないばかりか、総合的な学習の時間に対する批判が高まったこともあった。こうした経緯をふまえ、カリキュラムにおける「総合的な学習の時間」の位置づけを明確にし、その意義について考察する。また、多くの実践例を分析し、「生きる力」を育むための「総合的な学習の時間」の効果的なカリキュラムを示唆する。
【参考文献】　Lynne E.Yirginia Hayes(2008).Transforming Health Promotion Practice Concepts,lssues,and Applications
（高野順子・北山秋雄監訳「ヘルスプロモーション実践の変革」日本看護協会出版会）
R.P.Liberman,W.J.DeRisi,K.T.Mueser(1992)Social Skills Training for Psychiatric Patients
(池渕恵美監訳『精神障害者の生活技能ガイドブック』医学書院)
奥野英子・関口惠美他著『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル』中央法規

1．科目名（単位数）	教育行政学特論　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5238
2．授業担当教員	【池袋・名古屋】高橋　勝		
4．授業形態	演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	本講義では、教育行政学の理論上の問題を検討するとともに、個々人が享受してきた教育行政・制度に関するものの見方や考え方を問い直すことを目的とする。さらに、今日の教育行政学が対象とすべき教育行政の当面している実践的な諸問題について、文献、資料等を通して検討し、問題解決に向けた討議する力・提案する力を養う。		
8．学習目標	1．現代日本の教育行政の歴史的変遷、課題等について批判的に検討した上で、その経緯や意義について説明することができる。 2．現代日本の教育行政の多様な機能を理解し、その役割について理解した上で、説明することができる。 3．現代日本の教育行政の政策的、理論的課題について認識を深め、自ら課題を見つけ出し、発表することができる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	授業内容について、毎回800字程度のコメントを書いて提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小川正人・勝野正章編『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会、2012 【参考書】小川正人『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会、2010 浜田博文編『教育の経営・制度』一藝社、2014 姉崎洋一他編『解説 教育六法・2021（令和 3）年版』三省堂、2020		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 出席率 20%、小課題レポート、最終レポートを総合的に判断する。 ○評定の方法 出席率の他、小課題レポート、最終レポートの内容で中心に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	戦後日本の教育行政の歴史を振り返り、特に 1980 年代から現在に続く教育行政の新しい展開と課題について、資料を用いながら多面的に考察する。		
13. オフィスアワー	授業中に伝える。		

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	教育行政制度の成り立ち

【学習の目標】戦後の教育行政制度がどのようにして構成されたのか、その歴史的経緯を学習する。
【学習の内容】戦後の教育行政制度がどのようにして構成されたのか、その経緯を調べる。
【キーワード】教育行政、戦後の教育改革、教育の民主化、教育基本法（旧法）、学校教育法
【学習の課題】教育行政、戦後の教育改革、教育の民主化、教育基本法（旧法）、学校教育法等の内容を調べる。
【参考文献】　訪日アメリカ教育使節団（村井実訳）『アメリカ教育使節団報告書』講談社学術文庫、1979
【学習する上での留意点】　戦後の教育改革と教育行政制度の理念を詳しく説明する。

2．テーマ	戦後の学校教育制度の改革

【学習の目標】戦後の教育改革で、学校教育制度は単線型に変わったが、その改革の経緯を詳しく学習する。
【学習の内容】学校教育制度は、戦前の複線型から戦後教育改革による単線型へと大きく変わったが、その内容を学習する。
【キーワード】複線型学校教育制度、単線型学校教育制度、教育の機会均等、男女平等
【学習の課題】複線型学校教育制度、単線型学校教育制度、教育の機会均等、男女平等の用語を使って、学校教育制度を説明する。
【参考文献】　木村元『学校の戦後史』岩波書店、2015
【学習する上での留意点】戦前と戦後の学校教育制度を詳しく比較検討する。

3．テーマ	公教育制度の構成原理

【学習の目標】戦後の公教育制度を構成する基本原則を学習する。
【学習の内容】義務性、無償性、中立性等の理念で説明される戦後の公教育制度の成り立ちを学習する。
【キーワード】公教育制度、義務性、無償性、中立性の原則
【学習の課題】公教育制度、義務性、無償性、中立性の原則等の用語を駆使して、公教育制度を説明する。
【参考文献】　浜田博文編『教育の経営・制度』一藝社、2014
【学習する上での留意点】公教育を支える理念を、具体的にわかりやすく説明する。

教育委員会	教育行政の独立性と教育委員会制度

【学習の目標】戦後の教育行政において重視された教育委員会制度の有する意味を学習する。
【学習の内容】一般行政とは区別された教育委員会制度の中で、教育行政が運営される公教育の中立性の理念を学習する。
【キーワード】教育の中立性、教育委員会制度、地方教育行政、レイマン・コントロール
【学習の課題】教育の中立性、地方教育行政、レイマン・コントロール等の語を用いて、教育委員会制度の意味を説明する。
【参考文献】　進藤宗孝『教育委員会――何が問題か』岩波書店、2013
【学習する上での留意点】国の教育行政機関と地方自治体の教育行政機関（教育委員会）との関係についても説明する。

5．テーマ	中央における教育行政機関の組織と運営

【学習の目標】国レベルの教育行政機関の組織と運営を学習する。
【学習の内容】文部科学省における教育行政の組織と運営、及び政策立案と執行の過程を学習する。
【キーワード】文部科学省、組織、運営、政策立案
【学習の課題】文部科学省、組織、運営、政策立案等の用語を用いて、中央の教育行政の運営過程を学習する。

【参考文献】　小川正人・勝野正章編『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会、2012
【学習する上での留意点】国の教育行政の仕組みが、具体的に理解できるようにする。

6．テーマ	地方における教育行政機関の組織と運営

【学習の目標】地方レベルの教育行政機関の組織と運営を学習する。
【学習の内容】地方自治体の教育委員会における教育行政の組織と運営、及び政策立案と執行の過程を学習する。
【キーワード】都道府県及び市町村教育委員会、組織、運営、レイマン・コントロール、政策立案、政策執行
【学習の課題】教育委員会、組織、運営、レイマン・コントロール等の用語を用いて、地方の教育行政の運営過程を学習する。
【参考文献】　小川正人・勝野正章編『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会、2012
【学習する上での留意点】教育委員会の教育行政の仕組みを、具体的に理解できるようにする。

7．テーマ	教育課程行政とカリキュラム開発

【学習の目標】教育課程の編成について、国及び地方公共団体、学校の果たす役について学習する。
【学習の内容】教育課程の編成について、国及び地方自治体、学校がどのような役割を担っているかを学習する。
【キーワード】教育課程行政、カリキュラム開発、学校のカリキュラム経営
【学習の課題】教育課程行政、学校のカリキュラム経営等の用語を調べ、国及び地方自治体、学校の役割を学習する。
【参考文献】　小川正人・勝野正章編『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会、2012
【学習する上での留意点】教育課程行政において、国及び地方自治体、学校の各役割を区別できるように説明する。

8．テーマ	学習指導要領の歴史的変遷

【学習の目標】学習指導要領は、その時代を反映する。学習指導要領（試案）から始まった戦後の学習指導要領の変遷を学習する。
【学習の内容】戦後社会の変化を振り返りながら、学習指導要領の歴史的変遷を学習する。
【キーワード】学習指導要領、試案、法的拘束力、最低基準説
【学習の課題】学習指導要領、試案、法的拘束力、最低基準説等の用語を用いて、戦後の学習指導要領の変遷を説明する。
【参考文献】　木村元『学校の戦後史』岩波書店、2015
【学習する上での留意点】戦後社会の変化に伴って、学習指導要領の内容も大きく変化してきたことを説明する。

9．テーマ	学校組織と学校経営

【学習の目標】学校組織のあり方と望ましい学校経営を学習する。
【学習の内容】学校を一つの組織運営体としてとらえ、学校教育の質の向上を経営の視点からとらえ直すことを学習する。
【キーワード】学校組織、学校経営、マネジメント、リーダーシップ
【学習の課題】学校組織、学校経営、マネジメント、リーダーシップ等の用語を用いて、望ましい学校経営のあり方を説明する。
【参考文献】　小川正人『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会、2010
【学習する上での留意点】教育の質の向上に向けた学校組織と学校経営の望ましいあり方を、具体的に提示する。

10．テーマ	学校組織と教員文化

【学習の目標】学校組織と教員文化の現状と課題を学習する。
【学習の内容】学校組織と教員文化のあり方を、教育行政という視点から捉え直す。
【キーワード】日本と欧米の学校組織、教員文化、専門分化（欧米）、包括主義（日本）
【学習の課題】学校組織、教員文化、専門分化（欧米）、包括主義（日本）等の用語を使って、日本と欧米の教員組織と教員文化の違いを比較検討する。
【参考文献】　小川正人『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会、2010
【学習する上での留意点】日本で教員の働き方改革が、なぜ問題になるのかを考えさせる。

11．テーマ	教職員制度と教員の仕事

【学習の目標】教職員の職務、研修及び専門職としての教員の仕事について、多面的に学習する。
【学習の内容】教職員の職務、研修、教員の仕事の専門的内容について、教員の働き方改革の動向とも関連づけて学習する。
【キーワード】教職員制度、教員の仕事、専門職者としての教師
【学習の課題】教職員制度、教員の仕事、専門職者としての教師等の用語の意味を深く理解できるように学習する。
【参考文献】　小川正人『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会、2010
【学習する上での留意点】日本の教員はなぜ多忙になるのか、その解決策も含めてよくわかるように説明する。

12．テーマ	学校経営をめぐる政策動向

【学習の目標】学校経営とは何を経営するのか、学校教育の質的向上と教職員の取り組み意識の問題から考察する。
【学習の内容】学校経営、マネジメント、校長のリーダーシップが言われるようになった社会的背景を学習する。
【キーワード】学校経営、マネジメント、校長のリーダーシップ、地域との連携
【学習の課題】学校経営、マネジメント、校長のリーダーシップ、地域との連携等の意味を人に説明できるよう学習する。
【参考文献】　浜田博文編『教育の経営・制度』一藝社、2014
【学習する上での留意点】子どもの発達を育み、居場所としての学校という観点を外さないように説明する。

13．テーマ	学校におけるリーダーシップ

【学習の目標】管理職だけでなく、教職員を含めて、望ましいリーダーシップのあり方を学習する。
【学習の内容】子どもの発達を支援し、学校文化をより活性化させるリーダーシップとは何かを学習する。
【キーワード】リーダーシップ、管理職、ミドルリーダー、教職員の参加意識
【学習の課題】リーダーシップ、管理職、ミドルリーダー、教職員の参加意識等の用語を使って、学校の望ましいリーダーシップを学習する。
【参考文献】　小川正人・勝野正章編『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会、2012
【学習する上での留意点】教職員の参加意識を高めるリーダーシップのさまざまな形態を紹介する。

14．テーマ	学校評価と学校改善

【学習の目標】学校評価及び授業改善とは何か。それはなぜ必要なのかを学習する。
【学習の内容】保護者、地域住民、外部識者等により学校評価を行い、次年度の授業改善につなげていくシステムを学習する。

【キーワード】学校評価、授業改善、コミュニティ・スクール
【学習の課題】保護者、地域住民、外部識者等により学校評価を行い、次年度の授業改善につなげていくシステムを学習する。
【参考文献】　小川正人・勝野正章編『教育行政と学校経営』放送大教育振興会、2012
【学習する上での留意点】学校評価は、学校改善のための重要な資料の一部であることを丁寧に説明する。

１５．テーマ	教職の専門性を考える

【学習の目標】教職は専門職なのか。教職を専門職として位置づけるためには、何が求められるのかを学習する。
【学習の内容】教職を専門職として位置づけるためには、何が必要なのかを多面的に検討する。
【キーワード】専門職、教職の自律性、リフレクション、実践の知、臨床の知
【学習の課題】専門職、教職の自律性、リフレクション、実践・臨床の知等の用語を使って、専門職としての教職の条件を考える。
【参考文献】　佐藤学『専門家として教師を育てる――教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店、2015
【学習する上での留意点】専門職の条件とは何か、受講生がそこから思考を進められるように指導する。

1．科目名（単位数）	教育史特論　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5233
2．授業担当教員	【池袋】高橋　勝　【名古屋】石﨑　達也		
4．授業形態	演習	5．開講学期	【池袋】春期 【名古屋】秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	近代における「子どもの発見」の意味することの両義性について、教育思想史的に考察する。都市化と核家族化が進行しはじめたほぼ 18 世紀のヨーロッパに、それまで共同体の中に埋め込まれていた「小さな大人」が、「子ども」という独自な存在として浮上するようになる。この「子ども」という新たな観念の登場が、同時に「教育」(education) という意識の自覚化を促し、「子どもの発達助成」という近代教育思想の原型が形づくられてくることを、資料を用いて説明する。 しかし、この大人から差異化された「子ども」という観念は、二重の意味でポレミシュな問題を生むことになった。第一に、近代学校制度を推進する立場からは、「子ども」の独自性と発達する権利が重視され、「子ども」はまさに未来の担い手として、20 世紀初頭に「子ども中心主義」という世界的な新教育運動を巻き起こした。しかし、大人と共に暮らす「生活者」として子どもを見るならば、「子どもの発見」は、子どもが地域から引き離され、学校空間に囲い込まれて、公教育という制度の網目の中で規律化されていく端緒ともいえるものでもある。「子どもの発見」という、この両義性をどう考えるかを、受講生に深く考えさせる。 近代における「子どもの発見」は、子どもを解放したのか、それとも制度に囲い込んだのかという問題を、主に J. J. ルソー以後の近代教育思想史の展開の中で検討する。この問題は、子どもの発達とは何か、学校の役割は何か、不登校の子どもに大人はどう対応すべきかという、きわめて現代的な問いを投げかけてくる。様々な歴史資料を元に近代教育思想の展開を辿りつつ、その解放性と制度化というパラドクシカルな構造を受講生が深く理解し、検討できるようにすることが、本講義の概要である。		
8．学習目標	「子ども」とは、ヒトをある基準で二分法的に区分けしたときのコトバである。ふだん私たちは、このコトバを自明なことのように使用しているが、そこには歴史的に構築された見えないフィルターが介入している。社会史家、Ph. アリエスの文献によれば、中世のフランスでは、子どもは拡大家族の共同生活の中で、大人たちと質的に変わらない「小さな大人」として育てられたが、商業都市が発達する18世紀になると、都市部では核家族化が進行し、子どもや育児、教育に対する親の教育意識が高まってくる。上流中産階級の間で、育児法や教育法が話題になり、子どもの独自性や未来社会を担う存在としても注目されるようになる。18世紀の啓蒙の時代が子どもに対する「大人のまなざし」の変化を生んだ。欧米の歴史資料を講読しながら、子どもに対する「まなざしの変化」を受講生に実感してもらい、子どもをどのように見るかは、大人自身の「まなざし」が構築するものであることを、受講生が理解できるようにする。さらに、「子どもの問題」とは、実は「大人自身の問題」と不可分であること、そして「大人のまなざし」のありようの解明を抜きにして、「子どもの問題」を語ることはできないことを理解できるようにすることが、学習目標である。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	授業内容について、800字程度の質問やコメントを書いて提出する。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】宮澤康人『〈教育関係〉の歴史人類学』学文社、2011 【参考書】宮澤康人『大人と子供の関係史序説――教育学と歴史的方法』柏書房、1998 高橋勝・下山田裕彦編『子どもの〈暮らし〉の社会史』川島書店、1997 関啓子・太田美幸編『ヨーロッパ近代教育の葛藤――地球社会の求める教育システムへ』東信堂、2009 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009 Ph. アリエス（杉山光信・杉山恵美子訳）『〈子供〉の誕生――アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』みすず書房、1986		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準　出席率 20%、小課題レポート、最終レポートを総合的に判断する。 ○評定の方法 出席率の他、小課題レポート、最終レポートの内容で中心に評価する。		
12．受講生へのメッセージ	前近代社会における子どもは、大人と共に暮らす共同生活者であった。しかし、近代化の進行と共に、子どもは、ますます親、地域の大人たちから切り離され、学校で教育されるようになった。近代教育の誕生とともに始まる「子どもの保護」と「大人世界からの隔離」をどう考えるか。この問題に、「教育の機能的合理化」と「子どもの揺れ動く生」という２重の照明を当てると、一体何が見えてくるのでしょうか。一緒に考えていきましょう。		
13．オフィスアワー	授業中に伝える。		
14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】			
1．テーマ	歴史のなかの子ども		
【学習の目標】　啓蒙、進歩、発達、開発という観念の誕生と子どもという観念の誕生を関連づけて学習する。 【学習の内容】　「子ども」とは、「大人」から区別される必要性が生んだ近代人〈まなざし〉の構築物ではないか。啓蒙、進歩、発達、開発、保護という観念（フィルター）で子どもを見るようになった教育の誕生の時代に照明をあてる。 【キーワード】　進歩、発達、保護、「子どもと」いう観念 【学習の課題】　進歩、発達、保護という観念の誕生と、子どもという観念の誕生を関連づけて学習する。 【参考文献】　Ph. アリエス（杉山光信・杉山恵美子訳）『〈子供〉の誕生』みすず書房、1986 【学習する上での留意点】社会的構築主義の方法を教える。			

2．テ ー マ	小さな大人としての子ども
【学習の目標】	子どもという観念の登場の由来を、社会史的方法で学習する。
【学習の内容】	都市化、貨幣経済、核家族化、進歩、未来という系が進行する中で、子どもに注目が集まることを学習する。
【キーワード】	都市化、核家族化、産業化、子ども、大人、未来、進歩
【学習の課題】	近代化のなかで浮上する子どもという〈まなざし〉を学ぶ。
【参考文献】	J.J.ルソー（今野一雄訳）『エミール――教育について』（上・中・下）岩波文庫、2015
【学習する上での留意点】	「子ども」を実態視せずに、社会史の文脈のなかで「子ども」をとらえる。

3．テ ー マ	大人から差異化された子ども
【学習の目標】	大人から差異化され、社会から隔離されて、教育される子どもの明暗を考える。
【学習の内容】	大人から差異化されて、社会から隔離されて、教育される子どもを考える。
【キーワード】	差異化、保護・教育の対象としての子ども、囲い込まれた子ども、大人との共同性
【学習の課題】	「子どもの発見」が、なぜパラドックスなのか、その理由を詳細に学習する。
【参考文献】	J.J.ルソー（今野一雄訳）『エミール――教育について』（上巻）岩波文庫、2015
【学習する上での留意点】	「子どもの発見」の意味を、歴史の文脈のなかで検討する。

4．テ ー マ	都市化と核家族化
【学習の目標】	都市部における近代家族の誕生を通して、子どもへの愛着の〈まなざし〉と教育意識が高まることを学習する。
【学習の内容】	パリでは、都市化と核家族化の進行によって、多産多死亡の時代から少子化への移行が始まることを学習する。
【キーワード】	出生率の変化、乳幼児の死亡率の変化、母性という観念の構築、近代家族の誕生
【学習の課題】	出生率の変化、乳幼児の死亡率の変化、母性という観念の構築、近代家族の誕生を通して、子どもへの愛着のまなざしを学習する。
【参考文献】	Ph.アリエス（杉山光信・杉山恵美子訳）（1986）『〈子供〉の誕生』みすず書房、1986
【学習する上での留意点】	近代家族、教育家族とは何であったのかを、理解できるようにする。

5．テ ー マ	「教育」という意識
【学習の目標】	身分、属性に応じた無意識的社会化から、子どもの諸能力の開花へ、という教育意識の変化を学習する。
【学習の内容】	身分に関係なく、子どもの知的能力を開き、情操を育てるという「教育」（education）意識は、近代に際立っていることを学習する。「自然の理性化」という啓蒙思想を下地にして子どもの理性化が図られる。
【キーワード】	教育、啓蒙、理性、進歩、未開、野蛮
【学習の課題】	子どもの知的能力を開くという「教育」（education）意識は、近代に際立っており、「自然の理性化」という啓蒙思想を下地にして子どもの理性化が図られることを学習する。
【参考文献】	J.ロック（服部知文訳）『教育に関する考察』岩波文庫、1980
【学習する上での留意点】	「教育」という意識が浮上する時代背景を学ぶ。

6．テ ー マ	自立、発達という意識
【学習の目標】	単に「大人になる」という考え方から、現在の大人を乗り超えて「進歩、発達する」という進歩史観に支えられた子ども観の登場が意味する背景を学習する。
【学習の内容】	子どもは、単に「大人になる」という考え方から、現在の大人を乗り超えて「進歩、発達する」という進歩史観に支えられた子ども観の登場の意味を学習する。
【キーワード】	子どもに負荷された自立（independence）、「発達」（development）という観念の意味を、詳細に検討する。
【学習の課題】	共同体や家族における人々の支え合いという現実を離れて、自立（independence）、「発達」（development）という観念が独り歩きしはじめる理由を考える。
【参考文献】	宮澤康人『〈教育関係〉の歴史人類学』学文社、2011
【学習する上での留意点】	共同存在としての人間という現象学の視点から、自立の問題をとらえ直すように指導する。

7．テ ー マ	子どもの能力を開く学校
【学習の目標】	近代学校の果たした歴史的役割を調べる。
【学習の内容】	近代国家が整備した近代学校の潜在的に有する子ども観、教育観を明らかにする。
【キーワード】	近代学校、人間の完成可能性、知力を開く学校、福沢諭吉の学問観
【学習の課題】	近代学校の啓蒙的側面と社会統合の両側面を調べる。
【参考文献】	高橋勝「〈子どもの世紀〉という逆説――〈子ども〉を大人から差異化する視線」（宮崎かすみ編『差異を生きる』明石書店、2009）
【学習する上での留意点】	近代学校における子ども観と教育観を明らかにする。

8．テ ー マ	対象化された自然
【学習の目標】	近代教育思想において、自然がどのように位置づけられてきたのかを検討する。
【学習の内容】	近代教育思想において、自然＝野蛮、文明＝進歩という二項対立の自然観が、子どもの教育にも反映されていることを検証する。啓蒙の時代では、例外的な自然主義者ルソーの合自然の教育。
【キーワード】	自然、未開、合理性、進歩、知性
【学習の課題】	子どもが自然のカテゴリーから、文明のカテゴリーに囲い込まれていく経緯を調べる。
【参考文献】	浜田寿美男『子どもという自然と出会う』ミネルヴァ書房、2015
【学習する上での留意点】	人間を生命体としてとらえ直すことの重要性を学習する。

9．テ ー マ	開発される自然 ／ 開発される子ども
【学習の目標】	原初の自然や生まれ落ちた子どもを、開発と社会進歩というフィルターで見る〈まなざし〉を相対化する。
【学習の内容】	発達、開発、向上ということが自明視されてきた近代の子ども観を再検討する。
【キーワード】	発達、開発、無限の進歩、生産性の向上
【学習の課題】	子どもを見る近代の大人の〈まなざし〉は、進歩史観、発達史観に枠づけられる傾向が強いことを学ぶ。
【参考文献】	中沢新一『純粋な自然の贈与』講談社学術文庫、2009
【学習する上での留意点】	「開発」に代わる子どもを見る新しい〈まなざし〉は何か、と受講生に問いかける。

１０．テ ー マ	関係生成する子ども
【学習の目標】	多種多様な関係性のなかで、自然に学んでいく子ども。
【学習の内容】	子どもを強固な保護枠の中に囲い込むのではなく、子ども、若者、大人、高齢者の輪の中に溶け込ませることが必要であることを学習する。
【キーワード】	意図的学習、偶発的学習、授業、経験、体験
【学習の課題】	様々な関係性の輪のなかで、試行錯誤を繰り返しつつ学び、育つ子どもを考える。
【参考文献】	真木悠介『気流の鳴る音』ちくま学芸文庫、2003
【学習する上での留意点】	関係を手繰り寄せながら生世界を広げていく子ども、若者の姿を考える。

１１．テ ー マ	子どもの自己活動
【学習の目標】	新教育運動を主導した子どもの「自己活動」という概念について学習する。
【学習の内容】	近代教育思想のキーワードであり、新教育運動を主導した子どもの「自己活動」(Selbsttätigkeit, self-activity)について学習する。
【キーワード】	自己活動、直観、身体感覚、作業
【学習の課題】	近代教育思想のキーワードである自己活動、直観、身体感覚、作業等の概念について学習する。
【参考文献】	長尾十三二編『新教育運動の理論』明治図書、1988
【学習する上での留意点】	活動する存在は、学校をはみ出して社会の中で活躍する。

１２．テ ー マ	イギリスの新教育運動
【学習の目標】	A.S.ニールのサマーヒル・スクール（Summerhill school)を中心に、イギリスにおける新教育運動の展開を学ぶ。
【学習の内容】	教授学校から自由と創造性に溢れた活動学校への転換を調べる。
【キーワード】	ニールのサマーヒル・スクール、活動学校、新教育運動
【学習の課題】	イギリスの中等教育における教授学校から自由と創造性に溢れた活動学校への転換を調べる。
【参考文献】	長尾十三二編『新教育運動の理論』明治図書、1988
【学習する上での留意点】	新教育運動と現代のフリースクール運動のつながりについても調べる。

１３．テ ー マ	ドイツの新教育運動
【学習の目標】	G.ケルシェンシュタイナーを中心に、ドイツにおける新教育運動の展開を学習する。
【学習の内容】	ドイツにおける新教育運動の旗手であったG. ケルシェンシュタイナーがミュンヘン市で行った学校改革を調べる。
【キーワード】	新教育運動、作業（労作）学校運動、作業学校、芸術教育運動
【学習の課題】	ドイツにおける新教育運動の多様な展開を調べる。
【参考文献】	G.ケルシェンシュタイナー／高橋勝『作業学校の理論』明治図書、1983
【学習する上での留意点】	新教育運動と同時期に誕生したシュタイナー学校（R.Steiner　Schule）についても調べる。

１４．テ ー マ	アメリカの新教育運動
【学習の目標】	J.デューイの学校改革を中心に、アメリカにおける新教育運動の展開を調べる。
【学習の内容】	デューイのシカゴ大学附属実験学校における子どもの作業活動中心の学校づくりを調べる。
【キーワード】	シカゴ大学附属実験学校、オキュペーション（occupation,作業)、学校と社会
【学習の課題】	デューイのシカゴ大学附属実験学校のカリキュラムと子どもの作業活動中心の授業展開を調べる。
【参考文献】	J.デューイ（市村尚久訳)『学校と社会／・子どもとカリキュラム』講談社学術文庫、2000
【学習する上での留意点】	現在注目されている「生きる力」とデューイの実験的経験主義は、どこが同じで、どこが異なるのか。

１５．テ ー マ	地球社会における市民形成
【学習の目標】	保護と自由のあいだで揺れ動く近代教育の図式に対して、これからの子ども観と教育観を展望する。
【学習の内容】	「保護されるべき子ども」と「自由に活動すべき子ども」という対立軸の間で揺れ動く現代の教育は、これからどこに向かうべきなのか、を考える。
【キーワード】	「保護されるべき子ども」、「自由に活動すべき子ども」
【学習の課題】	これからの地球社会が求める市民形成に向けて、子ども観と教育観を創造的に捉え直す作業を行う。
【参考文献】	関啓子・太田美幸編『ヨーロッパ近代教育の葛藤――地球社会の求める教育システムへ』東信堂、2009
【学習する上での留意点】	各自の修士論文のテーマにつながるように助言する。

1．科目名（単位数）	教育情報学特論 / 学習理論特論（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5236 EDMP5353
2．授業担当教員	【池袋】小川　英光　【名古屋】鈴木　茂樹			
4．授業形態	講義および演習		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	この講義を履修するためには、物事を漠然とではなく数学的に厳密に考える気力が必要である。			
7．講義概要	教育と学習は表裏一体をなすものである。教育と学習における基本的な問題に、学習とは何か、学習が進むとはどういうことか、それを評価するためにはどうすればよいか、教えられたことを一般化する能力すなわち汎化能力をどのようにとらえればよいか、教えられたことを丸暗記する記憶学習と汎化能力の獲得を目指す学習の関係はどうなっているか等々の問題がある。本講義では、これらの問題を、情報科学の立場から論じる。すなわち、脳の工学的なモデルである人工ニューラルネットワークを用いて「学習する機械を設計する」という問題設定から出発し、これらの問題を、数学的に明確に定式化していく。さらに、その問題設定の基での最適解を求める数学的手法を解説する。			
8．学習目標	次の概念を習得する。 1．人工ニューラルネットワークの構造と機能。 2．学習と汎化能力の関係。汎化能力を評価するための評価基準。 3．各種評価基準に対する最適な学習法。 4．最適汎化能力をもつニューラルネットワークの構成法。 5．記憶学習と最適汎化能力を獲得する学習の関係。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	講義中に指示する。			
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】プリントや関連論文を配付する。 【参考書】小川英光『工学系の関数解析』森北出版、2010 小川英光『擬似双直交性理論：信号・画像処理および機械学習への応用』東京大学出版会、2020			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1．学習の問題を数学的に厳密に議論できるように、学習問題を数学的に定式化できるか。 2．汎化能力をもった学習と記憶学習の間の関係を論じることができるか。 3．学習問題におけるニューラルネットワークの役割を理解できているか。 4．目的と手段を別けて考えられるようになっているか。 ○評定の方法 レポート：80% 出席点（遅刻は減点）：20%			
12. 受講生への メッセージ	教育を受ける目的は、社会へ出て役立つ技量を身につけることである。これは、学校で学んだ事柄を一般化する能力であり、汎化能力とよばれる。一方、学校で習うことを丸暗記する学習は記憶学習とよばれる。記憶学習によって、果たして汎化能力を獲得することができるであろうか。このような問題を数学的にきちんと議論することにより、学習の本質に関わる問題を深く考える習慣を身につけてほしい。			
13. オフィスアワー	火（15:00-16:30）　　水（10:00-11:30）			

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テ ー マ	講義の概要（右脳と左脳，ニューラルネットワークと学習）
【学習の目標】	ヒトの脳とそのモデル化を通じて学習とは何かを考える。
【学習の内容】	ヒトの脳の右脳と左脳の働きの違いを理解し、学習の工学的モデル化を考える。
【キーワード】	右脳と左脳、ニューラルネットワークと学習
【学習する上での留意点】	物事を漠然とではなく論理的に、また定量的に考える習慣をつけること。
2．テ ー マ	層状ニューラルネットワーク（構造・動作原理・表現能力）
【学習の目標】	層状ニューラルネットワークの動作原理を理解する。
【学習の内容】	層状ニューラルネットワークの構造と動作原理、および、ニューラルネットワークの表現能力を学ぶ。
【キーワード】	層状ニューラルネットワークの構造・動作原理・表現能力
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
3．テ ー マ	層状ニューラルネットワークの学習（誤差逆伝搬法）
【学習の目標】	層状ニューラルネットワークの学習方式と、その問題点について学ぶ。
【学習の内容】	誤差逆伝搬法や深層学習とよばれる学習方式と、その問題点について学ぶ。
【キーワード】	ニューラルネットワークの学習、誤差逆伝搬法、深層学習
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
4．テ ー マ	学習と汎化（学習の問題の数学的定式化）
【学習の目標】	学習問題を、層状ニューラルネットワークから離れて、純粋に科学の問題として捉える。
【学習の内容】	純粋に科学の問題として学習問題を論じるための数学的枠組み、すなわち、関数解析的学習理論の枠組みを学ぶ。
【キーワード】	学習、汎化能力、訓練データ、教師信号、学習の評価基準、学習作用素
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。

5．テ ー マ	記憶学習１（記憶学習の概念の定式化と記憶学習作用素の導出）
【学習の目標】	関数解析的学習理論の枠組みの中で誤差逆伝搬法の意味を捉えなおす。
【学習の内容】	誤差逆伝搬法を関数解析的学習理論の枠組で捉えることにより、誤差逆伝搬法が教師信号を丸暗記する記憶学習であることを理解し、記憶学習をおこなう学習作用素を導く。
【キーワード】	誤差逆伝搬法、記憶学習、記憶学習作用素、一般逆
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
6．テ ー マ	記憶学習２（記憶学習の性質）
【学習の目標】	直感的にわかりやすい記憶学習の性質を調べることにより、関数解析的学習理論に慣れる。
【学習の内容】	教師信号に対してのみ正しく答えることができることを保証されている記憶学習と補間の関係、および、汎化能力との関係を調べる。
【キーワード】	記憶学習、補間、汎化能力
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
7．テ ー マ	ウィーナー学習１（ウィーナー学習の概念の定式化と正規方程式の導出）
【学習の目標】	頻繁に現れる学習対象ほど精度良く学習できるウィーナー学習の評価基準について学ぶ。
【学習の内容】	頻繁に現れる学習対象ほど精度良く学習できるウィーナー学習の評価基準を導入し、正規方程式を求める。
【キーワード】	ウィーナー学習、共分散作用素、正規方程式
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
8．テ ー マ	ウィーナー学習２（ウィーナー学習作用素の導出とウィーナー学習の性質）
【学習の目標】	ウィーナー学習作用素の導出とウィーナー学習の性質を調べる。
【学習の内容】	ウィーナー学習作用素を導出し、ウィーナー学習の性質を調べる。
【キーワード】	ウィーナー学習作用素
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
9．テ ー マ	射影学習１（射影学習の概念の定式化と正規方程式の導出）
【学習の目標】	個々の学習対象に対して、それがわからないにもかかわらず、その学習対象に対する最良近似を学習する射影学習の概念について学ぶ。
【学習の内容】	個々の学習対象に対して、それがわからないにもかかわらず、その学習対象に対する最良近似を学習することができるための必要十分条件を求め、射影学習に対する正規方程式を導出する。
【キーワード】	射影学習、正射影作用素、最良近似
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
１０．テ ー マ	射影学習２（射影学習作用素の導出と射影学習の性質・最良近似と補間）
【学習の目標】	射影学習作用素の導出と射影学習の性質を調べる。
【学習の内容】	射影学習作用素を導出するとともに、射影学習の性質を調べる。最良近似と補間の関係を明らかにする。
【キーワード】	射影学習作用素、最良近似と補間
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
１１．テ ー マ	射影学習の層状ニューラルネットワークによる実現
【学習の目標】	関数解析的学習理論で科学の問題として求められた射影学習の結果を、ニューラルネットワークを使って工学的に実現する問題を論じる。
【学習の内容】	ニューラルネットワークには「解の探索空間」と「解の表現空間」という 2 種類の役割があることを明らかにし、関数解析的学習理論では後者の「解の表現空間」が重要であることを示すとともに、射影学習の結果を実現する射影汎化ニューラルネットワークの構成法を論じる。
【キーワード】	解の探索空間と解の表現空間、射影汎化ニューラルネットワーク、中間層の素子数、基底関数、結合荷重
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
１２．テ ー マ	一般の評価基準に対して最適な学習の層状ニューラルネットワークによる実現
【学習の目標】	一般の評価基準の基で最適な学習結果を、ニューラルネットワークを使って工学的に実現する方法を学ぶ。
【学習の内容】	射影汎化ニューラルネットワークの構成法を参考にして、一般の評価基準 J に対して最適な学習結果を実現する J 最適汎化ニューラルネットワークの構成法を論じる。
【キーワード】	J 最適汎化ニューラルネットワーク、中間層の素子数、基底関数、結合荷重
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
１３．テ ー マ	許容性の理論１（記憶学習と汎化能力の関係、許容性の概念の導入、記憶学習と射影学習）
【学習の目標】	汎化能力を要請しない記憶学習によって汎化能力を獲得できる場合があるという一見矛盾した現象を解明するために、許容性の概念を導入し、記憶学習と射影学習の関係を明らかにする。
【学習の内容】	記憶学習と射影学習という 2 種類の学習を考え、射影学習の意味で最適な学習を行うという目的を、記憶学習という手段を用いて実現できるかという問題設定を与える。そして、この枠組みのもとで、汎化能力を要請しない記憶学習によって射影学習という汎化能力を獲得できるための必要十分条件を求める。
【キーワード】	許容性、2 種類の学習、目的と手段

【学習の課題】　配付資料の章末に練習問題が与えてある。 【学習する上での留意点】　一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。	
１４．テ ー マ	許容性の理論２（過学習の理論）
【学習の目標】　誤差逆伝搬法では、学習回数を増やしすぎると逆に汎化能力が低下するという実験結果が数多く報告されている。これを過学習現象という。許容性の理論を用いて、この過学習現象を解明し、その対処法を与える。 【学習の内容】　過学習現象の問題を 2 種類の学習の間の関係というとらえ方をすることにより、許容性の理論を用いて過学習現象に対処する方法を学ぶ。 【キーワード】　過学習、許容性 【学習の課題】　配付資料の章末に練習問題が与えてある。 【学習する上での留意点】　一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。	
１５．テ ー マ	講義のまとめと将来展望（学習理論と他の学問分野との関係）
【学習の目標】　関数解析的学習理論の復習と、他の分野との関係を学ぶ。 【学習の内容】　様々な問題を数学的に明確に定式化することにより、関数解析的学習理論を展開してきた。たとえば、科学と工学の違い、目的と手段の区別、解の探索空間と表現空間の違い等々は、学習理論だけでなく、社会で出会う多くの問題に対処する際にも重要になってくる。この最終回では，そのような問題のとらえ方や、発想の転換の仕方を整理し、他の分野との関わりを論じる。 【キーワード】　科学と工学、目的と手段、解の探索空間と表現空間、発想の転換 【学習する上での留意点】　一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。	

1．科目名（単位数）	教育人間学特論　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5232
2．授業担当教員	【池袋】高橋　勝　【名古屋】石﨑　達也		
4．授業形態	演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	主にドイツ及び日本の教育人間学の方法を用いて、子ども・若者が育つ「場所」としての「自己形成空間」の様態や特徴を考察する。とくにドイツの教育人間学は、現象学及び生の哲学（精神科学）を理論的基盤として構築されているので、この現象学と生の哲学が、人間という生（life , Leben. vie）をどのように見ているのかを詳細に説明する。その際に、生活世界（Lebenswelt)、場所、応答、関係生成等のキーワードをわかりやすく提示する。そしてドイツの教育人間学の強い影響下で構築されてきた日本の教育人間学の諸特徴を説明する。以上述べてきた教育人間学の方法を用いて、現代の子ども・若者の育ちと「生活世界」の成り立ちを受講生に理解させ、これからの子ども・若者の教育と支援の方法を探究していく作業が、本講義の概要である。		
8．学習目標	まず、教育人間学という学問が、ドイツにおいてどのような社会的背景から誕生したのかを説明する。それは、実証的社会科学とマルクス主義が鋭く対立した東西冷戦時代に、科学と進歩を自明の前提としたこれらの科学主義に対して、生命、生活、生（life, Leben, vie）を重視する立場から人間をとらえ直す現象学運動と生の哲学の潮流を引き継ぐかたちで形成されていることを、1970年代に活躍したO.F.ボルノウの教育人間学に関する文献を購読しながら説明する。そこでは、子どもが生きられる場所、出会い、危機的経験、老いと若返り、死と再生、生の気分等、現代の教育人間学が引き継ぐべき豊かな人間的生の地平が記述されていることを受講生に理解させ、生の諸概念を用いて受講生が人間を記述できるように指導する。しかし、東西冷戦が終結する1990年代になると、教育人間学は、構造主義とポスト構造主義の影響を受けて、文化の多様性と共生、他者との応答、多元的アイデンティティ形成等の人間形成論の基礎を担うものになることを、文献や資料購読を通して受講生に理解させる。以上の教育人間学の手法を用いて、子ども、若者、成人の学びと生の変容を記述できるようになることが、本講義の学習目標である。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	授業内容について、800字程度の質問やコメントを書いて提出する。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】高橋勝『経験のメタモルフォーゼ――〈自己変成〉の教育人間学』勁草書房、2007 【参考書】高橋勝『応答する〈生〉のために――〈力の開発〉から〈生きる歓び〉へ』東信堂、2019 高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間――教育人間学の視線から』東信堂、2014 Chr.ヴルフ（高橋勝監訳）『教育人間学入門』玉川大学出版部、2001 臨床教育人間学会編『リフレクション――臨床教育人間学、第 2 巻』東信堂、2007 津守真『子どもの世界をどう見るか』NHK ブックス、1993 遠藤野ゆり・大塚類『さらに、あたりまえを疑え――臨床教育学 2』新曜社、2020		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準　出席率 20%、小課題レポート、最終レポートを総合的に判断する。 ○評定の方法　　出席率の他、小課題レポート、最終レポートの内容で評価する。		
12．受講生へのメッセージ	人間という存在は、さまざまな側面を持ち、矛盾に満ちた複雑な存在でもあるので、その人間を単純化せずに、複雑なままに理解するとはどのようなことかを、一緒に考えていきましょう。		
13．オフィスアワー	授業中に伝える。		

14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	教育人間学とは何か

【学習の目標】　現象学と解釈学の地平から、人間を理解する方法を学習する。
【学習の内容】　理性、自立といった、近代教育学が自明とする人間理解を一旦カッコに入れて、現象学と解釈学の地平から、人間を改めて深く理解する方法を学習する。
【キーワード】　教育人間学、生世界、生の地平、世界内存在、共同主観性
【学習の課題】　教育人間学に独自の人間（子ども・若者・大人）へのアプローチのしかたを学習する。
【参考文献】　遠藤野ゆり・大塚類『あたりまえを疑え！――臨床教育学入門』新曜社、2014
【学習する上での留意点】現象学と解釈学の地平から、人間を理解する方法を詳細に説明する。

2．テーマ	プラトンの洞窟の比喩

【学習の目標】　プラトンの「洞窟の比喩」は、人間が「学ぶこと」の意味を問いはじめた教育史上画期的な出来事であったことを学習する。
【学習の内容】　プラトンの『国家』第 7 巻で語られている「洞窟の比喩」は、人が「学ぶこと」の本質を問うていることを学習する。
【キーワード】　プラトン、『国家』、「洞窟の比喩」、イデア、鎖でつながれた囚人、影絵
【学習の課題】　「洞窟の比喩」で、プラトンは何を言いたかったのかを、深く検討する。
【参考文献】　プラトン（藤沢令夫訳）『国家』（上・下）岩波文庫、2009
【学習する上での留意点】古代ギリシア思想が、現代の教育人間学の問いと深く重なり合うことを体感する。

3．テーマ	理性の哲学から存在論へ

【学習の目標】　ドイツ観念論から基礎的存在論への人間学上の大転換を学習する。
【学習の内容】　I.カント、Fr.ヘルバルト等を頂点とする観念論哲学から、M.ハイデガーの基礎的存在論への人間学上の大転換を学習する。

【キーワード】 カント、Fr.ヘルバルト、M.ハイデガー、基礎的存在論
【学習の課題】 人間そのものを、「規範」から見るのではなく、「存在」から見るという思考の大転換を学習する。
【参考文献】 M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
【学習する上での留意点】人間理解を、「規範のまなざし」から、「存在理解のまなざし」へと転換できるように説明する。

4．テーマ	世界内存在としての人間

【学習の目標】 人間を理性的存在と見なす前に、世界内存在として理解する方法を学ぶ。
【学習の内容】 世界内存在としての人間の実相を詳しく学習する。
【キーワード】 世界内存在、現存在、存在と時間、死の問題
【学習の課題】 世界内存在、現存在、存在と時間、死の問題等の概念が理解できるようにする。
【参考文献】 M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
【学習する上での留意点】難解な哲学用語を、わかりやすく具体的に解説する。

5．テーマ	共同主観的存在としての人間

【学習の目標】 現象学の方法を用いて、共同主観的に存在する人間のありようを深く学習する。
【学習の内容】 共同主観的に存在する人間のありようを、現象学の祖、E.フッサールの著作を通して学習する。
【キーワード】 現象学、共同主観性、世界の共同主観的構築、共同存在
【学習の課題】 現象学、共同主観性、世界の共同主観的構築、共同存在等の概念を学習する。
【参考文献】 E.フッサール（浜渦辰二・山口一郎訳）『間主観性の現象学――その方法』ちくま学芸文庫、2012
【学習する上での留意点】難解な哲学用語が混じるが、具体例を沢山用いれば、わかりやすい。

6．テーマ	生世界（Lebenswelt）を生きる

【学習の目標】 「生」（life.Leben,vie）という語のもつ幅広く多様な意味を学習する。
【学習の内容】 教育人間学においては、「生」（life.Leben,vie）という語がキーワードになることを学習する。
【キーワード】 「生」（life.Leben,vie）、生世界（Lebenswelt）、生きられる世界
【学習の課題】 「生世界」という概念をとおして、子ども・若者・大人の世界を理解していく方法を学ぶ。
【参考文献】 E.フッサール（浜渦辰二・山口一郎訳）『間主観性の現象学Ⅱ――その展開』ちくま学芸文庫、2013
【学習する上での留意点】難解な哲学用語を、わかりやすく解説する。

7．テーマ	共同主観性が生み出す生世界

【学習の目標】 他者との応答で編み上げられる共同主観性の生世界が理解できるようになる。
【学習の内容】 他者との応答で編み上げられる共同主観性の生世界を詳しく学ぶ。
【キーワード】 他者、応答、共同主観性、生世界
【学習の課題】 他者との応答で編み上げられる共同主観性の生世界を詳しく学ぶ。
【参考文献】 E.フッサール（浜渦辰二・山口一郎訳）『間主観性の現象学Ⅲ――その行方』ちくま学芸文庫、2015
【学習する上での留意点】難解な哲学用語を、ていねいに、わかりやすく解説する。

8．テーマ	物語を紡ぐ存在

【学習の目標】 無意識に紡がれる「物語」の世界の成り立ちを考察する。
【学習の内容】 一元性を志向するアイデンティティという語に代えて、広がりと遍歴を示す「物語」が注目されてきた理由を考える。
【キーワード】 アイデンティティ、物語、経験、遍歴、時間
【学習の課題】 物語を紡ぐ人間という視点から、子ども、若者、大人の生世界が理解できることを学ぶ。
【参考文献】 野家啓一『物語の哲学』岩波現代文庫、2009
【学習する上での留意点】 「アイデンティティ」と「物語」という用語の違いがわかるように指導する。

9．テーマ	他者との出会い

【学習の目標】 自己は単独では成りたたず、他者との応答の過程で、自己という生が編み直されていくプロセスを学習する。
【学習の内容】 自己という生を防御したり、突き崩したりする「他者」という存在の多様な現れを学習する。
【キーワード】 他者、出会い、危機、同化、排除、自己崩壊
【学習の課題】 他者、出会い、危機、同化、排除、自己崩壊等の概念を使って、自己と他者の関係を考え直してみる。
【参考文献】 やまだようこ『人生を物語る――生成のライフストーリー』ミネルヴァ書房、2010
【学習する上での留意点】人の自立を崩したり、再生させたりする厄介な他者という問題を理解できるようにする。

10．テーマ	子どもの生世界

【学習の目標】 現象学の方法で、子どもの生世界を解読する方法を学ぶ。
【学習の内容】 子どもの生世界の成り立ちを、現象学的に解読する。
【キーワード】 子どもの生世界、自己、他者、関係、生成
【学習の課題】 子どもの生世界を解読する方法を理解する。
【参考文献】 浜田寿美男『私と他者と語りの世界――精神の生態学へ向けて』ミネルヴァ書房、2009
【学習する上での留意点】 参加観察や記述物の解読方法を学ぶ。

11．テーマ	若者の居場所

【学習の目標】 若者の居場所が、いまなぜ必要なのか、またどのような居場所が求められているのかを学習する。
【学習の内容】 若者が自己を肯定し、安心して居られる居場所の問題を、不登校や引きこもりの事例から考える。
【キーワード】 若者、居場所、不登校、引きこもり
【学習の課題】 不登校や引きこもりの事例を調べ、教育人間学的な解読を進める。
【参考文献】 高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間――教育人間学の視線から』東信堂、2014
【学習する上での留意点】若者の言葉や記録をどのように読み取るかを指導する。

12．テーマ	若者の不登校・引きこもり

【学習の目標】 若者の不登校、退学、引きこもりの原因を教育人間学的に考察する。
【学習の内容】 多くの若者がなぜ不登校、退学、引きこもりになるのか、その理由を検討する。
【キーワード】 若者の不登校、中途退学、引きこもり
【学習の課題】 当事者の視線に寄り添いながら、学校や社会から排除されがちな若者の生世界を解読する。
【参考文献】 高塚雄介『ひきこもる心理、とじこもる理由』学陽書房、2002
斎藤環『承認をめぐる病』ちくま学芸文庫、2016
【学習する上での留意点】当事者の視線に寄り添いながら考えるように指導する。

１３．テ ー マ	経験しつつ変容する生世界

【学習の目標】 一つの自己アイデンティティに縛られず、さまざまな経験に身を委ねるという生き方の大切さを理解する。
【学習の内容】 若者を一つの自己アイデンティティに縛るのではなく、さまざまな経験に身を委ねるという生き方の可能性を学ぶ。
【キーワード】 アイデンティティ、拡散するアイデンティティ、流動する生世界、自己変容
【学習の課題】 自己統合ではなく分散、拡散の受容、固定ではなく流動に身を委ねるという生き方もあることを学ぶ。
【参考文献】 奥地圭子『不登校という生き方――教育の多様化と子どもの権利』NHK ブックス、2005
【学習する上での留意点】さまざまな経験に身を委ねるという生き方を、受講生が理解 f できるように説明する。

１４．テ ー マ	経験のメタモルフォーゼ

【学習の目標】 過剰な自己執着、一元的自己の幻想から解放された「流動する生」のイメージを自分なりに作る。
【学習の内容】 人は、さまざまな経験をかいくぐることによって、生世界は広がりと深まりをみせ、小さな自己執着から解放されることを学習する。
【キーワード】 経験、メタモルフォーゼ、自由自在、自己執着からの解放
【学習の課題】 自己執着から解放される生のイメージを自分なりに考えてみる。
【参考文献】 高橋勝『経験のメタモルフォーゼ――〈自己変成〉の教育人間学』勁草書房、2007
【学習する上での留意点】生の多様な自己生成のかたちをイメージできるか。

１５．テ ー マ	教育人間学が開示した生の世界

【学習の目標】 教育人間学の方法で、子ども、若者、大人、高齢者を見ると、何が見えてくるのかを再考する。
【学習の内容】 現代教育において、教育人間学という学問の重要な役割を明らかにする。
【キーワード】 教育人間学、リフレクション、臨床教育学
【学習の課題】 教育人間学という学問の方法で、子ども、若者、大人、高齢者を見ると、何が見えてくるのかを深く考える。
【参考文献】 臨床教育人間学会編『リフレクション――臨床教育人間学、第 2 巻』東信堂、2007
【学習する上での留意点】受講生に、教育人間学の奥深さが体感できる学びになったかを考えてもらう。

1．科目名（単位数）	生涯学習・社会教育学特論　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5239
2．授業担当教員	【池袋】手打 明敏　【名古屋】小野 智一		
4．授業形態	講義・演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	「生涯教育・生涯学習」という考え方は、1960 年代以降にわが国に導入され、教育改革の原理として成人継続教育としてキャリア教育、リカレント教育などに反映されている。この考え方は、学校外教育、社会で行われる教育を対象とする「社会教育」と通じるところがあり、わが国の「社会教育」概念を豊かに発展させる理論的・実践的基盤として理解されている。 本講義では、「生涯学習・社会教育」に関する理論ならびに歴史的、政策的変遷について国際比較の観点から概説する。同時に、地域社会の住民の学習活動を支える専門職員である「社会教育主事」「司書」「学芸員」の役割について学び、学校と地域との連携や行政・民間レベルでの様々な取り組みを通じて、実践的研究課題について理解を深めることを目指す。		
8．学習目標	本講義では、わが国の社会教育の考え方や、歴史的形成過程について理解するとともに、「生涯教育・生涯学習」の国際的動向について理解し、生涯学習・社会教育分野の研究動向を理解し、受講生自身が研究課題を明確化することを目標とする。 そのため、以下の学修目標を設定する。 １）「生涯学習・社会教育」を支える理論・思想を理解し、自らの研究課題の理論的、思想的意義を明確にすることができる。 ２）「生涯学習・社会教育」の現代的意義を理解し、学校と地域の連携や行政・民間団体等の学習支援活動の役割を理解し、直面している実践課題を明確にすることができる。 ３）「生涯教育・生涯学習」の国際的動向について理解し、研究課題を明確化することができる。 ４）以上の学修をふまえ、みずからの研究課題を設定できる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	【アサイメント】 テーマに関連した文献、資料を読み、授業で発表・討議する。 【レポート課題】 関心のあるテーマを選び、レポートを作成する。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】 手打明敏・上田孝典編著『社会教育・生涯学習』ミネルヴァ書房、2019. 【参考書】 授業中に指示する。		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 生涯学習・社会教育に関する研究動向を理解し、現代的課題を明示できる。 生涯学習・社会教育に関する実践事例の意義と課題を理解できる。 ○評定の方法 出席・授業態度（20%） アサイメント（30%） レポート課題（50%）		
12．受講生へのメッセージ	生涯学習・社会教育の対象者は在学青少年から成人、高齢者まで多様です。学習者の学習課題を理解するには社会教育学のみならず心理学、社会福祉学などの知見も求められます。受講生の皆さんは幅広い関心をもって授業に参加してください。		
13．オフィスアワー	別途通知する		

14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	社会教育・生涯学習と学校Ⅰ
【学習の目標】	社会教育・生涯学習と学校の関係について理解する。
【学習の内容】	①生涯教育論の提唱と学校の機能変容について ②生涯学習政策と学校について
【キーワード】	生涯教育、生涯学習、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育
【学習の課題】	生涯教育、生涯学習、社会教育、学校教育の関係について理解する。
【参考文献】	教科書の序章
【学習する上での留意点】	生涯教育から生涯学習への転換について整理する。

2．テーマ	社会教育・生涯学習と学校Ⅱ
【学習の目標】	生涯学習政策と学校の役割
【学習の内容】	生涯学習政策のもとでの学校の役割について
【キーワード】	学社連携、開かれた学校、学社融合、地域連携
【学習の課題】	地域と連携する学校について理解する。
【参考文献】	教科書の序章
【学習する上での留意点】	地域づくりに求められる学校の役割について考察する。

3．テーマ	社会教育・生涯学習と学校Ⅲ

【学習の目標】　「開かれた学校」と社会教育関係について理解する。
【学習の内容】　「開かれた学校」が求められる社会的背景と法的根拠
【キーワード】　教育基本法、地域学校協働活動
【学習の課題】　地域学校協働活動に理解する。
【参考文献】　教科書の第 6 章
【学習する上での留意点】　開かれた学校を支える社会教育の役割について理解する。

4．テーマ	社会教育・生涯学習の思想と歴史

【学習の目標】社会教育の歴史と思想
【学習の内容】　社会教育の成立と思想背景
【キーワード】　社会教育法、公民館
【学習の課題】　日本の社会教育成立の背景と公民館の設置
【参考文献】　教科書の第 1 章
【学習する上での留意点】　日本の社会教育施設の特徴である公民館について理解する。

5．テーマ	世界の生涯学習政策

【学習の目標】　ユネスコの生涯教育論について理解する。
【学習の内容】　ユネスコの生涯教育論と日本への導入について
【キーワード】　国際成人教育会議、学習権宣言、中央教育審議会答申「生涯教育について」
【学習の課題】　国際機関（ユネスコ、OECD）の生涯教育、生涯学習の考え方を理解し日本への導入、展開について理解する
【参考文献】　教科書の第 5 章
【学習する上での留意点】　SDG s とノンフォーマル教育の関係について検討する。

6．テーマ	社会教育・生涯学習の施設と職員Ⅰ

【学習の目標】　生涯学習を支える社会教育施設の理解
【学習の内容】　公民館、図書館、博物館の教育機能
【キーワード】　寺中構想、社会教育法第 20 条、図書館法、博物館法
【学習の課題】　教育機関としての社会教育施設を理解する。
【参考文献】　教科書の第 3 章
【学習する上での留意点】　地域に設置されている社会教育・生涯学習施設を利用して体験的に学んでみる。

7．テーマ	社会教育・生涯学習の施設と職員Ⅱ

【学習の目標】　生涯学習を支える社会教育職員
【学習の内容】　社会教育職員の職務を理解する。
【キーワード】　社会教育主事、司書、学芸員
【学習の課題】　社会教育専門職員と学校教員の学習支援の方法の違いについて検討する。
【参考文献】　教科書の第 3 章
【学習する上での留意点】　公民館、図書館、博物館の専門職員にインタビューして職務内容を理解する。

8．テーマ	地域防災教育の展開Ⅰ

【学習の目標】　地域防災教育における社会教育の役割
【学習の内容】　自然災害（地震、台風）に備える教育課題について理解する。
【キーワード】　防災計画、住民自治、防災文化
【学習の課題】　地域防災教育とは何かを理解する。
【参考文献】　教科書の第 8 章
【学習する上での留意点】　避難所として使われている社会教育施設について確認する。

9．テーマ	地域防災教育の展開Ⅱ

【学習の目標】　地域防災教育の実践事例の検討
【学習の内容】　地域防災教育の実践について理解する。
【キーワード】　ローカル・ナレッジ、避難所、レジリエンス
【学習の課題】　地域防災教育における地域と学校の連携について理解する。
【参考文献】　教科書の第 8 章
【学習する上での留意点】　地域の防災学習施設について調べておく。

10．テーマ	貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育Ⅰ

【学習の目標】　子どもの貧困と教育課題①
【学習の内容】　子どもの貧困の実態と教育課題について理解する。
【キーワード】　相対的貧困、子どもの貧困対策推進法
【学習の課題】　子どもの貧困と相対的貧困を理解する。
【参考文献】　教科書の第 9 章
【学習する上での留意点】　子どもの貧困に関わる情報を調べ、整理しておく。

11．テーマ	貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育Ⅱ

【学習の目標】　子どもの貧困と教育課題②
【学習の内容】　子どもの貧困に対応する社会教育実践を理解する。
【キーワード】　プレイパーク、子ども食堂、社会教育施設
【学習の課題】　子ども食堂の教育的意義を考察する。
【参考文献】　教科書の第 9 章
【学習する上での留意点】　子どもの貧困に対処する社会教育の役割について整理する。

12．テーマ	多様性を包摂する社会教育を目指してⅠ

【学習の目標】	日本社会におけるマイノリティの人権保障―在日韓国・朝鮮人に着目して―
【学習の内容】	第二次大戦後の在日韓国・朝鮮人の民族教育のあゆみを理解する。
【キーワード】	オールドカマー、ニューカマー、川崎市在日外国人教育基本方針、川崎市「ふれあい館」
【学習の課題】	川崎市の在日韓国・朝鮮人教育支援の取り組みを理解する。
【参考文献】	教科書第 13 章
【学習する上での留意点】	日本社会における在日韓国・朝鮮人の歴史を視野に入れて検討する。
１３．テ ー マ	多様性を包摂する社会教育を目指してⅡ
【学習の目標】	多文化共生と社会教育の課題
【学習の内容】	現代日本の多文化・多民族化の状況と教育課題について理解する。
【キーワード】	難民条約、国際識字年、「多文化共生の推進に関する研究会報告」（総務省）、外国人集住都市会議
【学習の課題】	ヘイトスピーチ解消法の意義と課題について
【参考文献】	教科書第 13 章
【学習する上での留意点】	マジョリティにとっての多文化「共生」の意味について検討する。
１４．テ ー マ	受講者の課題レポートテーマの検討
【学習の目標】	本講義を通じて関心をもった課題レポートテーマの明確化
【学習の内容】	受講者のレポートテーマの発表と討論
【学習の課題】	研究テーマの課題を提示する
１５．テ ー マ	受講者の課題レポートの構想発表と検討
【学習の目標】	課題レポート構想案を明確化。
【学習の内容】	課題レポート構想案の発表と討論
【学習の課題】	課題レポートの概要をまとめる

1．科目名（単位数）	学級経営学特論　　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5345
2．授業担当教員	【池袋】藤原　寿幸　【名古屋】鈴木　収		
4．授業形態	講義及び演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	日本の学級集団の特性と、児童生徒個々の学習を促進する学級集団の構造とそのメカニズム、教育力の高い学級集団を育成するための教師のリーダーシップについての理論と方法、学級集団の状態をアセスメントする方法を学ぶ。同時に、学級がうまく機能しない状況に至る学級集団の状態の変化について理解し、その対応の方針について、教員組織のチーム連携や保護者との対応を含めて学ぶ。本講義では、学級経営の全体像を整理して捉えるための理論、アセスメントの具体的な方法、グループアプローチの展開の仕方、学級集団形成と学習指導・生徒指導を折り合わせた対応の在り方、チーム援助の進め方、保護者対応の進め方について、事例研究、ワークショップ、シュミレーション、ロールプレイングの手法を取り入れながら、学習する機会を提供する。また、学生同士が相互交流できる場を数多く設定し、学習活動を促進していきたい。		
8．学習目標	心を豊かにする学年学級経営に関する下記について探究する。 ①　日本の学級集団の特性や学級経営のための基本的な知識を知る ②　教育力の高い学級集団を育成するための教師のリーダーシップについての理論と方法を知る。 ③　学級集団をアセスメントする方法を知る。 ④　学級集団アセスメントに基づいた対応策を考えることができる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	【池袋】現在の学校教育が抱える学級経営上の今日的課題を取り上げ、その対応策について、講義で学んだことをふまえて述べよ。 【名古屋】 課題①　学級集団が求められる二つの機能（働き）について書きなさい。また，学級集団が成立するために必要な六つの条件とそれらが必要な理由を書きなさい。 課題②　あなたが学級担任になったなら、努力したいと考える項目を三つあげ、それぞれの項目を取り上げた理由と、それらの指導のポイントを書きなさい。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】　河村茂雄『日本の学級集団と学級経営―集団の教育力を生かす学校システムの原理と展望―』図書文化社 【参考文献】河村茂雄『生徒指導の理論と実際―改訂版―』図書文化社 代表　高橋哲夫『生徒指導の研究　第三班』教育出版 文部科学省『学習指導要領解説　総則編』　文部科学省『生徒指導提要』		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1．成績の評価は、学習目標の実現度、講義でのディスカッション参加の度合、レポート（小論文）の結果によって決める。 ○評定の方法 2．院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しを求める。 ○評定の方法 ・学習目標の実現度　６０％　　・授業への参加度　２０％　　・レポート　２０％		
12．受講生へのメッセージ	学校においては、児童生徒の健全育成が重要な課題であり、日々の学級経営がその重要な役割を担っています。子ども一人一人の意欲や自己教育力の育成を図りながら「生きる力」をはぐくむための、学級経営の在り方を大いに探究して欲しいです。		
13．オフィスアワー	別途連絡する。		

14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	日本の学校教育の特性

【学習の目標】日本の学校教育の特性について探究する
【学習の内容】世界の学校　日本と英米の学級集団の特性の違い　日米の教師の仕事の違い
【キーワード】世界の学校　日本と英米の学級集団の特性の違い　アメリカの教師の仕事　日本の教師の仕事　機能体と共同体
【学習の課題】日本の学校教育の特性について理解する。
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第１章
【学習する上での留意点】日本と世界の学校教育の特性の相違

2．テーマ	学級集団成立の歴史

【学習の目標】学級集団成立の歴史について探究する
【学習の内容】英米の学級集団制度の成り立ち　日本の近代学校制度の成り立ち　戦争による日本の学級集団の変容
【キーワード】モニトリアル・システム　ギャラリー方式　学制　教育勅語　戦争による日本の学級集団の変容
【学習の課題】学級集団成立の歴史について理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第２章
【学習する上での留意点】学級集団における共同体と機能体という特性

3．テーマ	日本の学級集団の特性に影響を与える学習指導要領の変遷

【学習の目標】日本の学級集団の特性に影響を与える学習指導要領の変遷について探究する
【学習の内容】学習指導要領の変遷の概略　学級経営を考える上での問題
【キーワード】経験主義的学習　系統主義的学習　生きる力　国際学力テスト　学級経営を考える上での問題
【学習の課題】日本の学級集団の特性に影響を与える学習指導要領の変遷について理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第３章
【学習する上での留意点】系統主義的な学習と経験主義的な学習の協調のされ方

4．テ ー マ	学級集団のアセスメントの方法―QU 尺度を用いて―

【学習の目標】学級集団のアセスメントの方法について探究する
【学習の内容】学級集団アセスメント　QU について　QU に基づいた学級経営の方針
【キーワード】学級集団アセスメント　面接法　観察法　QU　学級満足度　学級集団の型　学級崩壊　アセスメントに基づく対応策
【学習の課題】学級集団のアセスメントの方法について理解する。
【参考文献】　『QU とは』（自作資料）
【学習する上での留意点】教師の指導行動と学級集団とのマッチング

5．テ ー マ	日本の学級集団の実態―集団の状態と教育の成果―

【学習の目標】日本の学級集団の実態について探究する
【学習の内容】1 学級の児童生徒数と学力の定着度、いじめの発生率の関係　学級集団の状態別の教育成果の検討
【キーワード】学級集団の状態　ルール　リレーション　望ましい学級集団　学級集団発達　学級状態別の教育成果　いじめ発生率
【学習の課題】日本の学級集団の実態について理解する。
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 4 章
【学習する上での留意点】学級集団の状態と様々な教育効果の関連

6．テ ー マ	日本型の学級集団のメカニズム

【学習の目標】日本型の学級集団のメカニズムについて探究する
【学習の内容】日本型の理想の学級集団の構造　理想の学級集団を形成する教師の具体的な対応
【キーワード】日本型の理想の学級集団の構造　学級集団発達過程　愛他性　集団斉一性　集団凝集性　集団圧　集団同一視
【学習の課題】日本型の学級集団のメカニズムについて理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 5 章
【学習する上での留意点】日本の教師たちが望ましいと考える学級集団

7．テ ー マ	教育現場の学級問題への対処の現状

【学習の目標】教育現場の学級問題への対処の現状について探究する
【学習の内容】日本型学級集団に準じたさまざまな教育集団　大学の新しい取組み・学校化
【キーワード】適応指導教室　単位制高等学校　学級編成　少人数学級　TT　大学生に対する心理教育的援助
【学習の課題】教育現場の学級問題への対処の現状について理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 6 章
【学習する上での留意点】日本型の学級集団制度の問題点についておさえる

8．テ ー マ	現状の日本のガイダンス機能を補う取組み

【学習の目標】現状の日本のガイダンス機能を補う取組みについて探究する
【学習の内容】日本のスクールカウンセラー制度を考える　日本の特別支援教育について考える　教師の精神衛生の実態
【キーワード】日本のスクールカウンセラー制度　日本の特別支援教育　　教師の精神衛生
【学習の課題】現状の日本のガイダンス機能を補う取組みについて理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 7 章
【学習する上での留意点】通常学級における特別支援教育の推進の問題

9．テ ー マ	近年の日本型学級集団形成のむずかしさ

【学習の目標】近年の日本型学級集団形成のむずかしさについて探究する
【学習の内容】現代の子どもたちの実態　現状の学級集団の実態から見る日本の学校教育の問題点
【キーワード】現代の子どもたちの実態　教師の支援の必要レベル　日本の学校教育の問題点　ゆとり教育
【学習の課題】近年の日本型学級集団形成のむずかしさについて理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 8 章
【学習する上での留意点】学級集団の状態を左右する集団斉一性、集団同一視

10．テ ー マ	日本の学校教育のガイダンス機能についての再考

【学習の目標】日本の学校教育のガイダンス機能について探究する
【学習の内容】過去の日本のガイダンスの問題点　日本型の学級集団制度のもとでのガイダンス機能とは
【キーワード】ガイダンス機能　教師のイラショナルビリーフ　教員養成課程の問題点　３つの援助レベル
【学習の課題】日本の学校教育のガイダンス機能について理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 9 章
【学習する上での留意点】日本の生徒指導の概念をおさえる

11．テ ー マ	グループアプローチと学級経営

【学習の目標】グループアプローチと学級経営について探究する
【学習の内容】グループアプローチとは　グループアプローチの考え方を生かした学級経営の実践事例
【キーワード】グループアプローチ　構成的グループエンカウンター　リレーション　スクールモラール
【学習の課題】グループアプローチと学級経営について理解する
【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 10 章
【学習する上での留意点】子どもたちの心理社会的な発達の促進につながるグループアプローチ

12．テ ー マ	不登校の現状、理解と対応

【学習の目標】不登校の現状、理解と対応について探究する
【学習の内容】不登校の現状　不登校への対応
【キーワード】不登校の現状　不登校の定義　不登校児童生徒数とその原因　不登校への対応の視点　予防・開発的な発達援助
【学習の課題】不登校の現状、理解と対応について探究する
【参考文献】　河村茂雄『生徒指導の理論と実際』
【学習する上での留意点】不登校の現状を把握し、理解と対応について具体的に考える

１３．テ ー マ	いじめの現状、理解と対応
【学習の目標】いじめの現状、理解と対応について探究する 【学習の内容】いじめの全般的動向　いじめの実態調査　いじめへの対応 【キーワード】いじめの現状　いじめの定義　いじめの認知件数とその原因　いじめへの対応の視点　予防・開発的な発達援助 【学習の課題】いじめの現状、理解と対応について理解する 【参考文献】　河村茂雄『生徒指導の理論と実際』 【学習する上での留意点】いじめの現状を把握し、理解と対応について具体的に考える	
１４．テ ー マ	日本の教師のリーダーシップ行動
【学習の目標】日本の教師のリーダーシップ行動について探究する 【学習の内容】教師の代表的なリーダーシップスタイル　共同体と機能体の特性を両立させるむずかしさと管理的な教師 【キーワード】リーダーシップの代表的な要件　PM 理論　P 機能　M 機能　勢力資源　管理的な教師 【学習の課題】日本の教師のリーダーシップ行動について理解する 【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』第 11 章 【学習する上での留意点】日本の学級集団で求められる教師の指導行動のあり方	
１５．テ ー マ	これからの学級経営の在り方のついて考える
【学習の目標】これからの学級経営の在り方についてマネジメントの方向性を探究する 【学習の内容】生きる力　日本の学級集団の特性　学級集団アセスメントに基づいた対応　学級集団の状態　教師の指導行動 【キーワード】生きる力　日本の学級集団の特性　学級集団アセスメントに基づいた対応　学級集団の状態　教師の指導行動 【学習の課題】学級経営の課題を抽出し、自己の学級経営の方向を論述する 【参考文献】　河村茂雄『日本の学級集団の学級経営』 【学習する上での留意点】授業を評価する	

1．科目名（単位数）	教育情報メディア演習　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5349 EDMP5352
2．授業担当教員	【池袋】柴田　隆史　【名古屋】鈴木　茂樹			
4．授業形態	演習・ゼミ形式		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	コンピュータの技術進歩に伴い、教育における情報メディアの使われ方も変化している。古くは黒板やOHP、テレビなどが使われていたが、現在ではパソコンやデータプロジェクター、高精細テレビなどといったデジタル情報機器に置き換わってきている。また、ソフトウェアに注目すれば、これまでは一方的だったコンテンツが、双方向性を伴った会話型コンテンツに変わってきた。情報メディアの活用により教育効果を高めるために、今日の学校現場では効果的にメディアを用いた新しい学習環境を提案・実践する能力が教員に求められる。本講義では、まずマルチメディアの教育利用に関する先行研究について調べ、その内容に関してディスカッションすることで、教育情報メディアと研究の進め方について理解を深める。また、デジタルコンテンツの特徴や技術などに関しても扱い、自分でコンテンツ制作して授業や実験に利用するための演習を行う。			
8．学習目標	特に興味がある教育情報メディアに関する話題について調査を行い、集めた情報を整理・理解・分析をして、それをプレゼンテーションするための技術を磨くことを目標とする。加えて、学術論文を読み書きする科学的基礎力を身につけることを目指す。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに出す課題に対するディスカッションなどを経て、最終的にプレゼンテーションあるいはレポート作成をする。調査や検討などを授業時間外に行うこともある。			
10．教科書・参考書 ・教材	【教科書】資料を適宜配布する。 【参考書】授業内で適宜紹介する。			
11．成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 ・学術論文を読み書きする基礎力が身についているか ・教育に関する情報メディアの現状について理解しているか ・教育メディアに関する話題について調査し、分析した結果を効果的に報告することができるか ○評定の方法 出席状況や授業への取り組み、課題により総合的に評価する。 授業参加 30% 課題（プレゼンテーション） 30% 課題（提案内容報告） 40%			
12．受講生への メッセージ	本講義では、学生が積極的に議論に参加して、自ら考えることに主体をおきます。それは研究や教育において極めて重要なことだと考えています。教育現場におけるメディアや情報機器の利用に興味をもっている学生の参加を期待します。			
13．オフィスアワー	初回授業で伝える。			

14　学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	イントロダクション：講義内容の確認、履修者の知識確認、質問・相談
【学習の目標】	情報メディアとは何か？を理解する。
【学習の内容】	情報メディアの歴史に関する講義。
【キーワード】	情報メディア
【学習の課題】	講義で学習したことをまとめる
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	情報メディアとは何か調べておくこと
2．テーマ	メディアを教育に利用した研究事例の紹介
【学習の目標】	将来教育現場で使われるであろう様々な情報メディアについて学習する
【学習の内容】	最新の情報メディアに関する講義
【キーワード】	教育、情報メディア
【学習の課題】	講義で学習したことをまとめる
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	現在教育現場で使われている情報メディアについて調べておく
3．テーマ	情報メディアを使うための基礎技術やデバイス、インタフェースなどの解説
【学習の目標】	タブレット型デバイス・スマートフォンとインターネットを組み合わせた情報メディアの活用方法を理解する
【学習の内容】	タブレット型デバイス・スマートフォンを用いた演習
【キーワード】	タブレット型デバイス・スマートフォン、クラウド
【学習の課題】	講義で学習したこと、デバイス活用のメリット・デメリットをまとめる
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	クラウドコンピューティングについて調べておくこと
4．テーマ	教育メディアに関する論文を基にした研究の進め方と論文に関する解説
【学習の目標】	研究成果の記録、論文の構成について学習する
【学習の内容】	論文の書き方に関する講義
【キーワード】	論文の書き方、参考文献
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	論文を書くには何が必要か調べておくこと
5．テーマ	情報メディアを教育に利用した先行研究のリサーチと理解 (1)
【学習の目標】	これから導入される教育情報メディアについて調査する
【学習の内容】	教育に関する展示会の調査
【キーワード】	教育情報メディア、展示会
【学習の課題】	可能ならば展示会に参加をすること
【参考文献】	講義で使用する教材

6．テ ー マ	メディアを教育に利用した先行研究のリサーチと理解 (2)
【学習の目標】 論文の検索方法について学習する 【学習の内容】 論文検索に関する講義と演習 【キーワード】 論文データベース、cinii 【学習の課題】 複数の論文検索サービスを使って論文を検索する 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 cinii について調べておくこと	
7．テ ー マ	研究事例のまとめ (1)
【学習の目標】 プレゼンテーション資料の作成について学習する 【学習の内容】 プレゼンテーション資料作成に関する講義と演習 【キーワード】 プレゼンテーション、主題 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 これまでに調査したことのうち、一つを人に伝えるとしたら何か？を考えておくこと	
8．テ ー マ	研究事例のまとめ (2)
【学習の目標】 プレゼンテーション資料の作成について学習する 【学習の内容】 プレゼンテーション資料作成に関する講義と演習 【キーワード】 プレゼンテーション、論理的思考 【学習の課題】 発表用資料を完成させて、発表の練習をしておくこと 【参考文献】 講義で使用する教材	
9．テ ー マ	研究事例報告に関するプレゼンテーションとディスカッション (1)
【学習の目標】 プレゼンテーションに必要な知識について学習する 【学習の内容】 プレゼンテーションに関する講義、演習 【キーワード】 視覚効果 【学習の課題】 講義内容を振り返り、発表用資料を作り直すこと 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 プレゼンテーションの練習をして講義に臨むこと	
10．テ ー マ	研究事例報告に関するプレゼンテーションとディスカッション (2)
【学習の目標】 ディスカッションの進め方について学習する 【学習の内容】 ディスカッションの方法に関する講義と演習 【キーワード】 ディスカッション、論点 【学習の課題】 ディスカッションで得た意見は全て記録しておくこと 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 さまざまなディスカッションの方法について調べておくこと	
11．テ ー マ	メディアを活用した教育・教材の提案のための検討 (1)
【学習の目標】 論文作成技術について学習する 【学習の内容】 各事例を様々な側面から検証することに関する講義、演習 【キーワード】 論文作成技術、アカデミックライティング 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 ディスカッションで得た意見を整理しておくこと	
12．テ ー マ	メディアを活用した教育・教材の提案のための検討 (2)
【学習の目標】 論文作成技術について学習する 【学習の内容】 各自の研究事例報告について様々な側面から検証する 【キーワード】 論文作成技術、アカデミックライティング 【学習の課題】 検証の結果をまとめておくこと 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 ディスカッションで得た意見を整理しておくこと	
13．テ ー マ	課題研究　提案内容に関するレポート作成 (1)
【学習の目標】 これまでの調査、ディスカッションを踏まえて、これからの教育情報メディアについてのレポートを作成する 【学習の内容】 論文の書き方に関する講義、レポート作成演習 【キーワード】 論理的思考 【学習の課題】 論文という言葉に注意をしながらレポートを作成すること 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 論文の構成について復習し、必要な材料をそろえておくこと	
14．テ ー マ	課題研究　提案内容に関するレポート作成 (2)
【学習の目標】 これまでの調査、ディスカッションを踏まえて、これからの教育情報メディアについてのレポートを作成する 【学習の内容】 論文の体裁に関する講義、レポート作成演習 【キーワード】 体裁、アカデミックライティング 【学習の課題】 提出するレポートの体裁を整えておくこと 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 論理的な文章とは何かについて学習しておくこと	
15．テ ー マ	全体総括
【学習の目標】 情報メディアの歴史を振り返り、今度の教育に必要なデバイスなどについて考察する 【学習の内容】 講義 【キーワード】 情報メディア 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 これまでに学習した内容の振り返りをしておくこと	

1．科目名（単位数）	特別支援教育特論／学習困難児指導特論（2 単位）	3．科目番号	EDMP5342 EDMP5334
2．授業担当教員	【池袋】柳本　雄次　【名古屋】下出　美智子		
4．授業形態	講義・演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	学習困難を抱える子どもは通常の教育支援だけでなく、特別な配慮と支援を必要としている。学習困難はさまざまな要因が関与し、生成過程も複雑でその様態はきわめて多様である。このため、個別に原因と実態の把握や専門的な対応が要求される。本講義では、種々の学習困難の類型を取り上げ、学習困難に対する特別支援教育に関する研究及び実践の知見を、講義や文献講読を通して学ぶ。		
8．学習目標	1．学習困難の多様性を認識し、関係領域の研究及び実践の知見を理解する。 2．困難の実態把握から課題設定や指導計画立案、その実施と評価・改善のプロセス(PDCA)を理解し、適切に対応できる。 3．教育現場で医学的・心理学的な理論や専門的な技法を個別のニーズに即して応用できる。 4．特別支援教育と関係機関との連携を理解し、協働へのスタンスを持つ。		
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	【アサインメント】 テーマに関連した資料を収集・講読し、授業で意見発表・討議する。 【レポート課題】 関心のあるテーマを選び、レポートを作成する。		
10．教科書・参考書 ・教材	【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 柳本雄次・河合康編著『特別支援教育(第 3 版)一人ひとりの教育訂ニーズに応じて』福村出版、2019. 市川宏伸監修『発達障害キーワード&ポイント』金子書房、2016. 東京都日野市公立小中学校／教育委員会『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍、2010. 玉村公仁彦他編著『キーワード特別支援教育　新版』　クリエイツかもがわ、2019. この他、特別支援教育・学習困難に関連する著書・論文等を随時取り上げる。		
11．成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 学習困難・特別支援教育に関連する研究及び実践の知見を理解できる。 事例に即した指導や協働支援について基本的な知識・技能・態度を習得する。 ○評定の方法 アサインメント(30%) 出席・授業態度(40%) レポート課題(30%)		
12．受講生へのメッセージ	学習困難は、生成プロセスに個体と環境の要因が互いに関連し、その状態像は複雑かつ多様化します。このため、教育には一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別な配慮や支援が必要となります。また、関係する隣接領域(医学・心理学・福祉学)の専門的な知識・技能が求められます。関連の文献を講読して討議しつつ学習困難児の指導、特別支援教育のあり方を共に考えていきましょう。		
13．オフィスアワー	別途通知する		

14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	学習困難とは何か
【学習の目標】	①学習困難の要因と生成プロセスを個体と環境との相互作用の観点から把握する。 ②個体の機能障害、特に発達障害の多様性を理解する。
【学習の内容】	①学習困難について、DSM-5,学校教育法、発達障害者支援法等に基づき、操作的に定義する。 ②学習困難の生成プロセスに関して、ICF の障害概念,情報処理回路から検討する。
【キーワード】	ICF、DSM-5,発達障害、特別支援教育
【学習の課題】	学習困難の概念について討議し、共通理解する。
【参考文献】	『発達障害キーワード&ポイント』
【学習する上での留意点】	学習困難は教育的概念であることを確認すること。

2～3.テーマ	特別支援教育と障害(特別な教育的ニーズ)
【学習の目標】	①特殊教育から特別支援教育への制度的転換について理解する。
【学習の内容】	①特殊教育から特別支援教育への制度的転換の背景要因を知る。 ②特殊教育と特別支援教育とを比較することにより、理念、対象範囲、機能・役割、システムの差異を検討する。
【キーワード】	特殊教育、特別支援教育、発達障害、障害者の権利条約、インクルーシブ教育
【学習の課題】	特別支援教育に関する資料に基づき各自の見解を整理する。
【参考文献】	『特別支援教育(第 3 版)一人ひとりの教育的ニーズに応じて』
【学習する上での留意点】	特別支援教育制度のさらなる進展に着目すること。

4．テーマ	障害の医学的・心理学的研究と医療・治療
【学習の目標】	①障害に関する医学的・心理学的研究による知見を理解する。 ②発達障害の知覚認知・運動・言語・社会性領域における発達の偏よりについて理解する。 ③心理的アセスメントと専門的指導方法について知る。
【学習の内容】	①脳科学研究の知見からみた障害の発症メカニズムについて ②発達障害の知覚認知・運動・言語・社会性領域における発達の偏よりについて ③心理的アセスメントと専門的指導方法について

【キーワード】　機能的核磁気脳画像検査、実行機能、ワーキングメモリー、心の理論、心理検査(WISC-R、K-ABC,ITPA、太田ステージ他)，応用行動分析、SST　自閉症スペクトラム障害
【学習の課題】　医教連携の視点で医学的研究・治療と教育の総合的支援計画を検討する。
実態の評価結果に基づいた指導案の作成を試行する。
【参考文献】　安藤美華代・加戸陽子・眞田敏編著『子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス』、ミネルヴァ書房、2010.
榊原洋一『脳科学と発達障害―ここまでわかったそのメカニズム』中央法規、2007.
尾崎康子編著『知っておきたい発達障害のアセスメント』ミネルヴァ書房、2016.他の文献を参照する。
【学習する上での留意点】　医学的・心理学的情報の教育支援への適用に留意すること。

５～６.テーマ	発達障害等各種障害と教育的支援

【学習の目標】　①教育の観点から捉えた各種障害の概念を明確にする。
②個々の障害児の特徴に応じたさまざまな理論(仮説)と指導方法を知る。
【学習の内容】　①発達障害等各種障害の特徴について確認する。
②発達障害児の指導形態(分離 vs 包摂)、指導方法の活用について討議する。
【キーワード】　特別支援学校(級)、通級(個別)指導、インクルーシブ教育、ＬＤ,ＡＤＨＤ,ＡＳＤ
【学習の課題】　通常学級において各種障害の特徴に応じた指導を実施するために、学校として取るべき体制のことを基本に個人及びグループで学習を進める。
【参考文献】　『通常学級での特別支援教育のスタンダード』
安部博志『発達障害の子どもの指導で悩む先生へのメッセージ』明治図書、2010.
【学習する上での留意点】　脳の機能障害として知的・発達障害との異同を明確にすること。

７．テーマ	知的障害の特徴と教育的支援

【学習の目標】　①感覚・運動機能を活性化し、知的発達を促進させる理論・方法を知る。
②自立と社会参加を図るための人間関係の形成やキャリア発達を図る方法を知る。
【学習の内容】　①知的障害の治療教育について、原点に立ち返りイタール・セガン・モンテッソーリの方法から学ぶ。
②生活・経験に基礎をおく総合的学習や作業・進路指導など、独自の教育方法について討議する。
【キーワード】　知的障害、生理学的教育方法、感覚教育、総合的学習 vs 教科別学習、単元学習 vs 系統学習、
【学習の課題】　知的障害の特性に応じた独自の教育目標・方法のあり方の功罪を究明する。
【参考文献】　柳本雄次監修『これからの知的障害教育』明治図書、2010.
【学習する上での留意点】学習指導要領改訂における知的障害児童生徒の教科の扱いに注目すること。

８．テーマ	疾患・健康障害児の特徴と教育的支援

【学習の目標】　①疾患(病弱)の実態と医療処置による諸活動規制の影響を理解する。
②入院による通常環境からの隔離と対処方法を学ぶ。
【学習の内容】　①起因疾患による学習及び生活環境の困難な実態と改善
②学習困難解決のための院内教育の実践と課題について
【キーワード】　母子分離、学習空白、愛着形成、長期施設入所・ホスピタリズム、院内学級・ベッドサイド授業、医教連携
【学習の課題】　医療による時間制約や環境隔離を解決する具体的方法を討議し、提起する。
【参考文献】　丹羽登監修『病気の子どもの理解のために』　全国特別支援学校病弱教育校長会、2008.
【学習する上での留意点】　病弱教育の最近の変化を抑えること。

９．テーマ	情緒障害・自閉症 ASD の特徴と教育的支援

【学習の目標】　①情緒障害・自閉症とは何か、概念を明確にする。
②場面緘黙の定義・診断・指導について知る。
【学習の内容】　①自閉症は情緒障害かを主題に討議する。
②精神的障害を含め、その教育と医療の連携を検討する。
【キーワード】　情緒障害、自閉症スペクトラム障害、場面(選択的)緘黙、摂食障害
【学習の課題】　情緒障害は脳器質的な要因と心理的・環境的な要因の複合であることを知る。
【参考文献】　『発達障害キーワード&ポイント』、内容に照らし関連する文献を取り扱う。
【学習する上での留意点】　ここでは精神的疾患を含めて、その支援を検討すること。

１０．テーマ	児童虐待の特徴と教育的支援

【学習の目標】　①児童虐待のメカニズムを知る。
②児童虐待の問題解決への対応を学ぶ。
【学習の内容】　①虐待の種類、原因、機序、予防、関係機関の連携方策について
②被虐待児へのカウンセリング技法について。
【キーワード】　世代間連鎖、カウンセリング、児童相談所、児童養護施設、PTSD
【学習の課題】　虐待を発見するポイントを知る。
【参考文献】　杉山登志郎『子ども虐待という第四の発達障害』学研、2007.
町野朔・岩瀬徹編『児童虐待の防止』有斐閣、2012.
【学習する上での留意点】　児童虐待と発達障害との関連に注意すること

１１．テーマ	不登校の特徴と教育的支援

【学習の目標】　①不登校の研究・実践から複雑な機序を理解する。
②不登校改善の支援方法を知る。
【学習の内容】　①不登校の原因・現状について
②不登校の指導方法について
【キーワード】　不登校の原因とメカニズム、養護教諭・保健室、スクールカウンセラー・適応指導教室・カウンセリング、
【学習の課題】　①不登校に至るさまざまな原因と複雑なメカニズムを理解する。
②不登校への対応には医療・心理・教育関係者(保護者を含む)・機関との連携の必要性を認識する。
【参考文献】　小野昌彦『学校・教師のための不登校支援ツール』　風間書房、2013. 他の関係文献を参照する。

【学習する上での留意点】　発達障害によるいじめ・学習不振・不適応が不登校のきっかけになることに留意すること。	
１２．テーマ	身体障害児の機能障害(困難)への教育的支援
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】 【学習する上での留意点】	①ふだんの授業において機能的障害の実態に応じて行われる配慮・支援の実態を知る。 ②試験等の際に障害実態に応じて講ぜられる合理的配慮としての特別な措置(支援)を知る。 ①身体障害の種別に応じて、特別支援学校、特別支援学級及び通常学級において行われるハード面とソフト面の配慮・支援の事項を調べ、基礎的教育環境と合理的配慮に分類する。 ②日常場面でまだ配慮の対応がなく困難な事項について、具現化する方策・手続きを協議し明確化する。 補助用具、支援工学、バリアフリー、手話、点字、基礎的教育環境、合理的配慮、ICT の活用 多様な配慮・支援の事項について、基礎的教育環境と合理的配慮の分類基準、合理的配慮の可否の基準を事例に即して把握する。 文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」の合理的配慮実践事例のデータベースを活用する。 実践事例に関する情報収集作業を受講生が個々に時間をかけて行うこと。
１３．テーマ	外国人児童生徒の特徴と教育的支援
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】 【学習する上での留意点】	①外国人児童生徒の学習及び生活の困難の実態を知る。 ②困難を克服する教育支援の基本的考えと方法を理解する。 ①外国人児童生徒の学校における生活適応と学力問題の状況について ②児童生徒の日本語等の言語・コミュニケーション問題への対応について 学校適応、就学保障、日本語指導、母国語保障、多文化共生教育 異文化理解、多文化共生教育の観点から、外国人児童生徒への問題を捉え、その解決方法を討議する。 宮島喬・太田晴雄編『外国人の子どもと日本の教育』東京大学出版会、2006.　他の文献を参照する。 実体験に基づく具体的な問題解決に取り組むスタンスを持つこと。
１４．テーマ	通常学校における特別支援教育体制の整備(コーディネーターの役割)
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】 【学習する上での留意点】	通常学校で実施されるべき特別な教育的ニーズへの対応を理解する。 ①文部科学省の特別支援教育体制整備の要件について(全国レベルの実施状況) ②各地域(学校)における特別支援の先進的取組について 特別支援教育、合理的配慮、センター的機能・コーディネーター 通常学級における取組のあり方を資料・見学・指導体験を基に議論する。 『通常学級での特別支援教育のスタンダード』 筑波大学附属大塚特別支援学校編『子どもと家族を支える特別支援教育へのナビゲーション』明治図書、2006.他 発達障害教育は通常学級の課題であるという原点に立つこと。
１５．テーマ	地域における関係機関の連携システムの構築
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】 【学習する上での留意点】	多種に及ぶ学習困難に対応する地域の関係領域の協働による連携実態とシステムを理解する。 ①個別の学習困難に対する地域の関係領域の連携組織・活動実態について ②地域の関係領域連携システムのあり方について 教育相談所、児童相談所、保健所、福祉事務所、特別支援学校、障害児入所施設、児童発達支援(療育)センター、 学習困難を教育(学校)問題ではなく、関係領域(機関)の対応するマネジメントから捉え、考察する。 近藤克則『医療・福祉マネジメント』ミネルヴァ書房、2007. 各実践を個別の(教育)支援計画の視点から見直すこと。

1．科目名（単位数）	異文化コミュニケーション演習（2 単位）	3．科目番号	EDMP5364
2．授業担当教員	【池袋】坂井　二郎　【名古屋】内藤　伊都子		
4．授業形態	講義、演習、プレゼンテーション	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。多文化共生やグローバル化が進む国際社会では、どのような対人関係が形成され、その関係間ではどのようなコミュニケーション事象が展開されているのか。 本講義では、異文化の対人関係形成や効果的な異文化コミュニケーションについて考察していく。異文化研究や比較文化研究をする際の問題を取り上げながら、とくに異文化コミュニケーション能力を高めるためのトレーニングなどについて、実践的に進めていく。		
8．学習目標	1　コミュニケーションについて、異文化研究や比較文化研究の方法を実践的に理解することができる。 2　コミュニケーション行動の文化比較をすることの意味を考察することができる。 3　ルールに表された行動の意味を理解することができる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	各回の学習の課題、キーワードについて事前に調べたり考えをまとめたりしておくこと。 各自の研究テーマと異文化コミュニケーションをつなぐ指定文献を講読し、プレゼンテーションを踏まえてレポートを作成する。 詳細は授業内で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料は適宜授業で配付する。 【参考書】 小坂貴志 著『改訂版 異文化コミュニケーションの A to Z-理論と実践の両面から分かる』研究社、2017。 久米昭元・長谷川典子 著『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書、2007. 末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子 編著『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版、2011。 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 日本コミュニケーション学会 編『現代日本のコミュニケーション研究』三修社、2011。 堀洋道 監修・山本眞理子 編 他『心理尺度集 I ～VI』サイエンス社、2001 他。 その他文献は講義内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1　コミュニケーションについて、異文化研究や比較文化研究の方法を実践的に理解することができたか。 2　コミュニケーション行動の文化比較をすることの意味を考察することができたか。 3　ルールに表された行動の意味を理解することができたか。 ○評定の方法 授業への取り組み度　　２０％ モデル案の作成　　４０％ プレゼンテーション　　４０％ これらを総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	異なる文化、多様な文化の人々の行動に興味を持っていることが望ましい。 自身の身近な生活の中にある異文化を意識して人間行動を観察し、関連付けながら受講することを勧める。 講義内容を積極的に聴き、自身の意見や考えについて活発に発信していくこと。		
13. オフィスアワー	初回の授業内で通知する。		

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	異文化コミュニケーションとはなにか

【学習の目標】文化とはなにか、コミュニケーションとはなにかについて改めて理解を深める。
【学習の内容】異文化理解特論の内容を踏まえ、異文化コミュニケーションに影響を与える各要因について概観していく。
【キーワード】文化、コミュニケーション、異文化接触、文化的価値、非言語、不確実性、異文化適応　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は授業内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

2．テーマ	異文化コミュニケーション研究の歴史と異文化トレーニングの誕生

【学習の目標】コミュニケーション学から異文化研究の流れをつかむことができるようになる。
【学習の内容】コミュニケーション学研究の歴史から異文化の視点が取り入れられた背景を概観していく。
【キーワード】オーラル・コミュニケーション、レトリック、哲学者とソフィスト、スピーチ研究　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

3．テーマ	異文化コミュニケーション能力

【学習の目標】異文化の他者とのコミュニケーションや異文化環境下で必要となるコミュニケーション能力について理解する。
【学習の内容】コミュニケーション能力とはなにか、文化特有のコミュニケーション能力と文化に普遍性の高い能力について概観していく。
【キーワード】コミュニケーション能力、異文化コミュニケーション能力、ソーシャルスキル　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。

【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

4．テ ー マ	異文化トレーニングの背景

【学習の目標】異文化トレーニングとはなにか、ルールの違いや行動の意味について理解する。
【学習の内容】異文化トレーニングの始まりや歴史的背景について概観する。
【キーワード】知識学習、体験学習、異文化適応　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

5．テ ー マ	異文化トレーニングの種類

【学習の目標】異文化トレーニングとして実践されている方法について理解する。
【学習の内容】異文化トレーニングの種類やその効果などについて考察していく。
【キーワード】シミュレーション、カルチャー・アシュミュレーター、クリティカル・インシデント、ロールプレイ　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

6．テ ー マ	言語コミュニケーションの実践

【学習の目標】言語コミュニケーション行動に表出される文化的特徴について説明できる。
【学習の内容】文化的な言語コミュニケーションの表現方法や用語の等価性や整合性について解説していく。
【キーワード】論述表現、垣根表現、婉曲表現、断定表現、用語の整合性　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

7．テ ー マ	非言語コミュニケーションの実践

【学習の目標】非言語コミュニケーション行動に表わされた意味や印象について説明できる。
【学習の内容】非言語行動の観察から推察される文化的特徴について解説していく。
【キーワード】準言語–スピード、滑舌、間の取り方、姿勢、視線活動、印象形成　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

8．テ ー マ	クリティカル・インシデントの実践

【学習の目標】疑似的な体験を通して、経験的に知識を習得する。
【学習の内容】クリティカル・インシデントの事例を用いて文化比較をする。
【キーワード】アウェアネス、マインドフル、不確実性、価値観、エポケー　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

9．テ ー マ	クリティカル・インシデントの作成

【学習の目標】自身の経験をもとに、クリティカル・インシデントの教材案を作成する。
【学習の内容】異文化コミュニケーションにおいて問題が発生した場面をエピソードとして説明してまとめていく。
【キーワード】カルチャーショック、適応、期待、DIE メソッド　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

10．テ ー マ	異文化ビジネス研修

【学習の目標】クリティカル・インシデントの教材案をもとに、組織や集団における事案について検討する。
【学習の内容】異文化ビジネス研修の背景や概要について概観する。
【キーワード】異文化経営、意思決定、組織コミュニケーション、異文化交渉、多国籍チーム　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

11．テ ー マ	コミュニケーション能力の測定

【学習の目標】前回までの教材案をもとに、異文化トレーニングのモデル案を検討する。
【学習の内容】コミュニケーション能力を測定する尺度について概観し、能力を高めるためのトレーニングを考察する。
【キーワード】行動尺度、意識尺度、リサーチ・デザイン、探索的調査
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。

12．テ ー マ	異文化コミュニケーションの研究対象と方法

【学習の目標】調査の範囲と限界について理解することができる。
【学習の内容】文化研究の社会調査を実施する際に、どこ、だれ、なにを対象にするのか検討する。
【キーワード】サンプリング、調査地、調査対象者、測定要因、一般化　など。
【学習の課題】調査対象として可能な相手や場所について検討する。
【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。

【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。	
１３．テ ー マ	異文化研究の等価性
【学習の目標】文化を扱うことの意味や比較することの意味について理解を深める。 【学習の内容】文化を比較するとはどういうことか、文化比較のための準備や手続きについて解説していく。 【キーワード】測定方法、バックトランスレーション、地域性、信頼性、ダミー変数　など。 【学習の課題】社会調査のために必要なさまざまな手続きについて準備する。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。	
１４．テ ー マ	プレゼンテーション
【学習の目標】作成してきた異文化コミュニケーションのトレーニング案を説明する。 【学習の内容】作成したモデル案やモデル尺度を使用して、異文化コミュニケーション研究の発表をする。 【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体 【学習の課題】テーマ 12 およびテーマ 13 の学習内容を踏まえ、口頭で説明ができるように十分理解しておく。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究で使用予定の手法があれば、不明な部分がないようにしておく。	
１５．テ ー マ	総括
【学習の目標】ノートや資料、発表内容を整理してレポートが作成できるようにする。 【学習の内容】全体的な復習をし、これまでの発表内容とプレゼンテーション評価をレポートとしてまとめていく。 【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体。 【学習の課題】キーワードを手掛かりに、既習内容について不明な点がないか全体的に確認しておくこと。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は授業内で紹介する。 【学習する上での留意点】これまでの講義内容、発表内容を踏まえてレポートを作成できるようにノートや資料を整理していく。	

1．科目名（単位数）	比較教育文化演習／教育方法学演習 （2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5365 EDMP5318
2．授業担当教員	下出　美智子・片岡　浩			
4．授業形態	講義と演習（デスカッション。グループ学習等）		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし。			
7．講義概要	グローバル化が進む現代、文化的背景の異なる人々と良好な関係を築くためには、互いの文化と出会い知ることは重要な意味を持つ。本講義では、わが国や諸外国における芸術教育（音楽、美術、言語）の文化比較を通して、異文化理解や多文化共生についての学びを深めていく。今回、芸術に特化して論じるのは、芸術は創造的であり、民族の境界を越えて人々に訴え、社会を活性化させていく力があると考えるからである。実際の授業では、諸外国と我が国の音楽フェスティバルや教育、言葉や五感による表現の体験とコミュニケーション、という観点から考察していく。			
8．学習目標	1.我が国及び諸外国の芸術教育の比較・検討を通して、異文化理解や多文化共生の意味について考察する。 2.言語・五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学び、認識（記号的認識、感覚的認識）の意味について考察する。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	授業の事前、事後に配布される論文や書籍を購読し、内容の説明ができるようにしておく。 その他、授業ごとに指示する。			
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】 なし。必要な資料は配布する。 【参考文献】 ・下出美智子『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』風間書房,2016 ・若林忠弘『世界の民族音楽』東京堂出版,2003 ・村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』KK ベストセラーズ,1990 ・臨床美術プログラム			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 ・我が国及び諸外国の芸術教育の比較を通して、異文化理解や多文化共生の意味を探ることができる。 ・言語や五感による表現とコミュニケーションの体験を通して、記号的認識と感覚的認識の意味について理解することができる。 ・これまでの学習を通して理解したことや発見したことをまとめ、レポート発表することができる。 ○評定の方法 日常の授業態度 10%、取り組み（自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢）20%、出席状況 20%、レポート&課題 50%として、総合的に評価する。			
12. 受講生への メッセージ	教師、研究者としての資質・能力の向上に努めてほしい。 研究論文作成に向けて進んで文献・資料の収集や調査を行う等、試行錯誤しながら学びを深めてほしい。			
13. オフィスアワー	事前にメール等でアポイントをとって下さい。			

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	オリエンテーション（授業の進め方、評価について）。比較教育文化論について

【学習の目標】日本人の音の聞き方・捉え方や、科学的・芸術的認識をテーマとした学習を通して、比較教育文化論についての理解を深めていく。
【学習の内容】DVD《日本の音風景》の視聴と「音」の聞き方、捉え方。科学・芸術表現における認識。
【キーワード】音、芸術表現、異文化、比較
【学習の課題】学生間で「音」の捉え方や科学・芸術表現の認識について考え討論できる。
【参考文献】　DVD《日本の音風景》
【学習する上での留意点】要点を整理して自分の考えが発表できるようにすること。

2～4.テーマ	諸民族の音楽文化の比較と多文化共生

【学習の目標】諸民族の音楽文化の比較を通して異文化理解と多文化共生についての意味を探る。
【学習の内容】南アフリカの民族融和をテーマとした音楽フェスティバルの取り組み。
中国内モンゴル大学におけるモンゴル民謡《オルティンドー》の実践。
我が国の高天地区における野外コンサート（アジア・日本の音楽）の取り組み。
【キーワード】諸民族の音楽、比較、共生
【学習の課題】DVD 視聴を通して感じ考えたことを整理し発表することができる。
【参考文献】　DVD《南アフリカの音楽フェスティバル》。DVD《中国内モンゴル自治区のオルティンドーの実践》。
【学習する上での留意点】南アフリカや内モンゴルの基本情報について文献等で調べておくこと。

5～6.テーマ	海外の音楽教育に見る異文化理解

【学習の目標】海外の異文化理解を意識した音楽教育の実践を通して、多文化共生について考える。
【学習の内容】オーストリア・モーツァルテウム（音楽）大学の「子どもシアター」、「打楽器演奏」の授業の実際。
【キーワード】音声言語、リズム、打楽器、異文化
【学習の課題】学習を通して感じ考えたことを整理し発表することができる。
【参考文献】　『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』
【学習する上での留意点】事前に参考文献を読んで予習を行っておくこと。

7～8.テーマ	音声言語（擬音語・擬態語）の多文化比較

【学習の目標】擬音語・擬態語の多言語比較を行い異文化理解に繋げる。
【学習の内容】擬音語・擬態語の発生と風土・文化・教育との関わり。音声言語比較（日本語・ベトナム語・英語等)。
【キーワード】擬音語・擬態語、風土、教育、文化
【学習の課題】学生各自の国の擬音語・擬態語を調べ、言語発生の関わり等の視点から発表することができる。
【参考文献】　村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』
【学習する上での留意点】事前に学習課題について調べ発表出来るようにしておくこと。

9～11.テーマ	表現とコミュニケーション1

【学習の目標】五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学ぶ。
言葉による表現、「記号的認識」と「感覚的認識」の意味合いを探る。
【学習の内容】五感によるモチーフ認識を通して、「記号的認識」と「感覚的認識」の意味合いを体験的に探る。
【キーワード】五感による表現、コミュニケーション、感性、芸術、文化、創造
【学習の課題】講義内容を整理し、レポートとしてまとめ発表できる。
【参考文献】　臨床美術プログラム（資料配布）
【学習する上での留意点】事前に参考文献を熟読しておくこと。

12～14.テーマ	表現とコミュニケーション2

【学習の目標】五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学ぶ。
見えないもの（感性・感覚）を見えるもの（カタチ・色・動作）で表現する。また、第三者から発信されたその情報を読み取る。
【学習の内容】音（音楽）を色とカタチで表現することを試みる。
【キーワード】五感による表現、コミュニケーション、音楽・美術、芸術、文化、創造
【学習の課題】プレゼンテーション・コミュニケーション学習。学んだことを整理し自分の考えを発表する。
【参考文献】　臨床美術プログラム（資料配布）
【学習する上での留意点】事前に、今まで学んだ文献の要点を整理し、自分の考えを発表できるように準備しておくこと。

15．テーマ	これまでのまとめ

【学習の目標】芸術による表現や表現とコミュニケーションについて、これまでのまとめを行い発表する。
【学習の内容】これまでの授業を通して分かったこと、発見したことをまとめレポート発表する。
【キーワード】五感による表現、プレゼンテーション、コミュニケーション、音楽・美術、芸術、文化、創造
【学習の課題】本講義の成果を発表する。
【参考文献】　これまでの資料
【学習する上での留意点】事前にレポートを作成し、指定された時間内に研究成果を報告する。

1．科目名（単位数）	学校看護学特論／学校救急看護学特論	3．科目番号	EDMP5513 EDMP5533
2．授業担当教員	【池袋】石垣　久美子、面川　幸子、八重樫　節子 【名古屋】宋　暁鈞		
4．授業形態	講義、演習、討議	5．開講学期	春期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	学校における看護は、心身の健康の保持増進から命に関わる症例まで、実に幅広い健康レベルを対象としている。また、児童生徒の抱える健康課題が多様化・複雑化している昨今、「チームとしての学校」と家庭、地域、専門機関との連携がより一層強調されるようになった。すなわち学校看護という枠組みにおいても、養護教諭のリーダーシップのもと、子どもを取り巻く生活環境を含めた総合的な健康支援につなげていくことが期待されていると言える。本科目においては、児童生徒の心身の発達過程における看護の理念の重要性に着目し、学校に特化した看護のあり方について深く考察する。また、学校の教育活動の一環としての看護のあり方について議論することを通して、保健室や養護教諭の視点を大事にしながらも、学校全体や地域といったより広い視野からの看護支援について検討する。		
8．学習目標	①代表的看護理論からその本質を捉え、学校という環境に特化した看護のあり方を説明することができる。 ②学校看護の構造について理解し、児童生徒の発達段階や健康課題の特徴を踏まえた看護のあり方について説明することができる。 ③学校看護は、養護教諭をはじめとする学校内外のさまざまな人的資源、社会的資源との連携、ネットワークの中で成り立っていることを理解することができる。 ④学校現場で遭遇する救急事例の分析を通して、症例に対する看護実践を理論的に説明することができる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	5回、8回、10回、11回、13回、14回の【学習の課題】にある課題でレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】講義内容に合わせて適宜資料を配布し、文献を紹介する。 【参考書】中桐佐智子他編著『最新看護学』東山書房、2011 岡田加奈子他編著『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護』東山書房、2012 藤井寿美子他編『養護教諭のための看護学』大修館書店、2008 鈴木路子編著『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社、2014		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ①代表的看護理論を踏まえ、学校という環境に特化した看護のあり方を説明することができたか。 ②学校看護の構造について理解し、児童生徒の発達段階や健康課題の特徴を踏まえた看護のあり方について説明することができたか。 ③学校看護は、学校内外のさまざまな人的資源、社会的資源との連携、ネットワーク（環境）の中で成り立っていることを理解することができたか。 ④学校現場で遭遇する症例に対する看護実践について、理論的に説明することができたか。 ○評定の方法 ・日常の授業態度（発表態度、討論参加状況）等５０％ ・レポート・課題提出５０％		
12. 受講生へのメッセージ	本科目は、学部で学ぶ実践論や技術的演習、養護・看護臨床実習等の現場体験を土台としながら、より学問的視座から学校看護学を追究する。保健室での救急処置の方法論に終始せず、社会福祉や臨床心理学の理論、公衆衛生的学発想など、より広い角度から議論することを期待する。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	児童生徒の健康問題と学校看護の課題①
【学習の目標】	児童生徒の現代的健康課題を踏まえ、これからの時代の学校看護のあり方やその課題について検討する。
【学習の内容】	代表的看護理論から看護の本質を理解し、環境との相互作用の中で子どもの心身の健康の回復、成長、発達が促進されることを理解する。また学校看護における、学校内外の人的、物的、制度的資源の重要性について検討する。
【キーワード】	ナイチンゲールの看護覚書（患者―環境相互作用）、自然治癒力、ヘルスプロモーション、社会的資源
【参考文献】	鈴木路子編著『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社、2014
【学習する上での留意点】	学校看護のリーダーである養護教諭や保健室の視点を柱としながら、学校組織や地域との関係性にも目を向け、より広い視野から看護について考察する。

2．テーマ	児童生徒の健康問題と学校看護の課題②
【学習の目標】	学校救急看護の課題を検討する。課題を明らかにするにあたって文献の見方や調査研究の方法を学ぶ。また、レポートの書き方を学ぶ。
【学習の内容】	小・中・高校での各自の経験や、病院実習、養護実習等を話題にして救急処置・看護の課題・問題点を検討する。 文献ではどのようになっているかこの15回を通して明らかにしていく。
【キーワード】	救急処置・看護、　学校現場での実態調査、文献調査方法、レポートの書き方
【参考文献】	村上陽一郎『新しい科学論　「事実は」理論をたおせる』講談社、2001 苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社、2006 酒井聡樹『これから論文を書く若者のために』協立出、2004 山崎茂明『看護研究のための文献検索ガイド』日本看護協会、2005 天野敦子・中村朋子・山崎隆恵他『養護教諭の研究能力に関する研究』日本養護教諭教育学会誌.3（1）　9-46　2000 中島敦子・津島ひろ江『学校救急処置における新人養護教諭の困難感―頭部外傷事例から―』

	日本養護教諭教育学会誌 15(1)33-43　2011
3、4.テーマ	学校看護の構造（保健事業・管理運営・保健行政）
【学習の目標】	学校看護学の中で学校救急看護の構造を様々な側面から検討する。
【学習の内容】	1）事業・サービス（救急処置や看護、医療的ケアを行う。それに伴う保健指導や健康相談を行う。安全教育・安全指導等を行う） 2）管理運営・マネージメント（学校内で1）を行うために教職員個人、組織について、救急処置や看護を行うための予算、施設・設備を準備する、研修会などの計画等） 3）学校外の行政・制度等（救急看護に関係する行政・法律、研修、ガリキュラム等)。
【キーワード】	救急処置・看護　医療的ケア、保健指導　救急処置計画・予算
【学習の課題】	現在の学校保健の構造の中で学校救急看護が十分に行えるか検討する。
【参考文献】	三木とみ子他『保健室経営マニュアル』ぎょうせい、2008
【学習する上での留意点】	学校保健や学校看護の中での位置付けを検討する。
5．テーマ	学校看護の対象と、生じやすい健康課題の特徴
【学習の目標】	さまざまな健康状態にある児童生徒のけがや疾病異常について、学校で多発するものや疾患特有の急変状態について知り、その対応も含めて説明できるようになる。
【学習の内容】	1）けがをしたり、頭痛・腹痛等で具合が悪くなった児童生徒　2）慢性疾患を抱えている、あるいは既往歴のある疾病の急変や具合が悪くなった児童生徒を対象とする。特に慢性疾患を抱えた児童生徒について検討する。
【キーワード】	けがや疾病異常の水準による健康問題の種類や性質
【学習の課題】	特に慢性疾患（アレルギー疾患、心・腎疾患、呼吸器系疾患等）を抱えた児童生徒が急変しやすい健康問題とその対応について、疾患を2つあげレポートを提出する。
【参考文献】	大塚睦子『障害児に学ぶ教育の原点　養護教諭35年の実践から』農文協、1994 D.ロジャース小倉学・中村 朋子訳『養護教諭と学校救急―文献紹介　健康教室 213集』35-41 1968 中村朋子・樋口真理子『病弱養護学校における主体的健康管理について』茨城大学教育学部研究所紀要23　1991 鎌田文代・中村朋子『肢体不自由養護学校における医療的ケアに関する研究』茨城大学教育学部紀要51 2002 福田博美・中村朋子他『学生への医療的ケアの指導方法の検討』愛知教育大学障害児治療教育センター 治療教育学研究 27　73-79　2007
【学習する上での留意点】	健康問題は身体面、精神・心理面、社会面等多岐にわたることを考察できるようにする。
6．テーマ	学校における看護過程の特徴
【学習の目標】	学校看護の過程とそこに関わる人々について考察する。
【学習の内容】	1問題・病態・傷害態の事実判断⇔2どんな問題か・問題の程度、問題の意味⇔3救急処置・看護の決定⇔4処置ケアの実際・保健指導・経過観察・健康相談・校内、校外の連絡、受診等⇔5救急処置・看護活動後の学校保健活動・学校保健教育と管理・学校安全教育と管理⇔6学校救急処置の全体的評価。このように6段階の過程があり、それぞれが双方向になっていること理解する。 それぞれの活動過程で養護教諭は児童生徒、その担任、保護者、部活動の顧問、校医、医療従事者等とかかわっており、養護教諭が他者と関わっていく時にはコミュニケーションが必要であることを理解する。
【キーワード】	救急看護の過程　判断、処置・看護、保健指導、安全教育・安全指導。コミュニケーション
【学習の課題】	どの過程も養護教諭一人だけではなく他者がかかわっていることを理解する。
【参考文献】	杉浦守邦『学校救急処置マニュアル』東山書房、1979 岡美穂子・松枝睦他『養護教諭の行う救急処置―実践における「判断」と「対応」の実際―』学校保健研究 53 、2001 小倉学『個別的保健指導の進め方』東山書房、1981 内山源『学校保健・養護教諭の救急活動における行為とコミュニケーションの問題と改善』茨城女子短大紀要38　2011 中村朋子『救急活動時のコミュニケーションのあり方』心とからだの健康 13 8 14-18　2013 バザール・ライリー　渡部富栄訳『看護のコミュニケーション』エルゼビア・ジャパン、2007
7．テーマ	学校看護における判断の視点① 医学的・医事的判断
【学習の目標】	養護教諭は傷害や頭痛腹痛等具合が悪くなった時の症状から、解剖学・生理学、病理学、各疾病の症状・鑑別診断学等の知識を基準にして、受診など緊急を要するもの、帰宅して保護者にまかせるもの、保健室で安静・休養させるもの、保健室で応急手当てのみで済むもの等を判断していることわかる。
【学習の内容】	主訴や随伴症状について判断の方法は視診等の観察、問診、検診（体温・脈拍・呼吸・血圧等の測定)、触診等に　より、症状の軽重を明らかにして、対応を決めている。判断を正しくするには症状から考えられる診断名の学習が欠かすことができない。また、慢性疾患を抱えている場合は、個人ごとに急変した時どのような症状が発現するかを知っておくことが必要である。判断を誤れば、その後の対応も誤ったものになってくるので医学的・医事的判断は大切なものであり、医学的・看護的専門知識を持っている養護教諭に最も期待されていることである。しかし、けがした当初、微症状であったり、本人が自分の症状を正しく伝えられなかったり、症状を大げさに言ったり、隠したり、そばにいた担任や部活動の関係者などが症状を見落としたり、過少評価して、判断したりすることもあり養護教諭の判断が受けいれられない場合もある。どうすれば間違いのない判断ができるか考察する。どう対応するか判断することも大切である。
【キーワード】	医学的・医事的判断　フィジカル判断　主訴　養護教諭の判断。他者の判断
【参考文献】	荒木田由美子・池添志乃他『初心者のためのフィジカルアセスメント』東山書房、2008 三村由香里・松枝睦他『養護実践のための頭部外傷ﾁｪｯｸﾘｽﾄの提案』日本養護教諭教育学会誌 11(1) 2011 岡田加奈子・葛西敦子他『養護診断「心理的な要因が存在する可能性のある状態」の診断名と診断指標の開発』 日本養護教諭教育学会誌 10(1)　20-37 20
【学習する上での留意点】	精神・心理状態、社会的側面からみた健康状態の文献はあまりない。各自検討してほしい。
8．テーマ	学校看護における判断の視点② 非医事的判断
【学習の目標】	主に他者が傷病の軽重や対応の判断を症状等医学的・医事的なこと以外で判断することを理解する。
【学習の内容】	授業・教育優先、経済的、宗教的なこと、部活動優先、管理者の行政的こと等で症状以外のことで受診や帰宅、休養等のことを判断し、養護教諭の判断や対応が変更されることがある。例　担任は教育を優先して保健室での休養を認めな

い。痛みを我慢して授業を受けさせることが自信につながると無理に体育をさせる。保護者は経済的な理由で、宗教的な理由で受診を認めない。管理職は後で何かあって保護者から苦情が出ないように軽傷でも救急車を要請する。本人は部活を休むとレギュラーから外されるので無理に無理な練習をする等。養護教諭と他者がコミュニケーションをとり、けがや疾病をした本人にとって何が善いか判断する。

【キーワード】 非医事的判断、症状以外の教育的、宗教的、経済的、行政的判断

【学習の課題】 雑誌等から非医学的判断をした事例を収集し、レポートを提出する。

【参考文献】 中村朋子・内山源『学校救急活動における養護教諭の判断と非医事的判断による問題点』安全教育学研究 5(1) 2005
内山源：ヘルスプロモーション・学校保健 第 8 章学校救急事態における非医学・非医事的判断 家政教育社 2009

９．テ ー マ	学校看護における判断の視点③ 倫理的判断

【学習の目標】 1）判断の対象者、判断者、判断の過程、判断の種類 判断を円滑にする方法を考察する。
2）判断の基礎となる倫理的判断について理解する。

【学習の内容】 1）判断の対象者は５回で述べた。養護教諭だけでなく、本人や担任等救急事例に関った他者が関与する。程度が軽い場合は養護教諭と本人で済むが、重症ほど、いろいろな人が判断に関わってくる。判断の過程は６回で述べた。受診させるかどうか、帰宅させるかどうか、休養か授業に出るか、部活動の参加等必ずしも養護教諭の判断が優先されない。判断の種類には倫理的判断、医学的・医事的判断、非医事的判断がある。（７、８回）
2）倫理的判断は救急看護だけでなく、養護教諭の活動すべてに考慮しなければならないことである。判断者は常に児童生徒にとって何が善き判断か、正しい判断かを考えることが必要である。倫理の原則として一般に無害、善行、自律、公正・正義、誠実・忠義などがあり、それらについて学習する

【キーワード】 判断者、判断の過程、判断の種類、組織的意思決、倫理的判断、倫理の原則

【参考文献】 中村朋子『学校救急看護の課題―養護教諭の判断を中心にして―』日本養護教諭教育学会誌.18(1) 25-30 2014
鎌田尚子・中村朋子他『養護教諭の倫理綱領(案)作成と共通理解をめざして』日本養護教諭教育学会誌.14（1） 2011
鎌田尚子・中村朋子他『養護教諭の倫理綱領(案)の理論的・実践的意義』日本養護教諭教育学会誌.16(1) 23-36 2012
服部健司・伊藤隆雄『医療倫理学の ABC』メヂカルフレンド社、2004
J.Davis 小西恵美子他訳『看護倫理を教える・学ぶ』日本看護協会、2028

【学習する上での留意点】 救急看護の判断は養護教諭だけでなく、本人や周囲の人々が関与していることを学ぶ。

１０．テ ー マ	学校看護の管理運営① 救急看護計画と教職員の役割

【学習の目標】 救急看護を円滑に行うために学校内での管理・運営として養護教諭はあらかじめ救急看護計画を立てて教職員に周知徹底しておくことを復習する。

【学習の内容】 1）学校内の教職員の役割と 2）救急連絡体制（受診に備えて医療機関や主治医等）を明文化しておく。
3）担任、保健主事、部活の関係者、保護者等誰が、どんなことを誰に連絡するか、救急連絡体制はどうなっているか学習する。

【キーワード】 救急看護計画 教職員の役割、連絡体制 医療機関の選択

【学習の課題】 このテーマは多くの参考文献があるので、救急体制について収集し、それらを参考にし、小、中、高どれかに校種を決め救急体制を作成し、事例を当てはめ、検討したレポートを提出する。

【学習する上での留意点】

１１．テ ー マ	学校看護の管理運営② 施設・設備、予算

【学習の目標】 救急看護を円滑に行うには救急処置や看護に使用する備品・救急薬品・衛生材料が必要である。慢性疾患児童生徒の急変に備えて必要な消耗品や備品の準備、休養などに必要な保健室の施設設備等を理解する。それらを十分に確保するための予算について理解する。

【学習の内容】 必要な備品・救急薬品・衛生材料を学校医・学校薬剤師と相談して準備していることを学習する。慢性疾患の急変に備えて準備しておくものは主治医・保護者と連携して決め、管理しておく場所も決めておく。

【キーワード】 救急薬品・衛生材料、保健室の設備、備品 予算

【学習の課題】 救急看護を行うために保健室の設備（ベッドや寝具類等）配置をどのようにすればよいか校種、規模を考慮し、配置図を入れたレポートを提出する。

【参考文献】 中村 朋子・内山源他『学校保健・養護教諭の活動と予算に関する調査研究』茨城大学教育実践研究 15 191-206 1996
内山源『ヘルスプロモーション・学校保健 第 9 章 学校保健活動と予算の条件』家政教育社 2009

【学習する上での留意点】救急看護だけでなく学校保健活動を行うためには予算が必要なことを理解してほしい。

１２．テ ー マ	学校看護と地域専門機関との連携（医療機関、福祉機関、行政との関わり）

【学習の目標】 救急看護を円滑に進めるには学校外の要因（外的事項）である地域の医療関係・福祉施設、行政に関連する法律・制度、カリキュラムなどがあることを考察する。

【学習の内容】 救急看護で受診する場合の医療機関や福祉施設などの利用の仕方を学習する。救急看護が十分に実施できるためには学校保健法だけでなく医師法・保助看法等多くの法律が関与する。また、事故が発生すれば法的責任が発生す場合もある。養護教諭養成の中で、看護や救急看護のカリキュラムをどうすればよいか検討する。

【キーワード】 救急看護を円滑に進めるには関連する学校外の要因（外的事項）法律、制度 養成課程のカリキュラム、学校事故

【学習の課題】 救急看護が円滑に行くには学校内（内的事項）だけでなく学校外の要因があることを理解する。

【参考文献】 中村朋子・内山源：学校保健における救急処置・看護の問題点と外的事項・法制度への改善へ 茨城大学教育学部紀要 46 233-253 1997
内山源『ヘルスプロモーション・学校保健 第 11 章 学校保健活動の改善、推進と養護教諭の人事』家政教育社 2009
中村朋子・内山源『学校保健・管理行政における養護教諭の人事に関する問題とアドボカシィ』東邦学誌 39（1） 2010
福田博美・中村朋子他『教育学部養護教諭養成の看護系科目の卒業生の学習ニーズ』学校保健研究 45(4) 2003
入沢充『学校事故 知っておきたい！養護教諭の対応と法的責任』時潮社、2009
児玉悦子・鈴木世津子『学校事故から子どもを守る 判例に学ぶ教師の実践マニュアル』農文協、2006
鈴木路子・関口恵美・原千恵子他『公衆衛生看護ノート』教育新聞社、2014

13、14.テーマ	事例分析　①日常的な症状への救急処置　②慢性疾患を抱えた児童生徒の急変時の対応
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	救急事例の記述をする時の観点を理解し、レポートにまとめる。 各自のけがや疾病異常の経験、養護実習での経験、あるいは友人の体験や文献から、①傷害の事例　②疾病異常・医療的ケア必要とする救急事例について、これまで学んできた学習の内容を取り入れレポートにする。そのレポートをお互いに読みあい事例を共有する。意見、疑問点等批評する。それらを参考に新たな課題を含めて検討し、再度、改善されたレポートを提出する。　14回で最終報告の発表をする。 けがや疾病異常の事例　事例の記述 お互いの事例を批判的に読むことができる。 中村朋子他『養護教諭の倫理綱領(案)を活用した実践事例の検討』第21回日本養護教諭教育学会大会　88-89　2013 中村朋子『救急事例の対応について学生が学んだことー養護実習中の事例を通してー』 第6回日本養護教諭教育学会大会　40-41　1998
１５．テ ー マ	まとめ
１，２回の授業で学校看護の課題について検討してきた。それらの課題が授業を通して解決したか、残された課題やさらに新たな課題について話し合う。文献の読み方や、レポートの書き方ができるようになったかまとめる。	

1．科目名（単位数）	教育健康学特論／健康相談学特論（2 単位）	池袋	3．科目番号	EDMP5512 EDMP5372
2．授業担当教員	鈴木路子・山本静雄・神宮直人・八重樫節子・石垣久美子			
4．授業形態	講義、演習、実習等		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	人間のかけがえのない「いのち」を多方面から支える科学としての健康学が「教育健康学」であり、これこそが学校教育を支える基盤である。すなわち、あらゆる教育現象、学校生活現象における個々の次元での出来事に対して「教育健康学」の専門性を生かした視点で種々の適切な対応策の展開の基盤となる知識・思想・技術などの養成は、教員養成系大学及び大学院として特に重点を置かなければならない教育の原点である。 この講義では、人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応」の概念に関する知見を教育健康学の視点から考えるとともに、人間の発育、生活生存と各種環境問題（空気・水・光・音・植生・生態系）との相互作用を自然科学として把握するとともに、教育健康学の観点から「人間」と「環境」に着目した思想を再解釈し、自己実現能力と自己ケア能力の育成を目指すものである。更に、環境中の病原微生物やアレルゲン（アレルギーを惹起する抗原）の侵入に対する人間の防御反応、特に免疫学的防御機構についての理解と応用能力を培うことも目的の一つである。 他方、本授業においては、保健室の場が持つ機能をさらに見直し、救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能、その他を統合させた総合的アプローチの支援モデルを共に構築することも授業の目標点としている。 急速な社会変化の中で、「人間」の尊厳や命の尊さが軽視されるおそれがある。このような「人間」の危機を乗り越えるために新たなパラダイム構築が求められている。本講義においては、教育と健康に着目した教育健康学を再解釈することにより、新たなパラダイム構築を目指す。 本講義は、グローカル・グローバル双方の調査能力が求められていることから実際の調査研究を実践してきた複数の研究者らがオムニバス形式で担当し、臨床教育研究としての高度な「教育健康学特論」の構築を目指すものである。			
8．学習目標	(1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解する。 (2) 健康を維持するために不可欠な感染防御機能やアレルギー・アナフィラキシー発現などの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことを目指す。 (3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育健康学について理解を深め、児童・生徒と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識の習得を目指す。 (4) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができる。 (5) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができることを目指す。 (6) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できることを目指す。 (7) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることを目指す。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	（リーディング・アサイメント）テーマごとに配付された資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。 （ライティング・アサイメント）本講義はオムニバス形式で開講するため、テーマごとに担当教員から、異なる形式のレポート課題の提出を求められる。			
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】（鈴木）鈴木　路子、真野　喜洋編著『教育健康学』ぎょうせい、2011 年。 他の担当者は、いずれも『教育健康学』と配付資料を用いる。 【参考書】特になし			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 (1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解することができたか。 (2) 感染防御機能やアレルギーなどの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことができたか。 (3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を習得することができたか。 (4) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることができたか。 (5) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができるようになったか。 (6) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができようになったか。 (7) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できるようになったか。 ○評定の方法 ・成績評価は①授業態度（30%）②課題レポート（40%）③研究発表（30%）の成果によって決められる。 ・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12. 受講生への メッセージ	（鈴木）現代の子どもの健康課題を解決していく手がかりを、環境適応能力の立場から探求し、よりよい人間の生命生存について共に考える場に、意欲を持って取り組むことを期待したい。 （山本）この講義は、皆さんが日常生活で直面する事象を理解する上で役立つ内容で構成されていますから楽しく取り組まれることを希望する。 （八重樫、石垣）関連諸資料を検証的に学びつつ、借り物ではなく独自の健康相談学をまとめ、カウンセリング機能と生徒指導的機能について自分なりに統合したアプローチを考え、自分の支援モデルを作り上げてほしい。また、先行文献・資料を批判的に読み、関連学会に報告することを勧める。			
13. オフィスアワー	鈴木路子：事前にアポイントをとってください E-mail:m-suzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp。 山本静雄：講義の開始前と終了後。			

	八重樫、石垣：最初の講義の際に連絡する。
14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】	
1．テーマ	未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。 (1) 温度適応能力の発達
【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。 【学習の内容】温度適応能力の発達に及ぼす影響や人間がある地域環境で暮らすということの意味について、インドネシアでの研究成果をもとに考察を深める。 【キーワード】生育環境，気象条件，寒冷血管反応，局所性耐寒性テスト，アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。	
2．テーマ	未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。 (2) 健康教育の現代的課題
【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。 【学習の内容】健康教育の現代的課題として、都市化・人工化とアレルギー反応（アトピー性皮膚炎や喘息）の問題について、各種データをもとに考察を深める。 【キーワード】生育環境，気象条件，寒冷血管反応，局所性耐寒性テスト，アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。	
3．テーマ	未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。 (3) 環境の汚染と変化
【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。 【学習の内容】大気汚染・水質汚濁・地球温暖化による影響と環境測定技法を習得する。 【キーワード】生育環境，気象条件，寒冷血管反応，局所性耐寒性テスト，アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。	
4．テーマ	人間の生命の営み：人間の免疫機能（現象）の概要及び環境との関係
【学習の目標】免疫現象には感染防御を担う有益な免疫現象とアレルギー・自己免疫疾患などを惹起させる有害な免疫現象があることを理解する。 【学習の内容】免疫現象は、外部環境から侵入する非自己(抗原)を認識し、それを排除する現象であり、この現象が感染防御を担い、一方ではアレルギーを惹起させる。これらの機序を理解する。 【キーワード】人間の生命の営み：自己、非自己の科学、抗原、アレルゲン、アレルギー 【学習の課題】免疫現象の機序を把握する。 【参考文献】　配付資料 【学習する上での留意点】免疫現象は自己と非自己を識別して非自己を排除する現象であることを理解する。	
5．テーマ	人間の生命の営み：有益な免疫現象（感染防御機能など)、自己を守るための基本原理を理解する
【学習の目標】特異的免疫には、補体を活性化して病原（性）微生物を傷害（破壊）させたり、病原（性）微生物の感染を阻止する抗体の機能があることを理解する。 【学習の内容】有益な免疫現象の例として、ウイルスの感染防止及び補体を活性化させて細菌を傷害する機序を解説する。 【キーワード】補体、膜傷害複合体（MAC)、中和抗体 【学習の課題】有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス（HIV：エイズの原因ウイルス）などに対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。 【参考文献】　配付資料 【学習する上での留意点】抗体は単独で細菌やウイルスなどを傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。	
6．テーマ	人間の生命の営み：有害な免疫現象（アレルギー、自己免疫疾患）
【学習の目標】特異的免疫にアレルギーなどの生体にとって有害な免疫反応を惹起させる現象があることについて理解を得る。 【学習の内容】有害な免疫現象の例として、アレルギーとその発現機序について解説する。さらに、身近に存在するアレルゲン（アレルギーの原因物質）について説明を行う。 【キーワード】アレルギー、アレルゲン、IgE 抗体、肥満細胞、ケミカルメディエーター 【学習の課題】アレルギーの発現においては、アレルゲンに対して産生された IgE 抗体、肥満細胞及びアレルゲンの３者によってケミカルメディエーターを放出させることを把握する。 【参考文献】　配付資料 【学習する上での留意点】有害な免疫現象の結果として発現するアレルギーや自己免疫疾患は異なる機序に基づくことを理解する。	
7．テーマ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学 (1) 教育健康学についての理解
【学習の目標】教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。 【学習の内容】各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。 【キーワード】臨床教育，ホリスティック教育，人間形成，対人援助，精神性，ケア 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】　授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】事前配付資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。	

8．テ ー マ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学 （2）人間と健康との関係の分析法
【学習の目標】教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。 【学習の内容】各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。 【キーワード】臨床教育, ホリスティック教育, 人間形成, 対人援助, 精神性, ケア 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】　授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】事前配付資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。	
9．テ ー マ	養護教諭と健康相談
【学習の目標】「健康相談について」法的根拠について討議する。 【学習の内容】「養護教諭の行う健康相談」とは何かを討論する。 【キーワード】ヘルスカウンセリング、保健室、心の健康 【学習の課題】「健康相談の今」の課題について討議する。 【参考文献】　『養護教諭の行う健康相談』大谷尚子・森田光子他　東山書房　（各自テキスト） 【学習する上での留意点】子どもの健康課題の背景をおさえていく。	
10．テ ー マ	健康相談のプロセスとしてのカウンセリング
【学習の目標】「聞く技術の意義について」プロセスとしてのヘルスカウンセリング（健康相談）。 【学習の内容】短時間・随時の支援から構成されるカウンセリングプロセスを理解する。 【キーワード】受容、共感、自己一致、傾聴、カウンセリング技法、来談者中心療法 【学習の課題】行動変容（時期）、プロセスの理解。（次週予告；Case 事前に配布） 【参考文献】　マークヘンダーソン, ローレンスティアニー, ジェラルドスメタナ編/山内豊明監訳『聞く技術』第 2 版、日経 PP、2013 【学習する上での留意点】演習を通し実体験をしていく。	
11．テ ー マ	健康相談における見立てについて　(事例研究)
【学習の目標】何故、見立てを行うのか。 【学習の内容】子どもが抱えている問題や背景の判断根拠を見極める。 【キーワード】アセスメント、不定愁訴、頻回来室 【学習の課題】健康相談における EBM について学ぶ。（次週資料配付） 【参考文献】　大谷尚子　森田光子『養護教諭の行う健康相談』東山書房、2012 【学習する上での留意点】事例から子どもの支援手立てを探っていく。	
12．テ ー マ	養護診断学と健康相談
【学習の目標】健康相談のヘルスアセスメントと養護診断の関係。 【学習の内容】ヘルスアセスメントの実際を理解する。 【キーワード】不定愁訴、頻回来室 【学習の課題】養護診断の立て方（次週資料配付）。 【参考文献】　高石昌弘・鈴木美智子編『保健室における養護教諭の対応』開隆堂、2003 【学習する上での留意点】事例から養護診断の立て方を読み取っていく。	
13．テ ー マ	心身健康科学の活用　子どもの課題と発育発達からみた精神的問題
【学習の目標】心身医学と環境要因。 【学習の内容】心理社会的環境の変化について理解する。 【キーワード】不定愁訴、睡眠障害、自己肯定感、自尊感情、いじめ、不登校 【学習の課題】呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経・筋肉系、その他 【参考文献】　久保千春編『心身医学標準テキスト』第 3 版、医学書院、2009（次週資料配布）心身相関の基礎。（他の文献検索中） 【学習する上での留意点】環境が及ぼす身体への影響を追求していく。	
14．テ ー マ	保健室の役割（かかわり）と生徒指導の役割（かかわり）を検討する
【学習の目標】解決的・予防的・開発的な発達援助の特徴を考える。 【学習の内容】生徒指導のかかわりと健康相談のかかわりの特徴を調べる。 【キーワード】集団指導、個別指導、教育相談 【学習の課題】それぞれが持つメリット、デメリットについて検討する。 【参考文献】　八並光俊・国分康孝編『新生徒指導ガイド』 【学習する上での留意点】それぞれの役割を生かした連携について探っていく。	
15．テ ー マ	まとめと振り返り
【学習の目標】本講義・演習のまとめと振り返りを行う。 【学習の内容】前半で本講義・演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。 【キーワード】企画力、論理構成・展開力、コミュニケーション力 【学習の課題】本講義・演習の成果を報告すること。 【参考文献】　授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。	

1．科目名（単位数）	教育健康学特論／健康相談学特論（2 単位）	名古屋	3．科目番号	EDMP5512 EDMP5372
2．授業担当教員	鈴木　路子、宋　暁鈞			
4．授業形態	講義、演習、実習等		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	人間のかけがえのない「いのち」を多方面から支える科学としての健康学が「教育健康学」であり、これこそが学校教育を支える基盤である。すなわち、あらゆる教育現象、学校生活現象における個々の次元での出来事に対して「教育健康学」の専門性を生かした視点で種々の適切な対応策の展開の基盤となる知識・思想・技術などの養成は、教員養成系大学及び大学院として特に重点を置かなければならない教育の原点である。 この講義では、人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応」の概念に関する知見を教育健康学の視点から考えるとともに、人間の発育、生活生存と各種環境問題（空気・水・光・音・植生・生態系）との相互作用を自然科学として把握するとともに、教育健康学の観点から「人間」と「環境」に着目した思想を再解釈し、自己実現能力と自己ケア能力の育成を目指すものである。更に、環境中の病原微生物やアレルゲン（アレルギーを惹起する抗原）の侵入に対する人間の防御反応、特に免疫学的防御機構についての理解と応用能力を培うことも目的の一つである。 他方、本授業においては、保健室の場が持つ機能をさらに見直し、救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能、その他を統合させた総合的アプローチの支援モデルを共に構築することも授業の目標点としている。 急速な社会変化の中で、「人間」の尊厳や命の尊さが軽視されるおそれがある。このような「人間」の危機を乗り越えるために新たなパラダイム構築が求められている。本講義においては、教育と健康に着目した教育健康学を再解釈することにより、新たなパラダイム構築を目指す。 本講義は、グローカル・グローバル双方の調査能力が求められていることから実際の調査研究を実践してきた複数の研究者らがオムニバス形式で担当し、臨床教育研究としての高度な「教育健康学特論」の構築を目指すものである。			
8．学習目標	(1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解する。 (2) 健康を維持するために不可欠な感染防御機能やアレルギー・アナフィラキシー発現などの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことを目指す。 (3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育健康学について理解を深め、児童・生徒と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識の習得を目指す。 (4) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができる。 (5) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができることを目指す。 (6) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できることを目指す。 (7) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることを目指す。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	（リーディング・アサイメント）テーマごとに配付された資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。 （ライティング・アサイメント）本講義はオムニバス形式で開講するため、テーマごとに担当教員から、異なる形式のレポート課題の提出を求められる。			
10．教科書・参考書 ・教材	【教科書】（鈴木）鈴木　路子、真野　喜洋編著『教育健康学』ぎょうせい、2011 年。 他の担当者は、いずれも『教育健康学』と配付資料を用いる。 【参考書】特になし			
11．成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 (1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解することができたか。 (2) 感染防御機能やアレルギーなどの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことができたか。 (3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を習得することができたか。 (4) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることができたか。 (5) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができるようになったか。 (6) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができようになったか。 (7) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できるようになったか。 ○評定の方法 ・成績評価は①授業態度（30%）②課題レポート（40%）③研究発表（30%）の成果によって決められる。 ・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12．受講生への メッセージ	（鈴木）現代の子どもの健康課題を解決していく手がかりを、環境適応能力の立場から探求し、よりよい人間の生命生存について共に考える場に、意欲を持って取り組むことを期待したい。 （宋）「教育学」の構築に向けて教育健康学的アプローチを取りいれた授業をしたい。積極的に授業に参加し、関連する文献を読み、発表・討議することを期待している。			
13．オフィスアワー	鈴木路子：事前にアポイントをとってください E-mail:m-suzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp。 宋：授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。			
14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】				

1．テーマ	未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。 (1) 温度適応能力の発達（鈴木路子）

【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。
【学習の内容】温度適応能力の発達に及ぼす影響や人間がある地域環境で暮らすということの意味について、インドネシアでの研究成果をもとに考察を深める。
【キーワード】生育環境，気象条件，寒冷血管反応，局所性耐寒性テスト，アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間
【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

2．テーマ	未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。 (2) 健康教育の現代的課題（鈴木路子）

【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。
【学習の内容】健康教育の現代的課題として、都市化・人工化とアレルギー反応（アトピー性皮膚炎や喘息）の問題について、各種データをもとに考察を深める。
【キーワード】生育環境，気象条件，寒冷血管反応，局所性耐寒性テスト，アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間
【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

3．テーマ	未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。 (3) 環境の汚染と変化（鈴木路子）

【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。
【学習の内容】大気汚染・水質汚濁・地球温暖化による影響と環境測定技法を習得する。
【キーワード】生育環境，気象条件，寒冷血管反応，局所性耐寒性テスト，アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間
【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

4．テーマ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学（1）教育健康学についての理解（鈴木路子）

【学習の目標】　教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】臨床教育，ホリスティック教育，人間形成，対人援助，精神性，ケア
【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配付する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配付資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

5．テーマ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学（2）人間と健康との関係の分析法（鈴木路子）

【学習の目標】教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】臨床教育，ホリスティック教育，人間形成，対人援助，精神性，ケア
【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配付する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配付資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

6．テーマ	人間の生命の営み：人間の免疫機能（現象）の概要及び環境との関係（宋暁鈞）

【学習の目標】免疫現象には感染防御を担う有益な免疫現象とアレルギー・自己免疫疾患などを惹起させる有害な免疫現象があることを理解する。
【学習の内容】免疫現象は、外部環境から侵入する非自己(抗原)を認識し、それを排除する現象であり、この現象が感染防御を担い、一方ではアレルギーを惹起させる。これらの機序を理解する。
【キーワード】人間の生命の営み：自己、非自己の科学、抗原、アレルゲン、アレルギー
【学習の課題】免疫現象の機序を把握する。
【参考文献】　配付資料
【学習する上での留意点】免疫現象は自己と非自己を識別して非自己を排除する現象であることを理解する。

7．テーマ	人間の生命の営み：有益な免疫現象（感染防御機能など)、自己を守るための基本原理を理解する（宋暁鈞）

【学習の目標】特異的免疫には、補体を活性化して病原（性）微生物を傷害（破壊）させたり、病原（性）微生物の感染を阻止する抗体の機能があることを理解する。
【学習の内容】有益な免疫現象の例として、ウイルスの感染防止及び補体を活性化させて細菌を傷害する機序を解説する。
【キーワード】補体、膜傷害複合体（MAC)、中和抗体
【学習の課題】有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス（HIV：エイズの原因ウイルス）などに対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。
【参考文献】　配付資料
【学習する上での留意点】抗体は単独で細菌やウイルスなどを傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。

8．テーマ	人間の生命の営み：有害な免疫現象（アレルギー、自己免疫疾患）(宋暁鈞)

【学習の目標】特異的免疫にアレルギーなどの生体にとって有害な免疫反応を惹起させる現象があることについて理解を得る。
【学習の内容】有害な免疫現象の例として、アレルギーとその発現機序について解説する。さらに、身近に存在するアレルゲン（ア

	レルギーの原因物質）について説明を行う。 【キーワード】アレルギー、アレルゲン、IgE 抗体、肥満細胞、ケミカルメディエーター 【学習の課題】アレルギーの発現においては、アレルゲンに対して産生された IgE 抗体、肥満細胞及びアレルゲンの３者によってケミカルメディエーターを放出させることを把握する。 【参考文献】　配付資料 【学習する上での留意点】有害な免疫現象の結果として発現するアレルギーや自己免疫疾患は異なる機序に基づくことを理解する。
９．テ ー マ	養護教諭と健康相談（宋暁鈞）
	【学習の目標】「健康相談について」法的根拠について討議する。 【学習の内容】「養護教諭の行う健康相談」とは何かを討論する。 【キーワード】ヘルスカウンセリング、保健室、心の健康 【学習の課題】「健康相談の今」の課題について討議する。 【参考文献】　『養護教諭の行う健康相談』大谷尚子・森田光子他　東山書房　（各自テキスト） 【学習する上での留意点】子どもの健康課題の背景をおさえていく。
１０．テ ー マ	健康相談のプロセスとしてのカウンセリング（宋暁鈞）
	【学習の目標】「聞く技術の意義について」プロセスとしてのヘルスカウンセリング（健康相談）。 【学習の内容】短時間・随時の支援から構成されるカウンセリングプロセスを理解する。 【キーワード】受容、共感、自己一致、傾聴、カウンセリング技法、来談者中心療法 【学習の課題】行動変容（時期）、プロセスの理解。（次週予告；Case 事前に配布） 【参考文献】　マークヘンダーソン, ローレンスティアニー, ジェラルドスメタナ編/山内豊明監訳『聞く技術』第 2 版、日経 PP、2013 【学習する上での留意点】演習を通し実体験をしていく。
１１．テ ー マ	健康相談における見立てについて（事例研究）（宋暁鈞）
	【学習の目標】何故、見立てを行うのか。 【学習の内容】子どもが抱えている問題や背景の判断根拠を見極める。 【キーワード】アセスメント、不定愁訴、頻回来室 【学習の課題】健康相談における EBM について学ぶ。（次週資料配付） 【参考文献】　大谷尚子　森田光子『養護教諭の行う健康相談』東山書房、2012 【学習する上での留意点】事例から子どもの支援手立てを探っていく。
１２．テ ー マ	養護診断学と健康相談（宋暁鈞）
	【学習の目標】健康相談のヘルスアセスメントと養護診断の関係。 【学習の内容】ヘルスアセスメントの実際を理解する。 【キーワード】不定愁訴、頻回来室 【学習の課題】養護診断の立て方（次週資料配付）。 【参考文献】　高石昌弘・鈴木美智子編『保健室における養護教諭の対応』開隆堂、2003 【学習する上での留意点】事例から養護診断の立て方を読み取っていく。
１３．テ ー マ	心身健康科学の活用　子どもの課題と発育発達からみた精神的問題（宋暁鈞）
	【学習の目標】心身医学と環境要因。 【学習の内容】心理社会的環境の変化について理解する。 【キーワード】不定愁訴、睡眠障害、自己肯定感、自尊感情、いじめ、不登校 【学習の課題】呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経・筋肉系、その他 【参考文献】　久保千春編『心身医学標準テキスト』第 3 版、医学書院、2009（次週資料配布）心身相関の基礎。（他の文献検索中） 【学習する上での留意点】環境が及ぼす身体への影響を追求していく。
１４．テ ー マ	保健室の役割（かかわり）と生徒指導の役割（かかわり）を検討する（宋暁鈞）
	【学習の目標】解決的・予防的・開発的な発達援助の特徴を考える。 【学習の内容】生徒指導のかかわりと健康相談のかかわりの特徴を調べる。 【キーワード】集団指導、個別指導、教育相談 【学習の課題】それぞれが持つメリット、デメリットについて検討する。 【参考文献】　八並光俊・国分康孝編『新生徒指導ガイド』 【学習する上での留意点】それぞれの役割を生かした連携について探っていく。
１５．テ ー マ	まとめと振り返り（宋暁鈞）
	【学習の目標】本講義・演習のまとめと振り返りを行う。 【学習の内容】前半で本講義・演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。 【キーワード】企画力、論理構成・展開力、コミュニケーション力 【学習の課題】本講義・演習の成果を報告すること。 【参考文献】　授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。

1．科目名（単位数）	カリキュラム開発演習　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5320
2．授業担当教員	鈴木　路子			
4．授業形態	講義・演習		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	「カリキュラム開発特論」を履修後に、本科目を履修するのが望ましい。			
7．講義概要	学校カリキュラムの研究開発の動向とともに、カリキュラム開発に必要な児童・生徒の現状や興味・関心、地域・保護者や教師の教育観や子ども観等について資料や情報を収集する。さらに特色あるカリキュラムを実施しているいくつかの学校を見学し、カリキュラムの教育的効果と課題について考察する。本学の教育理念を実現するためのカリキュラム案を開発し、実施にむけた課題の解決を提言する。			
8．学習目標	1．カリキュラムの概念とその開発理論について文献を読解し研究する。 2．カリキュラムの評価について文献を読解し、カリキュラム評価の方法を研究する。 3．カリキュラム開発の様々な実践例を収集し検証する。 4．本学の教育理念を実現するための特色あるカリキュラムを開発する。 5．修士課程で取り組む「研究課題」の教育的意義を再考し、系統性・順次性を考慮した「カリキュラム開発」を試みる。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	①学校カリキュラムの概念とその開発理論について述べよ。 ②カリキュラム評価とは何か、またその方法について述べよ。 ③カリキュラム・マネジメントとは何か、またなぜそれが必要かについて述べよ。 ④修士課程でおこなう研究課題とその成果に基盤を置いた「主体的学習教材開発」を試みよ。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山口満編著『第二版現代カリキュラム研究』学文社、2005 安彦忠彦編『新版カリキュラム研究入門』勁草書房、2009 【参考文献】 Fournier,D.M.(2005)"AVALUATION",in Mathison,S.(ed.),Encyclopedia of Evaluation,Sage, Mathison,S.(ed.) (2005) Encyclopedia of Evaluation,Sage 田中統治・根津朋美編著『カリキュラム評価入門』勁草書房、2009 田中統治編『カリキュラム評価の考え方・進め方』教育開発研究所、2005 奥野英子・関口惠美他著『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル』中央法規、2006 奥野英子編著『実践から学ぶ社会生活力支援』中央法規、2007 小林正幸・相川充編著『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』図書文化、2002			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 コンピテンシーを育てるカリキュラム開発の具体的展開を考え、各自の研究課題との連携を考える。 ○評定の方法 各自の研究課題の目的・方法・内容を明確にし、コンピテンシーを育むカリキュラムを作成し、その過程及び結果を評価する			
12. 受講生へのメッセージ	授業の最終目標は、児童生徒の抱えている問題の解決に有効な特色あるカリキュラムを各人が構築することにある。そのために、カリキュラム開発理論や評価理論の文献を読解し研究を深めること、実践事例を調査収集、検証し、カリキュラム改善への示唆を得ることが重要である。目標達成に向けて積極的な参加が望まれる。			
13. オフィスアワー	後日通知。			

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1～3.テーマ	カリキュラム評価の理論と方法

【学習の目標】カリキュラム評価の理論と方法について深く研究する。
【学習の内容】カリキュラム評価の必要性と意義、カリキュラム評価の理論と方法、中高一貫校のカリキュラム評価
特別支援学校のカリキュラム評価、カリキュラムと評価活動
【キーワード】学校カリキュラム、評価、評価理論、方法、評価活動
【学習の課題】カリキュラム評価は、調査データをもとに目標の達成状況を把握し、カリキュラムそれ自体を評価する活動であるが、その際、学習者の行動変化より以上に、実践者が取り組むべき改善点を明確にしたい。その視点で、本単元では、学校カリキュラム評価についての基本文献・資料を講読し研究を深める。その上で、批判点を指摘しながら独自の見解が述べられるようになる。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

4～6.テーマ	カリキュラム開発の実践例の検討ー「生きる力」を育む教育カリキュラム

【学習の目標】平成 10 年学習指導要領において、「総合的な学習の時間」は「生きる力」の学習をめざす時間とされ、学校教育の重要なキーワードとなった。本単元では、各学校が創意工夫を凝らして開発している実践例を、小学校・中学校・高等学校の校種別に調査・収集する。その際、成功した事例だけでなく失敗した事例もあわせて収集し検証する。成功した要因と失敗した要因を明らかにし、カリキュラム開発の改善に向けた提言をする。
【学習の内容】「総合的な学習の時間」の特色あるカリキュラムを実践している学校を訪問し、実践事例を調査・収集する。
収集した事例の検証と評価を行う。
成功した要因と失敗した要因を明らかにする。
カリキュラム改善のための示唆を得る。
【キーワード】総合的な学習の時間、生きる力、生きる力を育む
【学習の課題】総合的な学習の時間は、小学校３～６年生・中・高等学校において、週２～３時間が割り当てられ、児童生徒の興味関心に従った、問題解決的な学習を行うこととされた。授業の内容は、国際理解、情報、環境、福祉・健康といった

	教科を超えた横断的な課題が例として示された。戦後教育の歴史の中で、かってないほどの大きな授業作りの可能性が、個々の教師に与えられたと言える。「教育の基調の転換」とさえいわれた「総合的な学習の時間」のカリキュラムの実践例から、カリキュラム開発を継続させる今日的要因を明らかにする。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考書

7～9.テーマ	教育と福祉の連携Ⅰ－社会生活力プログラムを応用したカリキュラム開発
【学習の目標】	近年、学校教育を取り巻く環境が劇的に変化している。例えば、子どもの安全や喫煙・飲酒・薬物乱用・暴力やいじめ等の人間関係に関する問題が深刻化している。これらの問題を放置しておけば学校教育の基盤が崩壊しかねない。ところが、従来の学校教育の範囲ではこうした問題に適切に対処することが難しい。そこで、急激に変化する社会のニーズと、それに十分に対応できない学校の現状の間にあるギャップを埋めるもの、学校カリキュラムを補完するものとして、教育プログラムの役割が期待されている。その中でも、従来の学校教育の枠組みに縛られず、社会のニーズを直接的に取り組んだ内容によって構成される、学校外の団体によって開発された教育プログラムは特に注目される。各種の外部団体による教育プログラムは、現代社会のニーズを直接的に反映した、斬新な教育内容を提供している。そこで本単元では、わが国において実践されている外部団体によって開発された「社会生活力プログラム」に焦点化する。このプログラムを学校教育に導入する際に生じる問題について考察し、日本の教育プログラム評価の現状における課題を明らかにすることを試みる。さらに、学校が主体となって、教育プログラムを活用したカリキュラム改善を進めるための提言をする。
【学習の内容】	社会リハビリテーションと社会生活力、社会生活力プログラムの基本理念、社会生活力プログラムの実施方法 社会生活力プログラムの構成、実践事例の収集と分析、カリキュラム開発への応用
【キーワード】	社会リハビリテーション、社会生活力、社会生活力プログラム
【学習の課題】	障害児教育の分野でみるならば、様々な障害をもつ一人ひとりの生徒のニーズに基づいて作成する個別の教育支援計画や移行支援計画において、「社会生活力」を高めるためのプログラムが組み込まれ、実施することが社会に出て行く準備教育として有効であるといわれる。中部地方の特別支援学校での実践例に基づいて分析と考察を深める。
【参考文献】	奥野英子・関口惠美他著『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル』中央法規、2006 奥野英子編著『実践から学ぶ社会生活力支援』中央法規、2007 関口惠美『障害者の地域生活を支援するプログラムの開発と評価に関する実証的研究』 日本高齢者保健福祉学会誌第 3 号

10～12.テーマ	教育と福祉の連携Ⅱ－生活技能訓練（Social Skills Training）を応用したカリキュラム開発
【学習の目標】	生活技能訓練（SST）とは、利用者の希望に基づき、人との関わり行動をより適切で効果的に行うことができるよう手助けする援助の方法である。利用者の「ものの見方」「理解や判断」「言動の仕方」の学習を助けるもので、認知行動療法の一つに位置づけられている。人間をはじめとする動物の行動の原理について科学的に研究を重ねた行動理論や社会学習理論を基礎理論としている。わが国では、精神障害のある人たちの病院や社会復帰施設、少年院や保護観察所等の矯正施設、障害者施設等で積極的に採り入れられ活用されている。特別支援学校等の教育現場にも広がりを見せている。本単元では、この SST に焦点化する。教育現場で開発・実践されている事例の検証を行い、このプログラムを学校教育に活用する際に生じる問題について考察する。
【学習の内容】	SST の定義、目的、基礎となる理論、SST の方法と手順、実践事例の収集と分析、カリキュラム開発への応用
【キーワード】	SST、社会生活技能、関わり行動、モデリング、ロールプレイ
【学習の課題】	1980 年代後半頃から「小学生が変になってきた」と言われ始め、ここ十年、社会性にかかわる問題がますます際だってきた。「友達と遊べない」「孤立している」など非社会的な子どもと、「すぐに怒り出す」「泣き出したら止まらない」など感情のコントロールができない子どもが確実に増えている。学級崩壊がいわれる所以である。小学校や特別支援学校の教育現場で行われている事例を調査収集し、検証する。その結果に基づいて SST を活用したカリキュラム改善を進めるための考察を深める。
【参考文献】	R.P.Liberman, W.J.DeRisi,K.T.Mueser「Social Skills Training for Psychiatric Patients」1992 （池淵惠美監訳「生活技能訓練ガイドブック」医学書院、1992） Personal Effectiveness: Guiding People to Assert Themselves and lmprove Their Social Skills by Robert Paul Liberman , Larry W, King, (安西信雄監訳「生活技能訓練基礎マニュアルー対人的効果訓練：自己主張と生活技能改善の手引き」2000) 小林正幸・相川充編著『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』図書文化、2000

13～15.テーマ	身近な生活課題を対象にした特色あるカリキュラムの開発
【学習の目標】	これまでのカリキュラム開発についての調査研究を基に、受講者が自身の専門分野や研究テーマについてより深く理解するために役立つような教材を選択し、カリキュラム開発について系統的にレポートを作成することを目標とする。
【学習の内容】	自身の専門分野や研究テーマに関連するカリキュラム開発についての教材を選ぶ。 教材を活用した特色あるカリキュラム（案）を構築する。
【キーワード】	特色あるカリキュラム、生活課題
【学習の課題】	これまでの授業で、各地の学校で実践されているカリキュラムを調査収集し検証してきた。カリキュラム改善をすすめるための問題点も明らかになった。この結果から各人が、自身の専門分野や研究テーマに基づいたカリキュラム（案）を構築する。
【参考文献】	上記 10 で挙げた教科書・参考書

1．科目名（単位数）	環境教育学特論　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5322
2．授業担当教員	鈴木　路子			
4．授業形態	講義		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	人及び人類の生活生存の場としての環境をミクロのレベルから、マクロ（地球環境・生態系）のレベルまで、総合的にとらえた環境教育の教育的意義を考え、理論構築と共に教育活動の実践力を身につける。人間を取り巻く自然環境の保全と人工環境化との相互バランスは、人間の生活生存、発育にとって、必要不可欠であることに視点をおいた環境教育学の展開は、臨床教育学の基盤と考える。さらに人間環境系としての環境教育は、人の日々の暮らしから、未来の地球環境を保全していく上で、重要な役割を果たす。植林をはじめ、森林環境、大気や気象環境、更には都市計画をはじめ、エネルギー資源もふくめた循環型社会は、地球環境の存続とよりよい人類の生存のために必要不可欠であり、緊急性を有していることを認識することから出発する。環境省総合環境政策局環境教育推進室による「学校エコ改修と環境教育推進事業」について、現地視察を行うと共に、小児環境保健への取り組みとしてのニコチル調査、環境保健サーベイランスシステム等についても検討する。			
8．学習目標	1）環境のとらえ方：細胞・組織・器官系としてとらえた内部環境から、人間-生態系へ 2）人間と環境との相互作用として、生物学的適応能、生理的適応能、行動的・文化的適応能の発達を学ぶ。 3）環境教育の意義と歴史的変遷から、各自が受けとめた環境観・教育観を発表、討論を行う。 4）小児生態学の視点を導入した環境教育学の展開を試みる－小児生態学的にみた教材を環境教育教材化し、指導案を作成する。 5）作成した指導案を基に VDT 学習教材を作成し、学部授業で提示し、学習効果、教育評価を実証する。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	①人間生態系からみた環境教育の教育的意義について論述せよ ②人間生態系を基盤にした環境教育教材開発を行う ③地域の拠点としての学校―学校エコ改修と環境教育推進事業（環境省総合環境政策局環境教育推進室）について、現地訪問による知見を述べよ。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 鈴木路子著『人間環境教育学』建帛社、2016.10。 【参考文献】 鈴木路子編著『教育の基礎としての健康の科学』ぎょうせい 鈴木路子：科学研究費報告書ほか 森本兼嚢・平野秀樹・宮崎良文編『森林医学』朝倉書店、2006 大井玄・宮崎良文・平野秀樹『森林医学Ⅱ―環境と人間の健康科学―』朝倉書店、2010			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 エコロジカルな視点を持つことが出来る。 疫学データを駆使することが出来る。 ○評定の方法 授業ごとの感想文・気づき等の授業毎の記述から分析。 現行「学習指導要領」及び「教科書に示された」内容を基盤にして、環境教育の実際から学ぶ			
12. 受講生へのメッセージ	環境教育は、革めた環境教育ではなく、既に存在する「国語」「算数」「理科」「社会」「特別活動」「道徳」等で多くの内容がすでになされている。寺子屋時代の教科書（古書）の中にも、儒教、仏教の根底に流れる哲学は、すべて人間は環境の一部として、人間そのものが環境であり、環境なくしては人間の存在は無いことが示されている。これからの環境教育の在り方を志向し、「教育哲学」「教育史」「教育思想史」また自然科学においても、生態系循環、生体濃縮、進化の過程の中から、人の暮らしや生活生存するそのものが、現代の学校教育における教育目的である「生きる力の育成」に一致する。 広い視点で「環境教育の流れ」とこれからの教育課題を見つめていこうではありませんか。			
13. オフィスアワー	後日通知			
14　学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～5.テーマ	人間生態系からみた環境教育の教育的意義について			
【学習の目標】	人間生態系とは、人類の生活生存（人の暮らし）が、生態系にどのような影響を与え、また変化した生態系が、人類の生活生存に影響を与えることを理解し、相互作用の中で、バランスを保っていることに注目したい。 環境教育のキーコンセプト（鍵概念）は、人の命の営みは、生活生存の場との相互作用によって成り立つため、我々人類は、環境と一体になって存続することを原理とする。よりよい人類の生活生存や生命の営みは、生存する場としての環境を保全することから開始される。			
【学習の内容】	教育生理学、人類生態学ですでに行ってきたフィールド調査を事例として、環境教育における教材開発に応用展開する。 環境と人間との関係を構造的にとらえるとともに、多くの民族はその生活の場である環境からの影響を受け、命をよりよく存続させるための生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応の様式を獲得して、存続することができる。環境の人工化は、各種環境汚染につながり、人体に影響を与えるものである。学校病理現象としての心身症、アレルギー疾患、無気力、不登校、いじめ、うつなどのこころ・からだ・生活行動上に現れる諸現象は、人工化された環境との相互作用の中で出現すること、環境保全活動は、人間の健康・発育・生活生存に相互的に安寧をもたらすものであることを科学実証的に、また体験学習的に学習する。			
【キーワード】	人間生態系、物質循環、生体濃縮、心身症、アレルギー疾患、不登校、いじめ、学校病理現象			
【学習の課題】	人類の生活生存の様式（人口の増加、環境の人工化、樹木の伐採、廃棄物の排出量の増大ほか）が、環境（生態			

	系）のバランスを崩し、地球温暖化、異常気象、地下水の汚染、ほか多くの環境問題をもたらし、人類の生活生存の危機にまで至っている今日的課題を取り上げる。地球環境も、人体も、その相互作用として一義的には理解されるが、ここで人間の内部環境の向上性の維持は、空気・水・光・気圧・土壌といった生活の資源として、命と直結するものであることを科学的に実証し、人間環境系（人間生態系）の考え方を環境教育の目的、内容、方法、評価過程の中に導入する。
【参 考 文 献】	上記 10 に示した教科書・参考書
6～10.テーマ	人間生態系を基盤にした環境教育教材開発を行う －学習指導要領に示された環境教育の目的論・内容論・方法論を検討し、人間生態系の考え方を基盤にした教材開発を行う－
【学習の目標】	国語、算数、理科、社会、音楽、保健、体育、図工等、各教科教育の内容に、人間生態系の見方の導入がすでになされているかについて確認する。（初等教育内容の検討）
【学習の内容】	現行の学習指導要領及び副読本「環境教育」に示された目的・内容・方法・評価について検討する。 ①環境科学、人類生態学、教育生理生態学ほか、最新の科学的知見の導入を図る ②人間の生活生存にかかわる教科と環境に関する教科を科学として、分離した科学的把握がなされていないか、これらを融合して、内部環境–外部環境の恒常性、適応の概念の導入が必要なのではないか？ ③子どもたちはどの程度、環境を自分自身の心身や行動、生活と一体化された中で、認識しているかについての調査を行う。 ④地域環境、生育環境が、子どもたちの生きる力に影響を与え、どのような社会人・職業人が形成されていくか？特に、メンタルヘルス面での適応能力の育成にどうプラスされマイナスされるかについて、把握する方法を模索する。 以上の結果を踏まえ、上記１～４での環境教育内容基礎科学の導入の適切か否かの検討を行う。
【キーワード】	環境教育、各教科別教育内容、内部環境、外部環境、自己形成過程、生育環境、人間生態学、生きる力
【学習の課題】	各教科別教育内容を環境教育の視点から検討し、人間生態系に視点の導入を図る。 自己形成過程に自然環境と一体になった内部環境の恒常性、適応能力の獲得過程を重ね合わせ、日本古来の仏教文化の根底が、自然環境の中での自己形成、自己修行であったことも含め、改めて、森林思考と欧米の砂漠思考の考え方の違いを認識する。
【参 考 文 献】	上記 10 に示した教科書、参考書のほか、小学校・中学・高等学校課程の学習指導要領、教科書、副読本等を収集し、検討する。
11～15.テーマ	改めて、森林研究所、農水省、農学部林学科（環境学科）、工学部建築学科等、他分野における研究内容・方法、その成果についての最新の知見を知り、環境教育への導入を図る－教育学への自然科学分野の導入を図る－と共に環境省総合環境政策局環境教育推進室による「学校エコ改修と環境教育推進事業」等、行政施策としての環境教育推進事業が、児童生徒等の健康と環境との相互作用を認識させる教育プログラムとしての効果を考える。
【学習の目標】	環境教育のキーコンセプトは、人間の生命現象は、環境と一体の中で営まれることを認識することから始まる。 環境教育は、人間の生存教育である。そのため、多くの生きる存在そのものが、環境教育の教材となるものである。物的素材であろうと精神修行の体験であろうとすべてのものが生きている場としての環境と一体になる。空、雲、台風、竜巻、草原、海、風、太陽、地平線、生きとし生けるものを育む場がすべて環境なのである。 日々の生活習慣、価値観、職業の中に、環境教育のキーコンセプトが導入されていることに気付く。人間の存在教育であることを、他分野からの学び・体験から修得する。環境省総合環境政策局環境教育推進室による「学校エコ改修と環境教育推進事業」について、現地視察を行うと共に、小児環境保健への取り組みとしてのエコチル調査、環境保健サーベイランスシステム等についても検討することによって、行政施策としての環境教育推進事業の実態を把握する。
【学習の内容】	環境教育の目標は、人間教育、人格形成、道徳倫理、すべての人間としての学習過程を通して形成されること、本授業での学びはその一端であることを十分に把握したうえで、多くの内容、異なる分野における多くの職業人からの学びを体験する。
【キーワード】	生命現象、道徳、倫理、生き方、自然環境、太陽、気象環境、土壌、植生、精神修行、環境認識、自己覚知 環境教育推進事業、エコチル調査、環境保健サーベイランス・システム
【学習の課題】	教育とは異なると思われる分野からの学びを図る。そこから、計り知れない環境教育の原点を察知することができる。 日々の生活が、環境と共存の中で生まれ育てられていることを覚知するとともに、自分自身の生命の尊さを、存在そのものを大切に育む心を豊かにすることを体験する。さらに環境保健教育推進義行の実態と今後の課題を考える。
【参 考 文 献】	上記 10 以外の各種分野の資料、出版物を自主的に入手し、読破し、表現する。

1．科目名（単位数）	教育社会学演習　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5315
2．授業担当教員	【池袋】小野　智一　【名古屋】長谷川　誠			
4．授業形態	演習		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	教育社会学特論で学んだ教育社会学的な知識と思考法を基礎とし、近年のいくつかの教育社会学研究の成果を精読する。その作業を通じて、各自の研究テーマの考察と分析の仕方を捉えなおすことを目的とする。			
8．学習目標	1.近年の重要な教育社会学研究を精読し、当該分野の先端を行く研究を理解する。 2.各自の研究テーマを、1 の観点から検討し直す。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	アサインメント：課題文献を課す。各自で読み込み、概要を把握する。 レポート：各自の研究テーマとの関連性が強いものを選択し、それについてレポートを学期末までに作成する。			
10．教科書・参考書・教材	授業で扱うテーマに応じて、必要な文献資料を紹介する。 【参考書】 A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ『教育社会学―第三のソリューション』九州大学出版会、2005 年。 A.ギデンス（松尾精文，小幡正敏訳）『近代とはいかなる時代か？―モダニティの帰結―』而立書房、1993 年。 U.ベック（東廉，伊藤美登里）『危険社会』法政大学出版局、1998 年。 加野芳正・越智康詞『新しい時代の教育社会学（シリーズ 現代の教職 7)』ミネルヴァ書房、2012 年。 原清治ほか『教育の比較社会学』学文社、2004 年。 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012 年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012 年。 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣、2007 年。 加藤有希子『カラーセラピーと高度消費社会の信仰』サンガ、2015 年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004 年。 A. H. Halsey (1997) *Education: Culture, Economy, and Society.* Oxford Univ Pr on Demand Brighouse, H. (2006) *On Education*. Routledge LTD. Bartlett, S. and Burton, D. M. (2012) Introduction to Education Studies (Third edition). Sage Publications. Murphy, L., Mufti, E., & Kassem, D. (2009) Education Studies: An Introduction. Open University Press.			
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1.近年の重要な教育社会学研究を精読し、当該分野の先端を行く研究を理解することができたか。 2.各自の研究テーマを、1 の観点から検討し深めることができたか。 ○評定の方法 授業への参加姿勢　20% 発表　40% レポート　40%			
12．受講生へのメッセージ	アウトプットを意識すると、インプットを有意義かつ効率的に行うことができます。各自の研究テーマとの関連性を意識しながら授業に臨んでください。			
13．オフィスアワー	担当教員が伊勢崎キャンパス所属であるため、E メールでアポイントメントを取ってください。			

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	オリエンテーション：授業の進め方；教育社会学とはどういう学問か；受講生の研究関心テーマの概要発表
【学習の目標】	教育を社会（学）的に研究するとはどういうことかを理解する。
【学習の内容】	学問体系の歴史と拡がり。
【キーワード】	教育社会学・教育学・社会学
【学習の課題】	学問のありようを理解する。
【参考文献】	受講生の関心と能力に応じて、決定する。
【学習する上での留意点】	社会科学の特徴を押さえること。
2．テーマ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー①
【学習の目標】	教育社会学的な観点から、各自の研究テーマを考察する。
【学習の内容】	テーマと研究計画について
【キーワード】	※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】	教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】	※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】	文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。
3．テーマ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー②
【学習の目標】	教育社会学的な観点から、各自の研究テーマを考察する。
【学習の内容】	テーマと研究計画について
【キーワード】	※各自の研究上のキーワード

【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

4～8.テーマ	教育社会学の社会的使命―最新トピックおよび古典的課題から―①～⑤

【学習の目標】　教育社会学の最新トピックおよび古典に触れ、考察の視座を学ぶ。
【学習の内容】　（取り上げるテーマの例）
・ハルゼーらによる教育のブルジョア化に関する自由主義の理論
・平等への障害：職業的ヒエラルキー・学校教育・遺伝的能力差
・消費社会に生きる子どもの諸相　個人主義の勃興とポジティヴシンキングの功罪
・globalization の展開と世界社会論
・リスクとリスク社会論　他（受講生の研究テーマにより取り上げる内容には若干の調整をする。）
【キーワード】　（上記学習の内容例との対応で以下順番に列挙する）
マーシャル・自由主義、構造的不平等の問題、高度消費社会・セラピーと自己啓発、globalization と世界社会論、リスク社会
【学習の課題】　（上記学習の内容例との対応で以下順番に列挙する）
ミドルクラス（中間層）の出現と教育の関係、社会変動の決定論と開放性、資源配分の構造的不平等と教育の関係、教育以外の社会学的研究も含めて「高度消費社会」と教育の関係を探究、globalization の展開、ベックのリスク論
【参考文献】　（上記学習の内容例との対応で以下順番に列挙する）
・A. H. Halsey (1997) *Education: Culture, Economy, and Society.* Oxford Univ Pr on Demand
・加藤有希子『カラーセラピーと高度消費社会の信仰』サンガ、2015 年
・陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012 年
・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣、2007 年
・酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012 年
・A.ギデンス（松尾精文，小幡正敏訳）『近代とはいかなる時代か？―モダニティの帰結―』而立書房、1993 年
・U.ベック（東廉，伊藤美登里）『危険社会』法政大学出版局、1998 年
【学習する上での留意点】　社会の変容は教育にどのような影響を与えたのか、先行研究の分析の視点に留意する。最新の研究論文も踏まえ、社会変容と教育の近接領域を見る。政治・経済的な側面からも理解するように努めること。

9．テーマ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー③

【学習の目標】　教育社会学的な観点から、各自の研究テーマを考察する。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

10．テーマ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー④

【学習の目標】　教育社会学的な観点から、各自の研究テーマを考察する。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

11．テーマ	各受講者の研究の進捗状況の発表①

【学習の目標】　研究の進捗状況について報告する。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

12．テーマ	各受講者の研究の進捗状況の発表②

【学習の目標】　研究の進捗状況について報告する。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

13．テーマ	各受講者の研究の進捗状況の発表③

【学習の目標】　研究の進捗状況について報告する。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

14．テーマ	各受講者の研究の進捗状況の発表④

【学習の目標】　研究の進捗状況について報告する。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

１５．テ ー マ	まとめ

【学習の目標】　教育社会学の観点からテーマを捉え直す。
【学習の内容】　テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】　※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】　教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】　※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】　文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。

1．科目名（単位数）	教育臨床心理学演習　（2 単位）	池袋	3．科目番号	EDMP5328
2．授業担当教員	原　千恵子			
4．授業形態	講義、演習		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	学校現場における様々な問題について対処する方法を具体的事例を中心に理解し、援助するための実際的方法を体験的に獲得する。心理学の理論であるロジャーズの来談者中心療法、箱庭療法、自律訓練法、認知行動療法、芸術療法などの実際的技術の習得も演習の目的とし、教育実践のなかで心理学の知見を活かす方法を身につける。			
8．学習目標	1．教育現場での問題に対応する解決方法を理解する。 2．問題解決のための介入方法を学ぶ。 3．データを客観化し、調査、実験対象として研究する。 4．研究成果をまとめ、発表する。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	1．教育現場で何が問題であるかを考える。 2．臨床心理学関連の文献購読 3．国の内外の研究論文を読む			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 原千恵子・奥村水沙子著『実践から学ぶやさしい臨床心理学』2003　学苑社 【参考文献】 原千恵子編著『心理学 A to Z 』学苑社、2007 原千恵子著『傾聴・心を聴く方法』学苑社、2009 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房、2006			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 心理学の実践に於ける諸法を身につけ実践し学ぶ。まず自分を対象として得られたものについてまとめる。 ○評定の方法 アサイメント（宿題）及びレポート課題 40%　出席状況 30% 授業態度 30%			
12. 受講生へのメッセージ	教育臨床心理学演習は教育臨床心理学特論で得られた知識や技術を教育の現場で効果を得るために研究し実践して教育に貢献しようとするものです。講義や研究は、現実と遊離しがちですが、ここでは常に教育現場を念頭におき、現場で見られる問題を中心に「なぜ」そのような現象が起きるのか、解決へむけて対処し、改善するためにどのような実際的方法があるのかを考えながら研究を進めてください。			
13. オフィスアワー	**研究室に在室している時はいつでもよい**			

14　学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1～2.テーマ	教育現場で役にたつアセスメント　1質問紙法

【学習の目標】質問紙法について理解し、実際に使用する。
【学習の内容】質問紙法は客観性が高く、集団に実施できるので学校教育で利用価値が高い。質問紙について理解し、適切な使用法を考える。
【キーワード】質問紙の種類、質問紙の限界、質問紙の条件
【学習の課題】実際に児童・生徒に使用してみて質問紙について学ぶ。そのために自分で体験してみる。
【参考文献】　丹野義彦『エビデンス臨床心理学―　認知行動理論の最前線』日本評論社、2001
市川伸一（編）『心理測定法への招待―測定から見た心理学入門』サイエンス社、1991
福井至　Depression and Anxiety Mood Scale(DAMS)　『開発の試み　行動療法研究』23, 83－931997
【学習する上での留意点】質問紙法は信頼性、妥当性が検討され保証されていなければならない。結果はほとんど数値で示されるしかし数値のみで理解し、比較・検討するのは危険である。数値で表現できる限界を知らねばならない。

3～4.テーマ	1．教育現場で役にたつアセスメント　2．投影法

【学習の目標】投影法を学んで学校臨床の場で適切に生かす
【学習の内容】投影法は人格検査の１つである。投影法の特色である反応の自由度さがあり、対象者は防衛なく自己を表現できる。又アセスメントでありながら検査者と被検査者が互いに交流をもつことができ、治療的効果も期待できる。学校での利用価値は大きい。
【キーワード】投影法、ＳＣＴ，ロールシャッハ・テスト、Ｐ－Ｆスタディ、バウムテスト
【学習の課題】投影法テストのいくつかを習得し、得意なテスト使いこなすこと。
【参考文献】　Karen Bolander Assessing Personality Through Tree Drawing 高橋依子訳『樹木画によるパーソナリティの理解』ナカニシヤ出版、1999
Exner,J.E.The Rorschach:A comprehensive system,vol.1:Basic foundation,2nd ed. Wiley.
【学習する上での留意点】投影法は主観に偏りやすいので注意が必要である。客観的なテストとともに用いることが重要である。

5～6.テーマ	知能検査を教育現場で役にたてるためにどのように利用するか。

【学習の目標】知的能力に問題があって適応できない場合に役だてる。知能の本質を理解し、テストの限界についても考える
【学習の内容】知能テストの種類、目的、測定可能な能力などについて理解し適切に用いる。
【キーワード】知能指数、精神年齢、ビネーテスト、ＷＩＳＣ－Ⅲ、ＷＡＩＳ－Ｒ
【学習の課題】教育の現場で適切に知能テストを用いることにより教育効果を期待する
【参考文献】　松原達哉編著『心理テスト法入門　基礎知識と技法習得のために』日本文化科学社、2002
【学習する上での留意点】テストの成り立ちを考え、測定可能、不可能を理解した上で適切に用いること。テスト結果が全てでないことを理解し、結果のみで判断しないこと。

7～8.テーマ	教育効果を高めるための介入モデル　1箱庭療法

【学習の目標】個別的な治療ばかりではなく小グループカウンセリングにも箱庭を用いてみる。
【学習の内容】個別で箱庭作品を作ることにより心的開放感を味わえるが、小グループに用いることにより他者への気遣い、仲間意識、共感性などを学ぶ機会を作る。
【キーワード】箱庭作品、共感性、自己意識、他者意識

【学習の課題】作品に表現されたものを理解し、児童・生徒の情緒的な安定感を得られるように用いる。
【参考文献】　Kalff,D,M.　大原貢・山中康裕共訳『カルフ箱庭療法』誠信書房　1972
河合隼雄『箱庭療法入門』誠信書房、1969
河合隼雄・中村雄二郎『トポスの知・箱庭療法の世界』TBS ブリタニカ、1984
木村晴子『箱庭療法－基礎的研究と実践』創元社、1985
【学習する上での留意点】諸理論だけで問題を理解しようとしないこと

9～10.テーマ	1教育効果を高めるための介入モデル　2自律訓練法

【学習の目標】自律訓練法は他の治療法と違って集団でできる利点を持ち、児童・生徒の精神的な安定感、やる気をひきだすことができる。精神的健康度を高めることができるので一般児童、生徒に有効である。
【学習の内容】自律訓練法の理論と実際を理解し、児童・生徒に実施する。6 公式全部でなく、2 公式のみの習得でも効果は期待できる。自主性を育てる訓練にもなる。
【キーワード】標準練習、6 公式、安定感、能力開発、イライラ感、気づき
【学習の課題】自律訓練法をマスターし、効果を教育に利用する。児童・生徒が自発的に訓練することにより自己コントロール能力をつける。
【参考文献】　佐々木雄二『自律訓練法の実際―心身の健康のために』創元社、1976
佐々木雄二『自律訓練法の臨床』岩崎学術出版社、
笠井仁『ストレスに克つ自律訓練法』講談社、2000
松岡洋一・松岡素子『自律訓練法』日本評論社、1999
【学習する上での留意点】標準練習の 6 公式を学ぶのは時間がかかるので、はじめの 2 公式のみを学んで応用段階としての特殊練習を行ってもよい。特殊練習により自己の目標を達成するために自律訓練法を学ぶ。

11－12.テーマ	教育効果を高めるための介入モデル　3描画療法

【学習の目標】自己像描画、家族画、樹木画などのように絵を描くことにより、児童・生徒に介入し心身の健康を増進させる。
【学習の内容】描画は反応の自由度が高く、自己の内面を表現できる手段である。好きな絵を描くだけで情緒安定をはかることができ、イライラ感をなくし、積極的なエネルギーを得ることができる。また絵を介して個人的な対応もグループとしての対応も可能である。絵についての会話は必須で、その中で描き手の深層心理が理解できる。他の介入方法と違って作品を保存することにより、時間経過に従った変化を残すこともできる。
【キーワード】自己像描画、家族画、樹木画、ＨＴＰ、自由、自己表現、深層心理
【学習の課題】自由に絵を描くことの楽しさを自らも体験すること
【参考文献】　研究雑誌　臨床描画研究　日本描画テスト・描画療法学会編
【学習する上での留意点】児童・生徒が制作した作品を心から味わうようにすること。作品について話しあうこと。

13－14.テーマ	児童期の心の理解

【学習の目標】児童期の対象者は、心身の未成熟のために心理的問題が体や行動面にあらわれやすい、という特徴を持っている。そのため心身の問題がどこからきているか、見極めがつきにくい 1 面がある。日常場面の行動や、非言語的な手段による把握が必要である。
【学習の内容】話を聞く、と言った一般的な方法にとどまらず一緒に遊ぶ、行動を共にするなどのアプローチが必要な場合がある。この時期の対象者の心理をよく理解したうえで対応の仕方を考える。
【キーワード】心身の未成熟、体や行動の異常、自意識のめばえ
【学習の課題】発達的段階、特徴を十分理解して対応すること
【参考文献】　伊藤隆二・橋口英俊・春日喬編『思春期・青年期の臨床心理学』駿河台出版社、1994
佐治守夫（監修）『思春期の心理臨床』日本評論社、1995
村瀬嘉代子『こどもと大人の心の架け橋』金剛出版、1995
【学習する上での留意点】問題行動が多発しやすい時期なので発達と言う観点から心を理解し、不適応とか異常の判断には慎重でなければならない。

15．テーマ	思春期の心の理解

【学習の目標】思春期は第二次性徴を迎え、身体的に急激に変化するので心理的にも混乱する時期である。他者と自分との関係や自分なりの価値観を模索する。そのため周囲との不一致や不適応感をもちやすい。そのような時期を理解し、バックアップすることを目標とする。
【学習の内容】心身ともに不安定になりやすい時期であり、問題も深刻化しやすく、慎重な接し方が必要である。時には児童相談所とのコラボレーションも必要になることもある。一方飛躍的な発達も見られる時期であるので、学校でそのような子ども達をどのように指導するかについて充分な検討が必要である。
【キーワード】不安定、第二次性徴、急激な変化、児童相談所
【学習の課題】対象者の理解、心理的援助、
【参考文献】　村瀬孝雄『中学生の心とからだー思春期の危機をさぐる』岩波書店、1996
福島章『思春期のこころの深層』大和書房、1979
【学習する上での留意点】大人には気づかない心の動きがある。それをどの程度理解し、バックアップできるかが重要である。

1．科目名（単位数）	児童心理学特論　（2 単位）	池袋	3．科目番号	EDMP5344
2．授業担当教員	岡野　雅子			
4．授業形態	講義・演習		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	発達を量的、質的向上と捉えるのではなく低下も含むと考えると、発達は量的質的変化と考えられ、生涯にわたる。ここではライフサイクルにおける比較的初期の発達を児童心理学ととらえる。人間の初期の発達のさまざまな現象をあつめ、整理された発達の原理・原則を学ぶ。一方、そのような児童心理学で得られた知見を実際の子育てや教育・福祉・司法の場でどのように役立てるかを考える。ここでは特にアタッチメントに焦点をあて実際に子育てや問題行動に対処する方法として考えたい。			
8．学習目標	児童期の発達研究でどのような知見が得られているか把握する。さらに家庭や幼稚園・保育所・認定こども園における保育・教育、学校における教育などにおける実際的問題を解決するにあたり、得られた知見がどのように役立てられるか、について考える。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	保育･教育、福祉において日常的におこる問題をどのように対処するかについて積極的に考える。			
10. 教科書・参考書・教材	内田伸子（編）『発達心理学キーワード』有斐閣 柏木惠子『発達心理学入門　子どもの発達・学習・社会化』有斐閣 河合隼雄『こころの子育て（誕生から思春期までの４８章)』朝日新聞出版 河合隼雄『おとなになることのむずかしさ』岩波書店 庄司順一他『アタッチメント』明石書店 数井みゆき　編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房 下山晴彦編・南風原朝和他『心理学研究法入門』東京大学出版会 ボウルビィ、Ｊ．黒田実郎他（訳）『1976 母子関係の理論１：愛着行動』岩崎学術出版			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 一生の中での発達初期の重要性を理解し、人の発達をどのようにとらえているか。 ○評定の方法 レポート 60% 日常の授業態度 40%			
12. 受講生へのメッセージ	児童心理学は人間の発達の基礎を学ぶものです。発達の過程をしっかり把握することで人間を理解することができます。一般的、客観的な発達ばかりでなく、個人を中心としたこころの発達も学びましょう。			
13. オフィスアワー	授業の前後			

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1～２.テーマ	乳幼児期の発達

【学習の目標】　「受精から死までの量的・質的変化」を発達と捉え、その特徴を理解する。さらに各発達ステージには課題があることを理解する。
【学習の内容】　心身の機能の発達には分化と統合、方向性、順序性、臨界期・最適期、個人差がある。
【キーワード】　ハヴィーガーストの発達課題、エリクソンの人格発達図式。
【学習の課題】　乳幼児の発達の特徴を把握する。人の一生の各段階には課題が想定されていることについて考える。
【参考文献】　内田伸子（編）『発達心理学キーワード』有斐閣
柏木惠子『発達心理学入門　子どもの発達・学習・社会化』有斐閣
【学習する上での留意点】　発達に関するこれまでの知見を理解する。

３～４.テーマ	遺伝と環境

【学習の目標】　発達は遺伝と環境のどちらに影響を受けるか。
【学習の内容】　発達初期に影響を与えるのは何かを理解する。発達と遺伝に関する諸説を理解する。
【キーワード】　成熟　経験　ゲゼル　輻輳説　相互作用説　刷り込み　臨界期　ローレンツ
【学習の課題】　発達の複雑さ、多様な要因を理解する。
【参考文献】　柏木惠子『発達心理学入門　子どもの発達・学習・社会化』有斐閣
【学習する上での留意点】　遺伝と環境については種々の考え方があるが、どれも実証的な研究は困難なので結論は出しにくい。

５　テ　ー　マ	発達研究法

【学習の目標】　横断研究と縦断研究　　量的研究と質的研究　などの発達研究法を理解する。
【学習の内容】　これまでの知見がどのような研究法に基づいてなされてきたか検証し、実際的研究法について学ぶ。
【キーワード】　一卵性双生児研究、知能の発達
【学習の課題】　発達の研究にふさわしい方法はなにか、実際上、実施可能な方法か、等について学ぶ。
【参考文献】　下山晴彦編・南風原朝和他『心理学研究法入門』東京大学出版会
【学習する上での留意点】　横断研究、縦断研究の折衷法があり、また同一の研究を量的と質的の双方で結果をだす方法も試みられている。

６．テ　ー　マ	アタッチメント　愛着形成・行動・パターン　　成長後の愛着

【学習の目標】　人間の発達のなかで特定の個人と親密な関係を作り、深い情緒的絆を結ぼうとする基本的な欲求があり、アタッチメントという。この行動は人間性のあらゆる基礎を作るものであり長い人生を左右するものである。
【学習の内容】　アタッチメントはどのような行為をさすか、誰により、どのように形成されるか。人の一生においてどのように重

	要か、について学ぶ。 【キーワード】　ボウルビィ、エインズワース、ハーロウ、発信行動、定位行動、ストレンジシチュエーション法 【学習の課題】　アタッチメントを的確に学ぶ。 【参考文献】　ボウルビィ、Ｊ．黒田実郎他（訳）『1976 母子関係の理論１：愛着行動』岩崎学術出版
7 ～ 8 .テーマ	アタッチメント理論の概要：アタッチメント・システムと養育システム
	【学習の目標】　アタッチメント・システムとは何か、を学ぶ。 【学習の内容】　乳児はアタッチメント・システムにより外的内的安心を得て不安・危機を回避し安心できる状態を得る。これらは１対１の人間関係のなかで成立する。この関係は比較的長く維持される。 【キーワード】　泣き，ほほえみ、ハイハイ、歩行、シグナル、内的作業モデル、探索システム 【学習の課題】　アタッチメント理論を理解し、実際場面で観察する。 【参考文献】　数井みゆき　編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房 【学習する上での留意点】　乳児のアタッチメントのタイプを理解する。回避型、安定型アンビバレント型、無秩序・無方向型等。
9 ～10.テーマ	話せるようになること
	【学習の目標】　話し言葉はどのように形成されていくか、を理解する。 【学習の内容】　話し言葉の発達的段階の理解。 【キーワード】　シンボルとしての言葉。 【学習の課題】　話し言葉の発達を理解する。 【参考文献】　柏木惠子『発達心理学入門　子どもの発達・学習・社会化』 【学習する上での留意点】　話ことばは発達することを理解する。
11～12.テーマ	読み書きできるようになること
	【学習の目標】　読み書きできることの意味を知る。 【学習の内容】　読み書きの発達を考える上で子どもの遊びが大事なことを知る。 【キーワード】　しりとり、拾い読み、単語読み　読むことと書くことは違う。 【学習の課題】　認知的発達について理解する。 【参考文献】　柏木惠子『発達心理学への招待』 【学習する上での留意点】記憶，知覚などへ発展させる。
13～14.テーマ	創造力―象徴機能の発達
	【学習の目標】　表象の操作と思考について考える。 【学習の内容】　表象の機能を考える。 【キーワード】　表象、創造、象徴機能 【学習の課題】　思考の柔軟性 【参考文献】　柏木和子他　『発達心理学への招待』 【学習する上での留意点】子どもの「ごっこ」遊びは象徴機能の表れであることを理解する。
15 テーマ	まとめ
	【学習の目標】発達に視点を決めてまとめる。 【学習の内容】時間による理解、文脈による理解、文化による理解など。

1．科目名（単位数）	生徒指導演習　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5312
2．授業担当教員	【池袋】古俣　龍一　【名古屋】石﨑　達也			
4．授業形態	演習		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	春期の生徒指導特論を履修していることが望ましい。			
7．講義概要	生徒指導特論における生徒指導の理論的枠組みの理解をもとに、本演習では実践を前提とした理論・方法について学ぶ機会を提供する。生徒指導の理論・方法は、児童生徒の成長を促し、問題行動を予防するとともに問題行動解決の過程のいずれの段階においても教師のその力量が大きな影響を与える。そのためこれらを理解し習得することは、生徒指導の実践上の必須課題である。同時に、児童生徒の理解や問題行動のとらえ方や児童生徒と教師の教育的関係の構築に関する重要な理論・実践を検討・分析する中で、受講者各自の関心・問題意識をもとにした調査研究に関する指導・援助も行う。			
8．学習目標	1 今日の児童生徒指導の現状と問題点を分析・考察するため先行研究を分析・考察し、批判的に論じることができる。 2 今日の児童生徒理解の理論・方法を分析・考察するための先行研究を分析・考察し、批判的に論じることができる。 3 個々の事例における児童生徒の問題行動の特徴や課題に応じて、自ら予防・解決に向けた対策を立てることができる。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	・テーマごとに討論するため、事前に配布資料を熟読し、自らの意見や調査した内容をA4版2枚程度にまとめた資料を準備すること。 ・生徒指導上の諸問題に関する調査を実施し、その成果を発表すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、最新版。 【参考書】 古俣龍一『トラペジウム–先生と生徒の学級通信』圭文社、2009 年（資料は適宜配布）。 川本隆史編『ケアの社会倫理学　医療・看護・介護・教育をつなぐ』有斐閣選書、2005 年。 Nel Noddings, *The Challenge to Care in Schools: An Alternative Approach to Education*, Advances in Contemporary Educational Thought series, vol. 8. New York: Teachers College Press, 1992.（邦訳）ノディングズ『学校におけるケアの挑戦–もう一つの教育を求めて』ゆるみ出版、2007 年。） ＊その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介するので、図書館を活用すること。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	【評価規準】 ・今日の「生徒指導の現状」および「児童生徒理解の理論・方法等」について、先行研究等をもとに問題点を探り、分析・考察し、自分の考えを述べることができたか（学習目標 1 ,2)。 ・児童生徒の問題行動の特徴や課題に応じて、自ら予防・解決に向けた対策を講じることができたか（学習目標 3)。 【評価の方法】 ・成績評価は、①授業態度(30%)、②課題レポート(40%)、③研究発表(30%)の成果によって決められる。 ・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12. 受講生へのメッセージ	大学院では「先行研究の読解力」「論理的思考力」「学術的文章の作成力」を鍛えることが求められています。自らの研究論文作成に向け、講義に受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら進んで文献・資料収集、調査研究を行うなど、試行錯誤しながら学びを深めて行ってください。また、本講義は前期開講の「生徒指導特論」での学びをふまえ、更なる展開として、生徒（児童も含む）指導上の諸課題に関する課題分析能力およびプレゼンテーション能力に付けることを目的としています。			
13. オフィスアワー	古俣龍一：事前にアポイントをとってください E-mail:rykomata@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 石﨑達也：事前にアポイントをとってください E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1～4．テーマ	児童生徒理解に関する実践的・研究的課題–学級経営、各教科・道徳等との関わり
【学習の目標】	学校現場におけるさまざまな活動から、児童生徒理解の意義についての理解を深める。
【学習の内容】	「児童生徒を理解するとはどういうことか」について討論し、前提となる教育観や指導観を交流する。
【キーワード】	共感的理解　児童生徒の自己理解　教師の自己理解　学級づくり　道徳　総合的な学習の時間
【学習の課題】	児童生徒及び教師自身の自己理解の重要性について考察を深め、自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	生徒指導理解に関する先行研究をレビューする。
5～7．テーマ	問題行動等への対応に関する実践的・研究的課題
【学習の目標】	問題行動に対する生徒指導の理論・方法について検討する。
【学習の内容】	いじめ、不登校、その他の問題行動に関する事例をもとに、課題解決に向けた討論を行う。
【キーワード】	いじめ　不登校　自殺　暴力　万引き　飲酒　喫煙
【学習の課題】	問題解決に向けた対策を検討した上で、問題行動等への対応に関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	児童生徒の問題行動への対処に関する先行研究をレビューする。
8~10.テーマ	キャリア教育に関する実践的・研究的課題
【学習の目標】	キャリア教育の実践と今日的課題について検討する。
【学習の内容】	キャリア教育の理論を理解した上で、キャリア発達とその支援について意見をまとめ、交流する。

【キーワード】　キャリア発達　生涯発達　進路相談　フリーター・ニート問題
【学習の課題】　キャリア教育の今日的課題を検討した上で、キャリア教育のあり方について自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　　授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】　キャリア教育に関する先行研究をレビューする。

11~12.テーマ	教育相談に関する実践的・研究的課題

【学習の目標】　教育相談の事例から教育相談の技法と生徒指導のあり方を検討する。
【学習の内容】　基本的なカウンセリング方法を学び、受講者同士でロールプレイを行い、その体験をもとに討論する。
【キーワード】　クライエント　カウンセラー　観察
【学習の課題】　討論した内容をもとに、教育相談の意義と課題に関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　　授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】　カウンセリングの基礎を復習しておくこと。

13~15.テーマ	調査報告

【学習の目標】　生徒指導上の諸問題に関して各自が調査した内容をレポートにまとめて報告すること。
【学習の内容】　各自が 20 分程度の研究発表を行った上で、そのテーマに関する討論を行う。
【キーワード】　基本的な生活習慣　校内規律　少年非行　いじめ　インターネット・携帯電話に関わる課題　性に関する課題　命の教育と自殺防止　児童虐待　不登校　ケアリング　スクール・ソーシャルワーク
【学習の課題】　発表の際、研究発表に関する基本的なルールにしたがうとともに、発表の仕方も十分に工夫すること。
【参考文献】　　授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】　終了後、各自の発表をふりかえり、課題をレポートにまとめること。

1．科目名（単位数）	人間環境学特論　（2 単位）	池袋	3．科目番号	EDMP5371
2．授業担当教員	鈴木　路子・山本　静雄・神宮　直人・石﨑　達也			
4．授業形態	講義、ディスカッション、機器による環境測定・生体計測		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	「衛生学」を習得していること、国際保健学特論に発展する			
7．講義概要	本講義は、人間の発育、生活生存と各種環境問題（空気・水・光・音・植生・生態系）との相互作用を自然科学として把握するとともに、教育人間学の観点から「人間」と「環境」に着目した思想を再解釈し、自己実現能力と自己ケア能力の育成を目指すものである。 本講義は、環境適応能力の発達を人工温熱環境による歪みとして実証してきた研究者、教育人間学の観点から現代思想を読み解いてきた研究者、そして今日、グローカル・グローバル双方の調査能力が求められていることから実際の調査研究を行なってきた研究者らがオムニバス形式で講義し、臨床教育研究としての「人間環境学」の構築を目指す。 （鈴木）人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応」の概念に関する知見を人間環境教育学の視点から考える。 （神宮）人間の生命の営みと自然環境・人工環境との相互作用について、環境測定技術の習得、体験学習を行う―人間環境としての大気汚染・水質汚濁・地球温暖化・放射線汚染等を測定技術習得・評価を行う。 （山本）本講義では、重要な生体防御機構の一つである特異的な免疫機能に有益な免疫現象と有害な免疫現象を惹起する両面があることを論ずる。その上で、ストレスが免疫機能に及ぼす影響について言及する。 （石﨑）急速な社会変化の中で、「人間」の尊厳や命の尊さが軽視されるおそれがある。このような「人間」の危機を乗り越えるために新たなパラダイム構築が求められている。本講義においては、人間と環境に着目した教育人間学を再解釈することにより、新たなパラダイム構築を目指す。			
8．学習目標	（1）人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解する。 （2）感染防御機能やアレルギーなどの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論日常生活に応用できる能力を培うことを目指す。 （3）先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識の習得を目指す。 （4）本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることを目指す。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	（リーディング・アサイメント）テーマごとに配布された資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。 （ライティング・アサイメント）本講義はオムニバス形式で開講するため、テーマごとに担当教員から、異なる形式のレポート課題の提出を求められる。			
10．教科書・参考書・教材	【教科書】 （鈴木）鈴木路子著『人間環境教育学』建帛社、2017 年。 鈴木路子編著『人間環境・教育福祉論』光生館、2007 年。 （山本）配布資料を用いる。 （神宮）配布資料を用いる。 （石﨑）資料は適宜、配布する。資料を整理するファイル等を用意すること。 【参考書】 （鈴木）鈴木路子・真野喜洋編『教育健康学』ぎょうせい、2010 年。 （石﨑）吉田敦彦『ホリスティック教育論』日本評論社、1999 年。			
11．成績評価の規準と評定の方法	【評価の規準】 （1）人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解することができたか。 （2）感染防御機能やアレルギーなどの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論日常生活に応用できる能力を培うことができたか。 （3）先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を習得することができたか。 （4）本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることができたか。 【評価方法】 ・成績評価は①授業態度（30%）②課題レポート（40%）③研究発表（30%）の成果によって決められる。 ・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12．受講生へのメッセージ	（鈴木）現代の子どもの健康課題を解決していく手がかりを、環境適応能力の立場から探求し、よりよい人間の生命生存について共に考える場に、意欲を持って取り組むことを期待したい。 （山本）この講義は、皆さんが日常生活で直面する事柄を理解する上で役立つ内容で構成されていますから楽しく取り組まれるよう希望します。 （神宮）未来に向かう人生設計（学士課程）を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を再認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。 （石﨑）大学院では「先行研究の読解力」「論理的思考力」「学術的文章の作成力」を鍛えることが求められている。自らの研究論文作成に向け、講義に受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら進んで文献・資料収集、調査研究を行うなど、試行錯誤しながら学びを深めてほしい。			
13．オフィスアワー	鈴木路子：事前にアポイントをとってください E-mail:m-suzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 山本静雄：在室時は随時。 神宮直人：水曜日根津研究所にて、測定の実践力・対応力を身に着けるための日常生活上の連続測定を行う。 石﨑達也：事前にアポイントをとってください E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14．学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】				
1．テーマ	人間の生命の営み：各種環境下での人間の免疫機能（現象）の概要			
【学習の目標】	免疫現象には感染防御を担う有益な免疫現象とアレルギーなどを惹起させる有害な免疫現象があることを理解する。			
【学習の内容】	免疫現象は、非自己(抗原)を認識し、それを排除する現象であり、この現象が感染防御を担い、一方ではアレルギーを惹起させる。これらの機序を説明する。			
【キーワード】	人間の生命の営み：自己、非自己の科学、抗原、アレルゲン、アレルギー			

【学習の課題】　免疫現象の機序を把握する。
【参考文献】　配布資料、教科書
【学習する上での留意点】　免疫現象は自己と非自己を識別して非自己を排除する現象であることを理解する。

2．テ ー マ	人間の生命の営み：有益な免疫現象（感染防御機能など）、自己を守るための基本原理を理解する

【学習の目標】　特異的免疫に補体を活性化して病原性微生物を傷害（破壊）させたり、病原性微生物の感染を阻止する機能があることを理解する。
【学習の内容】　有益な免疫現象の例として、ウイルスの感染防止及び補体を活性化させて細菌を傷害する機序を解説する。
【キーワード】　補体、膜傷害複合体（MAC）、中和抗体
【学習の課題】　有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス（HIV：エイズの原因ウイルス）などに対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。
【参考文献】　配布資料、教科書
【学習する上での留意点】　抗体は単独で細菌（やウイルス）を傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。

3．テ ー マ	人間の生命の営み：有害な免疫現象（アレルギーなど）

【学習の目標】　特異的免疫にアレルギーなどの生体にとって有害な免疫反応を惹起させる現象があることについて理解を得る。
【学習の内容】　有害な免疫現象の例として、アレルギーとその発現機序について解説する。さらに、身近に存在するアレルゲン（アレルギーの原因物質）について説明を行う。
【キーワード】　アレルギー、アレルゲン、IgE 抗体、肥満細胞、ケミカルメディエーター
【学習の課題】　アレルギーの発現においては、アレルゲンに対して産生された IgE 抗体、肥満細胞及びアレルゲンの３者によってケミカルメディエーターを放出させることを把握する。
【参考文献】　配布資料、教科書
【学習する上での留意点】有害な免疫現象の結果として発現するアレルギーと自己免疫疾患は異なる機序に基づくことを理解する。

4．テ ー マ	人間の生命の営み：免疫系と神経・内分泌系及びその他の臓器細胞系との関係

【学習の目標】　免疫系と神経・内分泌系は密接に連携しており、ストレスが免疫系の働きに影響を及ぼすこと、さらに免疫系が消化器系、循環器系、泌尿器系などの細胞を傷害することについて理解を得る。
【学習の内容】　脳がストレスを感知した場合に、神経・内分泌系の作用によって免疫機能の低下を招くこと、一方免疫系が他の臓器細胞に傷害を与える現象を臓器別に解説する。
【キーワード】　ストレス、副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）、副腎皮質ホルモン、ノルアドレナリン、アセチルコリン
【学習の課題】　精神的なストレスが引き金となって各種のホルモンを分泌させ、その結果免疫系に影響を及ぼすことを把握する。さらに免疫系が各種の臓器細胞を傷害することを理解する。
【参考文献】　配布資料、教科書
【学習する上での留意点】　免疫系と神経・内分泌系の関係にはホルモンが比較的複雑に作用するが簡潔に理解すること。

5~9.テーマ	未来に向かう人生設計（学士課程）を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。

【学習の目標】　人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。
【学習の内容】　（１）温度適応能力の発達に及ぼす影響や人間がある地域環境で暮らすということの意味について、インドネシアでの研究成果をもとに考察を深める。
（２）健康教育の現代的課題として、都市化・人工化とアレルギー反応（アトピー性皮膚炎や喘息）の問題について、各種データをもとに考察を深める。
（３）大気汚染・水質汚濁・地球温暖化による影響と環境測定技法を習得する。
【キーワード】　生育環境, 気象条件, 寒冷血管反応, 局所性耐寒性テスト, アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】 人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

10~14.テーマ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育人間学

【学習の目標】　教育人間学についての理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】　各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】　臨床教育, ホリスティック教育, 人間形成, 対人援助, 精神性, ケア
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】　事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

１５．テ ー マ	まとめと振り返り

【学習の目標】　本演習のまとめと振り返りを行う。
【学習の内容】　前半で本演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。
【キーワード】　企画力、論理構成・展開力、コミュニケーション力
【学習の課題】　本演習の成果を報告すること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】　資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。

1．科目名（単位数）	人間環境学特論　（2 単位）	名古屋	3．科目番号	EDMP5371
2．授業担当教員	鈴木　路子・宋暁鈞・石﨑　達也			
4．授業形態	講義、ディスカッション、機器による環境測定・生体計測		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	・「衛生学」を修得していることが望ましい ・「国際保健学特論」との関連性が高い			
7．講義概要	本講義は、人間の発育、生活生存と各種環境問題（空気・水・光・音・植生・生態系）との相互作用を自然科学として把握するとともに、教育人間学の観点から「人間」と「環境」に着目した思想を再解釈し、自己実現能力と自己ケア能力の育成を目指すものである。 本講義は、環境適応能力の発達を人工温熱環境による歪みとして実証してきた研究者、教育人間学の観点から現代思想を読み解いてきた研究者、そして今日、グローカル・グローバル双方の調査能力が求められていることから実際の調査研究を行なってきた研究者らがオムニバス形式で講義し、臨床教育研究としての「人間環境学」の構築を目指す。 （鈴木）人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応」の概念に関する知見を人間環境教育学の視点から考える。 （宋）地球環境と人間の生理機能、特に内部環境の恒常性との関係を理解するもとで、生活環境に依存する生体の免疫反応を論ずる。そして、生活環境に含まれる健康への有害物質について習得する。 （石﨑）急速な社会変化の中で、「人間」の尊厳や命の尊さが軽視されるおそれがある。このような「人間」の危機を乗り越えるために新たなパラダイム構築が求められている。本講義においては、人間と環境に着目した教育人間学を再解釈することにより、新たなパラダイム構築を目指す。			
8．学習目標	（1）人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解する。 （2）地球環境と人間の生体内部環境との関連性の知識を理解する上で、生体の免疫現象（感染防御機能やアレルギー等）の機序を習得する。そして、学んだ知識を仕事や勉学、また日常生活に応用できる能力を培うことを目指す。 （3）先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識の習得を目指す。 （4）本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることを目指す。			
9．アサイメント （宿題）及びレポート課題	（リーディング・アサイメント）テーマごとに配布された資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。 （ライティング・アサイメント）本講義はオムニバス形式で開講するため、テーマごとに担当教員から、異なる形式のレポート課題の提出を求められる。			
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】 （鈴木）鈴木路子著『人間環境教育学』建帛社、2017 年。 鈴木路子編著『人間環境・教育福祉論』光生館、2007 年。 （宋）配布資料を用いる。 （石﨑）資料は適宜、配布する。資料を整理するファイル等を用意すること。 【参考書】 （鈴木）鈴木路子・真野喜洋編『教育健康学』ぎょうせい、2010 年。 （宋）　鈴木郁子『優しい環境生理学』錦房　2019 年。 （石﨑）吉田敦彦『ホリスティック教育論』日本評論社、1999 年。			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	【評価の規準】 （1）人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解することができたか。 （2）環境変化に依存する生体の仕組みの機序を理解するもとで免疫現象(感染防御機能やアレルギー等)を習得する。そして、学んだ知識を仕事や勉学、また日常生活に応用できる能力を培うことができたか。 （3）先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を習得することができたか。 （4）本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることができたか。 【評価方法】 ・成績評価は①授業態度(30%)②課題レポート(40%)③研究発表(30%)の成果によって決められる。 ・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12. 受講生への メッセージ	（鈴木）現代の子どもの健康課題を解決していく手がかりを、環境適応能力の立場から探求し、よりよい人間の生命生存について共に考える場に、意欲を持って取り組むことを期待したい。 （宋）本講義では、人間と環境を一体化した内面の充実と環境刺激をどう取り込むかにかかってくることも探索の必要がある為に、興味を持って取りいれた授業をしたい。自らの積極的に発表・討議することを期待している。 （石﨑）大学院では「先行研究の読解力」「論理的思考力」「学術的文章の作成力」を鍛えることが求められている。自らの研究論文作成に向け、講義に受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら進んで文献・資料収集、調査研究を行うなど、試行錯誤しながら学びを深めてほしい。			
13. オフィスアワー	鈴木路子：事前にアポイントをとってください E-mail:m-suzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宋暁鈞：授業のない時間帯に、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。 石﨑達也：事前にアポイントをとってください E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】				
1．テーマ	オリエンテーション～人間環境教育学への誘い～　（鈴木）			

【学習の目標】　人間環境学特論の全体像を把握すること。
【学習の内容】　講義内容・講義の進め方・学習の仕方の説明と人間環境教育学の概要を説明する。
【キーワード】　人間の発育、生活生存と各種環境問題、地球環境と人間の生理機能、人間環境教育学
【学習の課題】　講義内容をふまえ、自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】オムニバス形式の講義であるため、初回に本講義の流れ、特徴を理解すること。

２～４.テーマ	人間環境教育学概述（鈴木）

【学習の目標】　人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。また、未来に向かう人生設計を行い、国際的に課題となっている地球規模の環境問題への各自の役割を認識し、実践行動できる技術を身に着けよう。進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶこと。
【学習の内容】　（１）温度適応能力の発達に及ぼす影響や人間がある地域環境で暮らすということの意味について、インドネシアでの研究成果をもとに考察を深める。
（２）健康教育の現代的課題として、都市化・人工化とアレルギー反応（アトピー性皮膚炎や喘息）の問題について、各種データをもとに考察を深める。
（３）大気汚染・水質汚濁・地球温暖化による影響と環境測定技法を紹介する。
【キーワード】　生育環境, 気象条件, 寒冷血管反応, 局所性耐寒性テスト, アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

５．テーマ	生活環境と人間の生理機能（宋）

【学習の目標】　人間はその成長過程で受けた自然環境刺激によって、生理学的適応能力を獲得する。生体の内部環境の恒常性、酸素とエネルギーを身体に取り組み仕組みについて理解する。
【学習の内容】　（１）細胞・体液の組成、生体恒常性の調節について理解する。
（２）酸素を身体に取り組みの機序について理解する。
（３）エネルギーを身体に取り組みの機序について理解する。
（４）酸素とエネルギーに依存する脳の生命活動について理解する。
【キーワード】　生活環境,身体の内部環境、細胞と体液、酸素、エネルギー、脳の生命活動
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「優しい環境生理学」、鈴木郁子、出版社「錦房」2019 年
【学習する上での留意点】人間の生理機能と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

６．テーマ	環境微生物：人間存在を支えるミクロの生物と病原性微生物（宋）

【学習の目標】　人と病気の歴史は、人と微生物の闘いで始まり、現在も続いているのである。地球環境中に人間存在を支えるミクロの生物と病原性微生物の特徴を理解するもとで、微生物に対処する知恵を絞り、科学的思考を養う訓練をしよう。
【学習の内容】　（１）生物圏の仕組みと微生物について理解する。
（２）病原性微生物：①病原体の存在、②感染経路の存在、③感受性者の存在の３つが同時に揃っていることである。微生物に負けずに健康を維持する為に、その要因を断ち切る方法について理解する。
（３）日本における微生物感染症の実態について理解する。
（４）世界における微生物感染症の実態について理解する。
【キーワード】　微生物、病原性微生物、感染経路、感受性者、感染症。
【学習の課題】　病原性微生物の種類、感染経路の存在、感受性者の存在の３つが同時に揃っていることが重要である。微生物に負けずに健康を維持する為に、その要因を断ち切る方法を把握する。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「環境微生物学入門」、瀬戸昌之、出版社「朝倉書店」2006 年
【学習する上での留意点】感染症及び感染症の原因となる病原微生物についての知識を得る。感染制御の実際についても学ぶ。

７．テーマ	生活環境に依存する生体の免疫反応①：感染防御機能。自己を守る為の生理機序を理解する（宋）

【学習の目標】　生活環境に依存する生体の免疫反応は、いろいろな細胞がさまざまな手段を駆使して働いている生体防御の為の複雑なシステムである。微生物や寄生虫等の感染に対して、抵抗力と防御力を与えるのが免疫系である。感染性の病原体に対する免疫系の対応は、自然免疫システムと、獲得免疫システムがある。免疫系の基本的システムを習得する上で、生体防御システムの知識を深める。
【学習の内容】　（１）免疫防御機構の特徴（自然免疫と獲得免疫）について理解する。
（２）獲得免疫の機序：液性免疫と細胞性免疫の仕組みについて理解する。
（３）病原性微生物感染と免疫反応について理解する。
【キーワード】　自然免疫、獲得免疫、自己、非自己、抗原、抗体、補体。
【学習の課題】　有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス（HIV：エイズの原因ウイルス）等に対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「病気が見える⑥：免疫・膠原病・感染症」、医療情報科学研究所編集、出版社「メディックメディア」2015 年
【学習する上での留意点】抗体は単独で細菌（やウイルス）を傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。

８．テーマ	生活環境に依存する生体の免疫反応②：アレルギーと免疫不全（宋）

【学習の目標】　特異的免疫にアレルギー等の生体にとって有害な免疫反応を惹起させる現象があることについて理解を得る。
【学習の内容】　（1）アレルギーの概念：過剰な免疫反応を惹起する機序を理解する。
（2）アレルギーの原因物質と分類：アナフィラキシー（ショック）について理解する。
（3）先天性免疫不全と後天性免疫不全について理解する。
【キーワード】　アレルギー、アレルゲン、IgE 抗体、肥満細胞、アナフィラキシー。
【学習の課題】　アレルギーの発現においては、アレルゲンに対して産生された IgE 抗体、肥満細胞及びアレルゲンの３者によってケミカルメディエーターを放出させることを把握する。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「病気が見える⑥：免疫・膠原病・感染症」、医療情報科学研究所編集、出版社「メディックメディア」2015 年
【学習する上での留意点】有害な免疫反応の結果として発現するアレルギーと自己免疫疾患は異なる機序に基づくことを理解する。

9．テーマ	生活環境と人間の生命の営み：免疫系と神経・内分泌系及びその他の臓器細胞系との関係（宋）

【学習の目標】　免疫系と神経・内分泌系は密接に連携しており、ストレスが免疫系の働きに影響を及ぼすこと、さらに免疫系が消化器系、循環器系、泌尿器系などの細胞を傷害することについて理解を得る。
【学習の内容】　脳がストレスを感知した場合に、神経・内分泌系の作用によって免疫機能の低下を招くこと、一方免疫系が他の臓器細胞に傷害を与える現象を臓器別に解説する。
【キーワード】　ストレス、副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）、副腎皮質ホルモン、ノルアドレナリン、アセチルコリン
【学習の課題】　精神的なストレスが引き金となって各種のホルモンを分泌させ、その結果免疫系に影響を及ぼすことを把握する。さらに免疫系が各種の臓器細胞を傷害することを理解する。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「優しい環境生理学」、鈴木郁子、出版社「錦房」2019 年
【学習する上での留意点】免疫系と神経・内分泌系の関係にはホルモンが比較的複雑に作用するが簡潔に理解すること。

10．テーマ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育人間学（石﨑）

【学習の目標】　教育人間学についての理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】　各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】　臨床教育，ホリスティック教育，人間形成，対人援助，精神性，ケア
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

11．テーマ	教育人間学の観点から「教育」と「地球環境」について考える（石﨑）

【学習の目標】　教育人間学についての理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】　教育と魂・地球規模の目覚め・エコロジーに対する関心
【キーワード】　ホリスティック教育，スピリチュアリティ，地球環境
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

12．テーマ	教育人間学の観点から「人間形成」と「魂」の概念について考える（石﨑）

【学習の目標】　教育人間学についての理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】　各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】　教育と魂，ホリスティック教育，魂に関する宗教的理解・哲学的理解・現代的理解，人間形成
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

13．テーマ	教育人間学の観点から「愛」と「仕事」の概念について考える（石﨑）

【学習の目標】　教育人間学についての理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】　各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】　教育的愛，ホリスティック教育，人間形成，仕事における魂のあり方
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

14．テーマ	「ケア」の教育人間学（石﨑）

【学習の目標】　教育人間学についての理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。
【学習の内容】　各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。
【キーワード】　臨床教育，ホリスティック教育，人間形成，対人援助，精神性，ケア
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】事前配布資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。

15．テーマ	まとめと振り返り

【学習の目標】　本演習のまとめと振り返りを行う。
【学習の内容】　前半で本演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。
【キーワード】　企画力、論理構成・展開力、コミュニケーション力
【学習の課題】　本演習の成果を報告すること。
【参考文献】　授業内で配布する「参考文献一覧」参照
【学習する上での留意点】　資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。

1．科目名（単位数）	認知心理学特論　（2 単位）	池袋	3．科目番号	EDMP5341
2．授業担当教員	原　千恵子			
4．授業形態	講義と演習形式		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	認知心理学は、新たなパラダイムとして 1970 年代に普及した領域である。人の認知過程に焦点をあて基礎的研究をつみあげ実際的な効果をあげてきている。認知心理学で得られた知見は臨床心理学、教育や人の発達に関連し、その発展に寄与している。 本科目では、人間の認知機能、記憶、学習、問題解決、思考など基礎的な知識を先行研究から学び、現実的にそれらが日常生活の中で一般化できるか、つまりどのように日常生活に役立てられているか、また臨床教育や臨床心理学にあらたなパラダイムとして活用されているかについて学ぶ。実際には認知心理学を基礎として発展し、現在心理療法の中心的療法として広く用いられている認知療法の実際について学ぶ。 自己の生き方をみなおし、対象者理解、援助につなげていく。			
8．学習目標	認知心理学の基礎的知識を学び、研究方法、基本概念を理解した上で臨床教育学、臨床心理学への応用がどのようであるかを実際的に把握する。さらに認知療法の新たな展開を自分の問題解決、事例研究に役立てる。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	テキストの内容をまとめ自分の考えを述べる。			
10．教科書・参考書・教材	【教科書】守一雄『認知心理学』岩波書店。 小谷津 孝明 ほか編『臨床認知心理学』東京大学出版会。 箱田祐司『認知心理学』雄斐閣。 【参考書】『講座・認知心理学全 5 巻』東京大学出版会。 D.C パーク・N.シュワルツ編『認知のエイジング　入門編』北大路出版。 森敏昭他編『グラフィック　認知心理学』サイエンス社。 高野陽太郎編『認知心理学 2　記憶』東京大学出版会、1995 年。 市川伸一編『現代の認知心理学 5　発達と学習』北大路書房。 市川伸一『考えることの科学』中公新書。 **安西祐一郎『心と脳　認知科学入門』岩波書店。** 森敏昭編『おもしろ記憶のラボラトリー』北大路書房。 坂野雄二『認知行動療法』日本評論社。 北西憲二『実践森田療法』健康ライブラリー 大野　裕『はじめての認知療法』講談社現代新書			
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 認知心理学は何か、がわかっているか。認知心理学の実際的応用がわかっているか。 ○評定の方法　レポート 40%　日常の授業態度　30%　出席状況　30%			
12．受講生へのメッセージ	認知心理学はあらたな心理学の方法です。自分の生活に生かしてみてください。			
13．オフィスアワー	授業のある時間の前後２～３時間			
14．学習の展開及び内容【学習の目標，学習の課題等】				
1 ～ 3 テ ー マ	認知心理学の全容・歴史と方法			
【学習の目標】　認知心理学の全容を把握する。 【学習の内容】　認知心理学で学ぶことを理解する。 【学習の課題】　序論をまとめる。				
4 ～ 6 .テーマ	記憶			
【学習の目標】　認知心理学が追求した記憶の研究を理解する。 【学習の内容】　どんな研究法の変遷があったか。 【学習の課題】　日常記憶への適用と発展を理解する。				
7 ～ 9 .テーマ	発達と学習			
【学習の目標】　発達と学習における認知心理学の方法を理解する。 【学習の内容】　発達や学習を理解し認知心理学を適応する意味について考える。 【学習の課題】　発達や学習における認知心理学の実際を理解する。				
10～12.テーマ	認知心理学を基礎とした心理臨床　1			
【学習の目標】　認知療法を理解する。 【学習の内容】　認知療法がなぜ効果があるか。 【学習の課題】　認知療法を実践する。				
13～14.テーマ	認知心理学を基礎とした事例研究			
【学習の目標】　神経症レベルの事例の理解 【学習の内容】　不登校、対人関係不安、摂食障害などへの適応事例を学ぶ 【学習の課題】　不適応事例にどのような効果があるかを理解する。				
1 5 ．テ ー マ	まとめと展望			
認知心理学でなにを学び、なにがかわったか、さらになにを学んでいくかをまとめる。				

1．科目名（単位数）	臨床発達支援演習　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5325
2．授業担当教員	【池袋】下出　美智子　【名古屋】石﨑　達也			
4．授業形態	演習・フィールドワーク・ケーススタディ		5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	臨床発達支援特論を受講していることが望ましい。			
7．講義概要	近代科学に基づいた研究には、対象を認識するために、分類・分析・分断するなど、対象を切り分ける作業が不可欠であったが、今日の「発達支援」に関する研究では、子どもの生き生きとしたあり方に働きかけつつ、ともに育み合いながら知る認識の仕方が求められている。その研究方法とは、人と人をつなげる、重ね合わせる、物語るなど、関係性や文脈性を重視する方法である。本演習では、まず、「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討することを通して、その課題と可能性について議論する。次に、療育・保育・教育領域の支援者のあり方に関する先行研究をもとに、子どもと支援者の関係性に着目し、支援者の能力・資質及び態度についての理解を深める。「発達支援」とは、子どもの側からは順調な育ちを促進するもの、支援者の側からは先行研究から学び、既存の理論や理論を応用して、子どもが抱える様々な課題に対応していく過程と言える。個々の子どもが抱えている課題は様々であるため、支援の過程では、支援者は、クライエント（子ども・家族）から学ぶ姿勢が問われることとなる。そこで、援助を深める事例研究の方法を学ぶ。**最終段階として、受講生各自が療育・保育・教育現場を研究する方法論を身につけることを目指す。**			
8．学習目標	1　「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討し、それぞれの長所・短所を説明することができる。 2　療育・保育・教育領域の「支援者」の能力・資質及び態度について理解し、クライアントから学ぶことの重要性について説明することができる。 3　療育・保育・教育現場に赴き、事例研究を行うことができる。 4　「発達支援」に関する学習指導要領や教科書(自国)を資料として、自分の興味・関心に基づいて視点を定め、分析・考察することができる。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	・テーマごとに小レポートを作成すること。 ・本演習では受講者各自が事例を提供することが求められるため、さまざまな療育・保育・教育機関に自主的に足を運ぶこと。（例）特別支援学校の学校公開、学校行事に参加するなど			
10．教科書・参考書・教材	資料は適宜、配布する。資料を整理するファイル等を用意すること。 【参考書】 下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』風間書房、2011 年。 佐藤慶子『五感の音楽―音のない音楽への扉』ヤマハ、2002 年。 木下康仁『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い』弘文堂、2003 年。 鯨岡峻『エピソード記述入門―実践と質的研究のために』東京大学出版会、 2005 年。 Lyn Richards・小林奈美監訳『はじめて学ぶ質的研究』医歯薬出版株式会社、2008 年。 Graham Music, *Nurturing Natures*, Routledge, 2010.（邦訳）ミュージック『子どものこころの発達を支えるもの: アタッチメントと神経科学、そして精神分析の出会うところ』誠信書房, 2016 年。			
11．成績評価の規準と評定の方法	【評価の規準】 1　「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討し、それぞれの長所・短所を説明することができたか。 2　療育・保育・教育領域の「支援者」の能力・資質及び態度について理解し、クライアントから学ぶことの重要性について説明することができたか。 3　療育・保育・教育現場に赴き、事例研究を行うことができたか。 4　「発達支援」に関する学習指導要領や教科書(自国)を資料として、自分の興味・関心に基づいて視点を定め、分析・考察することができたか。 【評価方法】 1　成績評価は①課題報告(40%)、②テーマごとのレポート課題(30%)、③期末レポート課題(30%)の成果によって決められる。 2　院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12．受講生へのメッセージ	「発達支援」に関する研究は、体験に支えられて意義のあるものになります。療育・保育・教育の現場に赴き、子どもと接する活動を積極的に行ってください。			
13．オフィスアワー	下出美智子：事前にアポイントをとってください E-mail:mishimod@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 石﨑達也：事前にアポイントをとってください E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			

14　学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1 ～ 3．テ ー マ	「発達支援」に関する研究方法の理解と見学・調査の準備

【学習の目標】「発達支援」に関する研究方法の長所・短所を理解する。
【学習の内容】「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討することを通して、その課題と可能性について議論する。
【キーワード】研究倫理・質的研究・量的研究・妥当性・信頼性
【学習の課題】見学・調査を依頼する際の倫理、依頼の仕方の基本をふまえた上で、見学・調査に向けた計画書を作成すること。
【参考文献】　『はじめて学ぶ質的研究』
【学習する上での留意点】各自で見学・調査に向けた準備を進めておくこと。

4 ～ 8．テ ー マ	質的研究法を用いた事例研究（ケーススタディ）の準備 – 療育・保育・教育の現場とかかわる

【学習の目標】フィールドワークの技法・作法を学んだ上で、現場に赴き、事例研究に向けたデータを収集する。
【学習の内容】実際の活動場面の VTR を視聴することで「観察記録」の書き方を学んだ上で、実際の療育・保育・教育の現場に赴き、活動し、観察記録を作成する。
【キーワード】参与観察・質問紙調査・インタビュー調査・VTR 撮影

【学習の課題】さまざまな現場・活動場面の違いと共通点に気をつけながら、視聴、見学、調査を行う。
【参考文献】　『はじめて学ぶ質的研究』、『エピソード記述入門　―実践と質的研究のために』『知的障害のある青年達の音楽行為』
【学習する上での留意点】「観察記録」を記述する際には、「GTA」や「エピソード記述」等を参考にすること。

9～13.テーマ	事例の報告・検討と事例研究（ケーススタディ）

【学習の目標】受講者各自が事例報告を行い、その事例について検討した上で、それぞれの事例から援助を深める方法について学ぶこと。
【学習の内容】各自が 20 分程度の事例報告を行った上で、そのテーマに関するグループディスカッションを行う。
【キーワード】現象学的理解・主観的理解・間主観的理解・客観的理解
【学習の課題】一つ一つの事例に対する自らの気づきや発見をレポートにまとめること。
【参考文献】　『はじめて学ぶ質的研究』
【学習する上での留意点】事例報告者は、報告の仕方を十分に工夫すること。一方、参加者は、積極的に質問を投げかけること。

14~15.テーマ	まとめとふりかえり

【学習の目標】本演習のまとめとふりかえりを行う。
【学習の内容】前半で本演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点からふりかえりを行う。
【キーワード】企画力・論理構成及び展開力・コミュニケーション力
【学習の課題】本演習の成果を報告すること。
【学習する上での留意点】各自、パワーポイント資料等を作成した上で、指定された時間内に本演習での成果を報告すること。